

## 2026年度 総 会 議事次第

日 時：令和8年8月31日（月）13時30分～（1時間半程度）

場 所：ZOOM会議

- 開会挨拶（統計数理研究所 所長 山下 智志）
- 来賓ご挨拶（文部科学省研究振興局 学術基盤整備室長 山本 武史）
- 参画機関代表挨拶（滋賀大学 学長 竹村 彰通）
- 議 事
  - 1. 新たな統計エキスパート人材育成の取組とコンソーシアム規約の改正について
  - 2. 2025年度事業報告について
  - 3. 2026年度事業計画について
  - 4. 第1期統計学教員育成研修の募集・選考について
  - 5. その他
- 配布資料
  - 資料1 新たな統計エキスパート人材育成概要
  - 資料2 統計エキスパート人材育成コンソーシアム規約改正案（新旧対照表）
  - 資料3 2025年度事業報告
  - 資料4 2026年度事業計画
  - 資料5 第1期統計学教員育成研修の募集概要・選考体制
  - 参考1 2026年度運営委員会の体制
  - 参考2 2026年度総会 参加者一覧
  - 参考3 第5回総会 結果概要

# 新たな統計エキスパート人材育成 概 要

令和8年 8月31日

統計数理研究所  
大学統計教員育成センター

# 前身事業 「統計エキスパート人材育成プロジェクト」 概要と成果

- 目標を大きく超える成果を達成
- これらの成果やノウハウを本事業に最大限に活用

# 数理・データサイエンス・AI人材育成強化に向けた取組の全体像



AI戦略に掲げる数理・データサイエンス・AI人材の育成目標達成に向け、エキスパート、応用基礎、リテラシーの各段階に応じて、施策を推進してきたところ。  
令和3年度予算要求においては、既存の施策の強化に加え、新たに「統計エキスパート人材育成プロジェクト」を立ち上げ、取組を更に強化。

## AI戦略2019 における目標

トップレベル  
100

エキスパート

2,000

応用基礎

250,000  
(理系学生 +  
文系学生の1/3)

500,000  
(大学・高専全員)

リテラシー

1,000,000  
(高校生以上)

## データ関連人材育成プログラム

- データサイエンス等のスキルを習得させる研修プログラムを開発・実施し、キャリア開発を支援
- アカデミアにおける多様な分野の研究者や、コンソーシアムに参加する企業等で活躍する高度人材を育成
- H29年に4コンソーシアム、その後1コンソーシアムを採択

## 数理・データサイエンス・AI教育の全国展開

- 全国的なモデルカリキュラム・教材の開発、教育に活用可能な社会の実課題・実データの収集・整備等
- 6大学を拠点校として設置。更に30大学を協力校・特定分野協力校、61大学を連携校として設置（令和2年8月31日現在）
- 全国の国公立大学等への普及・展開
- 私立大学の取組への支援強化を検討中

課題…統計の教育・研究の中核人材の不足

## 統計エキスパート人材 育成プロジェクト（新規）

統計学の教育・研究のエキスパート人材を育成

- 人材育成プログラムと共同研究により統計学のエキスパートに育成
- 育成された人材が大学等で核となり、統計学や融合領域に係る教育・普及を行う好循環体制を構築
- 統計学を用いた他分野との融合領域の研究振興を図る
- 大学・大学共同利用機関法人等のコンソーシアムを公募により支援

# 前身事業「統計エキスパート人材育成プロジェクト」概要

## コンソーシアム

中核機関・統数研

参画機関・大学等

2年間の研修を3期

大学統計教員育成研修

シニア教員

助教・  
PD等

諸科学分野の  
若手研究者

統計エキスパート  
育成システム

大学統計  
教員

5年間で30名以上

大学院  
生

諸科学分野の  
修士学生

統計  
エキス  
パート

10年間で約500名

# 「統計エキスパート人材育成コンソーシアム」会員

参画機関は、創設時の21機関から、**30機関に拡大**

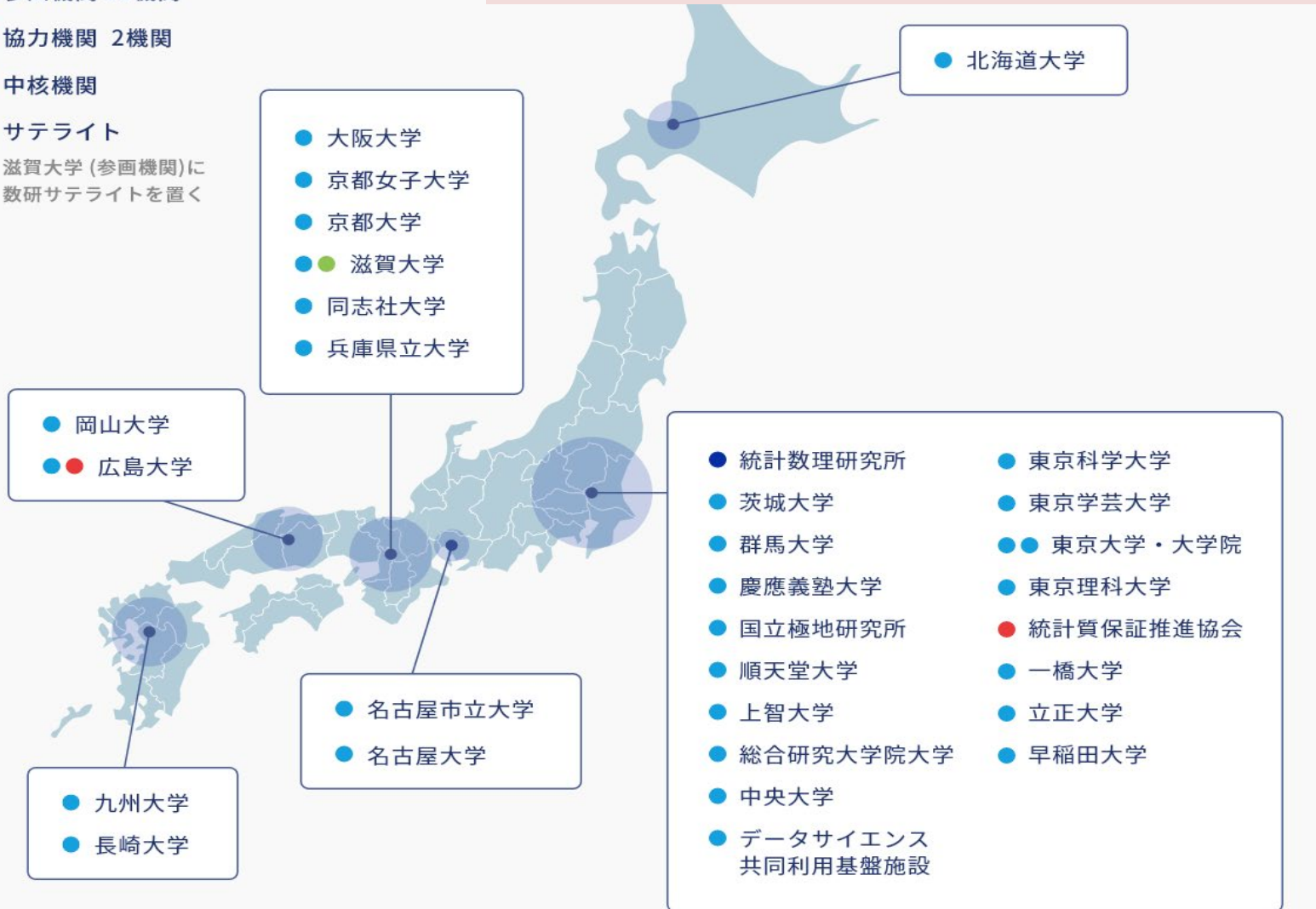
● 参画機関 30機関

● 協力機関 2機関

● 中核機関

● サテライト

滋賀大学 (参画機関) に  
数研サテライトを置く



(2026年3月現在)

# 前身研修「大学統計教員育成研修」スケジュール

## 大学統計教員育成研修 スケジュール

**第1期** : 2021年10月 ~2023年 9月

**第2期** : 2023年 4月 ~2025年 3月

**第3期** : 2024年 4月 ~2026年 3月

※ 参画機関のニーズに応え第4期を実施

**第4期** : 2025年 4月 ~2027年 3月

各期4クール  
(半年ごと)

基礎から発展、  
個別科目へ

| 育成研修  | 2021年度                                                                             | 2022年度 | 2023年度                                                                             | 2024年度                                                                                | 2025年度                                                                                |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------|--------|------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1期研修 |  |        |                                                                                    |                                                                                       |                                                                                       |
| 第2期研修 |                                                                                    |        |  |                                                                                       |                                                                                       |
| 第3期研修 |                                                                                    |        |                                                                                    |  |                                                                                       |
| 第4期研修 |                                                                                    |        |                                                                                    |                                                                                       |  |

# 前身事業「統計エキスパート人材育成プロジェクト」の成果

## プロジェクトの成果

- 【教員育成数】 3期研修合計で、目標30名を大きく超える**38名が研修を修了**  
～ 修了生は、所属大学で講義・研究指導、助教から准教授に昇格などキャリアアップ
- 【エキスパート育成数】 第1期修了生(2023年度)等により、2024年度**1年間に185名**に対して教育・指導を行い、成果を創出  
(今後、所属機関における人材育成状況の把握を継続)
- 【参画機関数】 コンソーシアム設立後に、21 → **30機関に拡大**  
～ 北海道大学から九州大学まで、幅広く全国の大学等が参画  
※「数理・データサイエンス・AI教育の全国展開の推進」拠点校(10)、「データ関連人材育成プログラム」拠点校(3)  
「大学・高専機能強化支援事業」ハイレベル枠選定校(5) 含む
- 【研修実績】 参画機関から高評価: 人材育成法のモデルケースとなった、教員として大きく成長した、統計教育の重要性について大学内で共通認識が得られた、など  
**新たな研究成果:** 多様な専門分野の研修生の交流、専門分野への新たな統計手法の適用などを通じて、研修生は自ら新たな研究成果を創出し、社会に貢献

### <統計学との融合による研究成果例>

- 「細線化と画素色調解析技術を用いた、眼底写真における動静脈交叉現象の自動検出」  
研究者: 助教 博士(薬学) 研究分野: 物理系薬学 / 薬理系薬学  
・研修生が有する医学的な知見(薬学)と統計学の融合により、眼底画像処理装置に関する特許を申請
- 「消費者の幸福度を分析するアルゴリズム・マーケティングのアプローチ: 顧客ロイヤルティに心理的要因を組み込む」  
研究者: 講師 博士(情報科学) 研究分野: 社会システム工学 / 安全システム  
・企業の利益と消費者の幸福度を結びつける心理的ロイヤルティに着目し、某百貨店の調査データを分析することで、消費者の幸福度に影響を与える具体的な変数を特定するアルゴリズム・マーケティング手法を提案  
(Journal of Retailing and Consumer Services 84 (2025) 104238))

## 大学統計教員育成研修 修了生・研修生の専攻分野（学位）

| 専攻分野       | 第1期 | 第2期 | 第3期 | 第4期 | 合計 |
|------------|-----|-----|-----|-----|----|
| 理 学        | 1   | 2   | 5   | 3   | 11 |
| 医 学        | 0   | 2   | 1   | 1   | 4  |
| 薬 学        | 1   | 1   | 1   | 0   | 3  |
| 保健学        | 1   | 1   | 0   | 0   | 2  |
| 医療マネジメント学  | 0   | 0   | 1   | 0   | 1  |
| 情報学・学際情報科学 | 3   | 3   | 1   | 0   | 7  |
| 文化情報学      | 1   | 0   | 0   | 0   | 1  |
| 経済学        | 2   | 1   | 0   | 2   | 5  |
| 文 学        | 0   | 1   | 0   | 0   | 1  |
| 教育学        | 0   | 0   | 1   | 0   | 1  |
| 工 学        | 3   | 1   | 1   | 1   | 6  |
| 学術・総合学術    | 0   | 0   | 1   | 3   | 4  |
| 数理科学       | 0   | 1   | 0   | 1   | 2  |
| 農 学        | 0   | 0   | 1   | 0   | 1  |
| 合 計        | 12  | 13  | 13  | 11  | 49 |

医療系：10名  
情報系：8名  
社会科学系：7名

## 大学統計教員育成研修 修了生のキャリアアップ

### 【第1期修了生】

| 研修開始時(2021/10)      | 現在(2026/4)     |
|---------------------|----------------|
| 東京医科歯科大学 助教         | 東京科学大学 講師      |
| 兵庫県立大学 助教           | 関西大学 准教授       |
| 同志社大学 助教            | 京都女子大学 講師      |
| 群馬大学 助教             | 群馬大学 准教授       |
| 岡山大学 テニストラック・ジュニア助教 | 長崎大学 テニストラック助教 |
| 東京理科大学 嘱託助教         | 東京理科大学 講師      |
| 滋賀大学 助教             | 大妻女子大学 講師      |
| 統計数理研究所 助教          | 千葉大学 准教授       |
| 長崎大学 助教             | 鹿児島大学 特任准教授    |

### 【第2期修了生】

| 研修開始時(2023/4) | 現在(2026/4)   |
|---------------|--------------|
| 中央大学 助教       | 中央大学 特任准教授   |
| 一橋大学 特任助教     | 一橋大学 准教授     |
| 順天堂大学 助教      | 順天堂大学 講師     |
| 滋賀大学 助教       | 滋賀大学 講師      |
| 同志社大学 助教(有期)  | 武庫川女子大学 専任講師 |
| 九州大学 助教       | 九州大学 准教授     |

## 前身事業「統計エキスパート人材育成プロジェクト」の評価

- 第19回日本統計学会「統計活動賞」を受賞（2023.5）  
～「プロジェクトが目指す人材育成の歯車が円滑に回りだせば、  
「統計教員の確保」という大きなあい路も確実に解消される方向に進むことが期待され、  
広く統計学及び統計の分野において高く評価し得る活動」
- 「大学における数理・データサイエンス・AI教育の中での統計科学の教育」  
（2023.9 日本学術会議 見解）  
～「学士課程及び大学院教育が必要とする統計教員が極めて不足しており、教員の育成が喫緊の課題。統計エキスパート人材育成事業を大幅に拡大すべき」と指摘  
「学士課程及び大学院教育が必要とする統計教員の育成」が今後必要であると提言
- 文部科学省中間評価 ～最高位「S」を取得（2024.2 文部科学省HP公表）  
～「当初の計画を超える進展があり、事業を継続することでさらに優れた成果が期待」  
【留意事項】
  - 統計エキスパート人材を、ニーズに対応しつつ多様な分野で育成する取組は、  
本事業終了後も継続する必要があり、・・・事業実施体制も含めて検討すること。

# 「AI時代を支える統計エキスパート 人材育成」(StatAxis)

Training Experts in Statistical Sciences for the AI Era

## 概 要

～ AI時代を拓く統計という基軸 ～  
Statistics : The Axis of the AI Era

(高度統計人材育成 強化拠点形成事業)

- 統計学教員等の統計エキスパート人材の育成を加速
- 中核機関と参画機関の間の協働体制を強化

# 現在の「統計エキスパート人材育成」喫緊の課題

この5年間に環境が大きく変化 ⇒ 統計学教員等のニーズが更に急増

➤ 「データサイエンス系学部・学科」の新設ラッシュ

～ DS系学部・学科の設置校：4大学（2020年度）⇒ 40大学（2025年度）

➤ 「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」認定校の急増

～ 「リテラシーレベル」認定校：0大学（2020年度）⇒ 490大学（2026年4月）

➤ 組織整備が進む一方、全国の約800国公立大学のうち517校には、**統計科学を専門とする教員が不在**

～ AI戦略では、全大学生のうち約半数にデータサイエンス応用基礎レベルの知見が必要

➤ **大学教員の求人公募数**：「統計」(128件)は、「機械学習」(37件)や「情報科学」(67件)を大きく上回る  
(JREC-IN2025年4月時点)

統計学教員の求人は、社会科学系が公募全体の約半数  
(DS系に限らない幅広い学術分野で高いニーズ)

⇒ データサイエンスの基盤となる**統計学教員などの高度な統計人材の不足は、相当深刻**

※ 「骨太方針 2025」（2025年6月 閣議決定）

～ (4)先端科学技術の推進 「先端技術に対応した人材育成（**統計人材の育成**を含む）の高度化」



現在の供給ペースでは、不足解消は困難

中核機関と参画機関の協働体制を強化 ⇒ 不足する統計学教員等の育成を加速  
これを核に、高度な統計人材を安定的に輩出する好循環システムの確立が必要

# 喫緊の課題に対応 ～ 前身事業から新規事業へ

## 前身事業

【中核機関】 研修(2年間)を通じ、若手研究者を大学統計教員に育成

【参画機関】 上記教員を核に、修士学生を統計エキスパートに育成

現行の人材育成ペースでは  
急増する統計学教員等のニーズに  
対応できない

優良事例やノウハウの横展開には  
中核機関だけの取組では限界

## 新規事業

### 人材育成の加速

**期間1年間の研修**の導入  
(統計学教員の育成)

1年間の育成研修を基本とし、  
希望者等には更に1年間の  
フォローアップ研修を実施

**短期研修プログラム**の導入

大学等の統計学担当教員、  
社会人データ活用指導者層 等  
を対象とした短期研修を実施

### 参画機関の貢献拡大

**大学等拠点モデル**の構築

大学等を中心とする取組を  
モデルケースとして、人材  
育成の拠点を全国に拡大

# 統計学教員・統計エキスパートの育成を加速

## コンソーシアム

中核機関（統数研）  
協働機関（滋賀大）

参画機関・連携機関  
（大学等）

AI時代を支える  
新たな研修プログラム開発・実施

1年間の研修を4期

統計学教員 育成研修

シニア教員

※ 希望者等には更に1年間の  
フォローアップ研修

助教・  
PD等

統計エキスパート  
育成システム

統計学  
教員

各期 20名以上

大学院  
生等

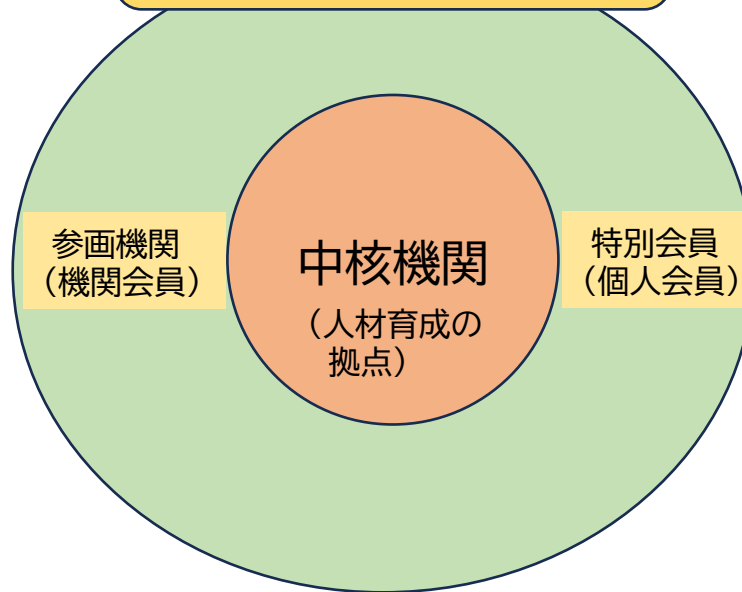
統計  
エキス  
パート

毎年 500名程度  
（2033年度～）

○ このほか、短期研修プログラム  
（データサイエンス・AIの基盤としての統計学）

# 統計エキスパート人材を安定的に輩出 ～ 参画機関の貢献拡大 ～

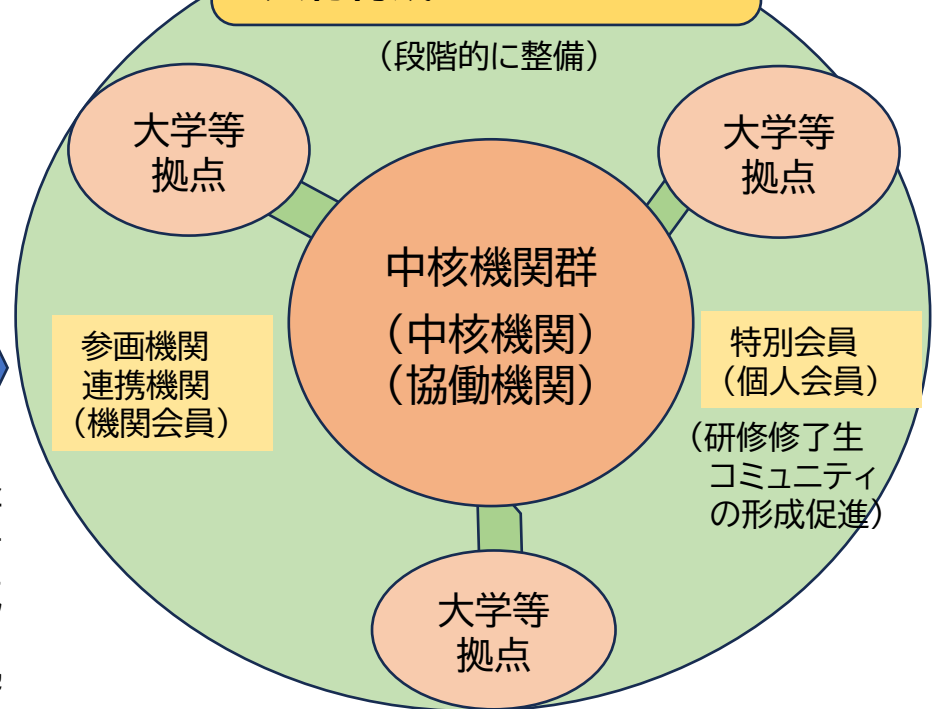
## 現在の 統計エキスパート 人材育成コンソーシアム



数理・DS・AI教育強化拠点コンソーシアム、データ  
関連人材育成コンソーシアムの主要大学が参画

人材育成の拠点を  
分散・拡大

## 今後の 統計エキスパート 人材育成コンソーシアム



※ 大学等拠点の例: 産学連携モデル、社会科学モデル、  
地域連携モデル、学部横断モデル 等

2026・2027年度

### 【事業推進基盤の形成】

- ・メンター・チューター教員 確保
- ・新研修プログラム等 開発実施
- ・大学等拠点モデル 調査・実証研究

2028・2029年度

### 【工程表の策定・事業推進】

- ・中間評価 ⇒ 工程表 策定
- ・新研修プログラム等 改善実施
- ・大学等拠点モデル 調整・実践

2030年度

### 【人材育成ネットワークの展開】

- ・大学等拠点モデル 整備
- ・拠点モデルを核に人材育成エコシステム 構築

2031年度～

### 【エコシステム】

- ・エコシステムによる人材育成 推進

# AI人材の育成・確保（文部科学省施策）

2026年3月現在



「AI法」（令和7年5月成立、9月全面施行）及び「人工知能基本計画」（令和7年12月閣議決定）に基づき、**人とAIが協働する社会の実現**に向けて、**AIを使い、AIを創るAI人材の育成・確保**に加え、人とAIの役割分担を模索しながら、**AI社会を生き抜く「人間力」を向上できる環境を構築**する。



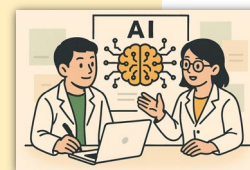
## 人工知能基本計画 ～「信頼できるAI」による「日本再起」～（令和7年12月23日閣議決定）

AIの利活用や開発を担うAI人材の育成・確保はAI社会実現のために必要不可欠である。特に具体的な付加価値を創出するためにも、AIに関連する基礎的・学術的な知見・知識を初等中等教育段階から向上させていくとともに、融合され得る産業等、様々な知見・知識についても広く有した人材の育成が重要となる。このため、国は主導して質・量ともにAI人材の育成・確保に取り組む。（第3章第4節「AI社会に向けた継続的変革」より）

### AI研究開発 能力の強化 (若手研究者等)

#### AI・半導体の研究開発等に係るエンジニアや研究者などの育成・確保等 【計画3章4節(3)②③】

- ▶ **生成AIモデルの透明性・信頼性の確保に向けた研究開発拠点形成** ▶ **AIPプロジェクトにおける人材育成・ネットワーク機能の強化**  
次世代生成AIモデル構築の確立に向けた一連の知見と経験をAI研究者、エンジニア等に広く共有。理研AIPセンターにおいて国内外の研究機関等の連携・人材育成を強化し、我が国のAI研究を牽引。
- ▶ **次世代X-nics半導体創成拠点形成事業**  
省エネ・高性能な半導体創成に向けた新たな切り口による研究開発と将来の半導体産業を牽引する人材の育成を推進。



### AIスキル獲得 (高等教育)

#### AIの利活用に係る人材の育成・確保 【計画3章4節(3)②】

- ▶ **高度統計人材育成強化拠点形成事業**  
データサイエンス(DS)・AIの基盤となる統計学について、大学等における教育・研究の中核となる統計人材の育成に係る取組を支援。
- ▶ **デジタルに掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業**  
人文・社会科学系等の分野を専攻する研究科等において、専門分野に数理・DS・AI教育を掛け合わせた学位プログラムの構築を支援。
- ▶ **数理・データサイエンス・AI教育の推進**  
大学や高専が実施する数理・DS・AIに関する優れた教育プログラムを政府として認定し、取組を促進。コンソーシアム活動を通じて普及・展開を促進。

#### AIの進展に対応したリ・スキリング支援 【計画3章4節(3)④⑤】

- ▶ **産学連携リ・スキリング・エコシステム構築事業**  
大学等が地域の産学官や企業と連携し、人材ニーズを踏まえた教育プログラムを開発・実施。
- ▶ **専修学校による地域産業中核的人材養成事業**  
専修学校が自治体や企業等と連携し、AIの活用等のデジタル技術等を用いたアドバンスト・エッセンシャルワーカー創出のためのリ・スキリングを含めた教育コンテンツ・カリキュラムを開発。



### AIリテラシー向上 (初等中等教育)

#### 情報活用能力の向上を図るなど、AI時代にふさわしい教育の推進 【計画3章4節(3)⑦、(4)②】

- ▶ **生成AIの活用を通じた教育課題の解決・教育DXの加速**  
生成AIパイロット校を通じた利活用事例の創出、教育課題に特化した生成AIの利活用に関する実証研究の実施。
- ▶ **AIを活用したグローバル人材育成のための英語教育強化事業**  
地域の魅力発信等に向けた会話練習量の増加や家庭学習におけるAI活用等、AIを英語の授業等で活用するモデルを構築。
- ▶ **学習指導要領改訂を見据えた情報活用能力の抜本的な向上**  
中学校技術科教師の指導力向上のための研修の充実支援、情報モラル教育の推進等を実施。



※ AI人材の育成・確保に資する主な施策を掲載。その他の関連施策として、高校段階における理数系人材育成を支援するとともに、大学や専修学校における理系転換等を推進。

出典：「AI for Scienceの推進に向けた基本的な戦略方針（2026.3.31文部科学省決定）」参考資料

# (参考) AIと統計学の関係

## AIとは統計学である



### <全文要約>

- ① AIの正体 ➡ パターン認識 + 確率予測 = 統計
  - ・ AIは思考しているのではない
  - ・ データのパターンから予測している
- ② なぜ統計が重要か ➡ そのまま信じず評価が必要
  - ・ データ依存（偏れば結果も偏る）
  - ・ 確率的（常に正しいとは限らない）
  - ・ 相関は得意・因果は苦手
- ③ 統計的思考 ➡ 疑い・評価する視点
  - ・ データは適切か（質・偏り）
  - ・ 結果はどれくらい確実か条件が変わるとどうなるか
- ④ AIの限界 ➡ 信頼範囲の見極めが必要
  - ・ 未知の状況に弱い
  - ・ 因果関係の理解が弱い
  - ・ 不確実性を十分示せない
- ⑤ 結論 ➡ AIとは統計学である (AI is Statistics)
  - ・ AI = 統計による予測エンジン
  - ・ 正しく使うには統計理解が不可欠

AI is statistics. Recognising that helps us use it responsibly.

**AIとは統計学。それを認識することで、責任を持って活用できる**

[AI-is-statistics-final.pdf](#)

The Royal Statistical Society 2 March 2026

Guest blog by Donna Phillips, Chair of the RSS AI Task Force 抜粋

# 統計エキスパート人材育成コンソーシアム 運営体制

## 中核機関群

### 中核機関群連絡会議

(中核機関群の連絡調整)

### 協働機関

滋賀大学  
データサイエンス学部・  
データサイエンス研究科

統計数理研究所滋賀大学  
サテライトの管理運営  
〔中部・京阪神地域の中核的な  
育成拠点、育成研修の実施〕

大学等拠点モデル構築に  
向けた調査研究・実証  
〔企業連携基盤を活かした自走  
型教員育成サイクル等を検討〕

### 大学等拠点モデル検討チーム

〔学長のリーダーシップの下、  
DS研究科所属教員及び育成研  
修修了者により構成〕

### 中核機関

統計数理研究所  
大学統計教員育成センター

〔総括推進組織〕

#### 統括部

〔コンソーシアム  
の運営等〕

#### 研修部

〔新研修プログラ  
ムの開発・実  
施・改善等〕

統計数理研究所 統計思考院

〔短期集中型研修プログラ  
ムの開発・試行・実装〕

### 中核機関 事業運営会議

〔所長のリーダーシップの下、  
事業運営全体を管理し、  
所内連携〕

## 総 会

事業基本方針の審議・  
承認、情報共有

## 運営委員会

コンソーシアム運営に  
係る重要事項の審議、  
中核機関群への助言等

（幅広い意見を反映  
したコンソーシアム  
運営）

（ニーズ把握への協力、  
コミュニティ拡大など、  
コンソーシアム機能の  
充実）

（若手研究者コミュニティ  
の形成促進

: 統数研客員称号・  
成果発表会・Slack 等）

## 参画機関

### 全国の大学等

- 育成研修への研修生  
の派遣
- 育成研修・FU研修  
への支援
- 統計エキスパート  
人材育成システムの  
構築・推進
- 大学等拠点モデル  
整備への協力

## 連携機関

### 全国の大学等

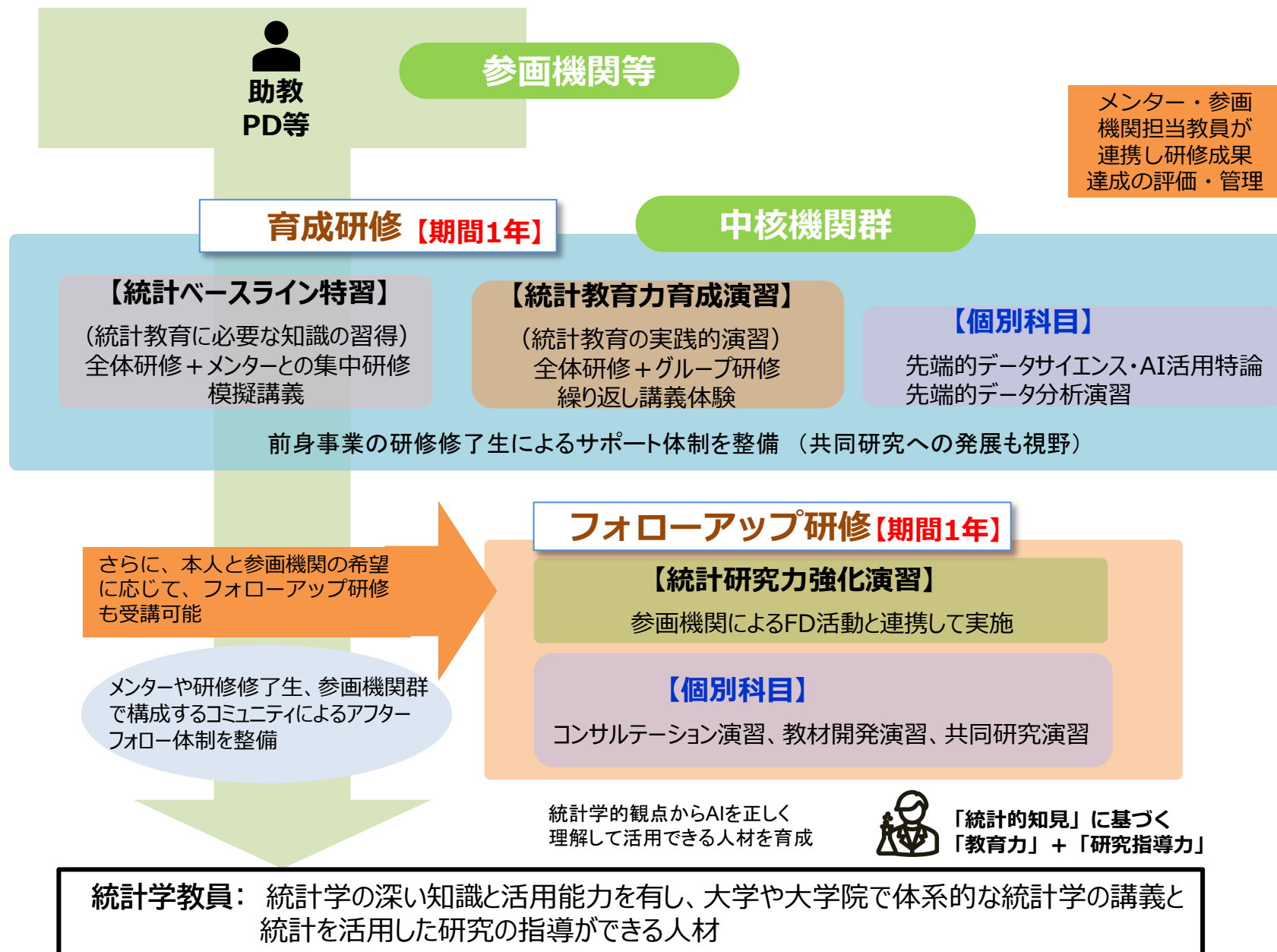
- 育成研修への研修生  
の派遣検討
- 短期集中型研修プロ  
グラムの開発・試行  
への協力・参加
- 統計エキスパートの  
質保証の支援

## 特別会員

### 研修修了者

- 〔コンソーシアムによる  
各種支援〕

# 統計学教員の育成を加速（期間1年を基本とする研修プログラム）



# 育成研修・フォローアップ研修 ～基本的考え方～

## 1. 主たる目的は統計学教員の育成

～育成対象者の専門分野を尊重、統計学者の育成ではない

## 2. 修士課程学生に対する講義・指導を可能にする

～「基本的な統計学の講義」・「発展的な統計学の講義」(育成研修)  
「専門分野と統計学が融合した講義」(FU研修)

## 3. 研修の基本は講義体験の繰り返しと達成度の確認

～ 達成度WG（育成対象者・所属機関教員・正副メンター等）  
⇒ 育成対象者ごとに研修の進捗状況・達成度を確認

## 4. 育成対象者の研修・研究計画を、半年ごとに策定

～ 半年間のクールごとに研修を管理  
シニア教員は、全員で互いに協力して研修をサポート  
研修修了生は、チューター教員として研修生をサポート

## 5. 大学教員の育成方策の実証

～模擬講義を通じて、大学教員の能力開発の方策を模索

# 育成研修・フォローアップ研修 ～ 科目・カリキュラム

半年間のクールごとに、「基礎科目」を全員が受講、  
「個別科目」をできるだけ多く選択して受講（オンライン研修が中心）

## 基礎科目 ～ 必須科目

### 育成研修

#### （基本1）「統計ベースライン特習」

- ・全体研修：全員参加の模擬講義体験（講義・聴講）を通じて教育
- ・グループ研修：メンターごとの個別指導～統計学の知識向上（月数回、各2時間程度）

#### （基本2）「統計教育力育成演習」

- ・全体研修：全員参加の公開模擬講義体験（講義・聴講）
- ・グループ研修：メンターごとの個別指導～シラバス・教材作成（月数回、各2時間程度）

### FU研修

#### （基本3）「統計研究力強化演習」

- ・所属参画機関でのFD活動と連携～学部生・修士学生に対する講義など

## 個別科目 ～ 選択科目

### 育成研修

### FU研修

#### 【短期個別】（2～3か月程度）

##### （個別1）先端的データサイエンス特論

- ・因果推論、機械学習、時系列解析などのトピックス
- ・各トピックスごとに10回程度・各90分

##### （個別2）先端的データ分析演習

- ・Python・Rの基礎学習、同発展学習などのトピックス
- ・各トピックスごとに5～6回程度・各90分

### FU研修

#### 【長期個別】（1年以上の期間が必要）

##### （個別3）コンサルテーション演習

- ・官庁・企業等からの依頼に応じたコンサルテーション

##### （個別4）教材開発演習

- ・所属参画機関用の教材等を作成

##### （個別5）共同研究演習

- ・他分野の研修生等との交流を通じて行う共同研究

※ FU研修＝フォローアップ研修

# 育成研修・フォローアップ研修 ～ スケジュール

|     |                     |                     |
|-----|---------------------|---------------------|
| 第1期 | 育成：2026年10月～2027年9月 | FU：2027年10月～2028年9月 |
| 第2期 | 育成：2027年10月～2028年9月 | FU：2028年10月～2029年9月 |
| 第3期 | 育成：2028年10月～2029年9月 | FU：2029年10月～2030年9月 |
| 第4期 | 育成：2029年10月～2030年9月 | FU：2030年10月～2031年3月 |

※ 半年ごとに研修を管理～基礎から発展へ・個別科目へ

| 研 修   | 2026年度                                                                                  | 2027年度                                                                                | 2028年度                                                                                 | 2029年度                                                                                   | 2030年度                                                                                   |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1期研修 | 育成     |                                                                                       |                                                                                        |                                                                                          |                                                                                          |
|       | FU 試行  | FU  |                                                                                        |                                                                                          |                                                                                          |
| 第2期研修 |                                                                                         | 育成  |                                                                                        |                                                                                          |                                                                                          |
|       |                                                                                         |                                                                                       | FU  |                                                                                          |                                                                                          |
| 第3期研修 |                                                                                         |                                                                                       | 育成  |                                                                                          |                                                                                          |
|       |                                                                                         |                                                                                       |                                                                                        | FU   |                                                                                          |
| 第4期研修 |                                                                                         |                                                                                       |                                                                                        | 育成  |                                                                                          |
|       |                                                                                         |                                                                                       |                                                                                        |                                                                                          | FU  |

- 各期20名以上の統計学教員を育成（これに必要な11名のメンターを確保）
- 各統計学教員が所属大学等で1人当たり3～4名の統計エキスパートを育成

# 2026年度 育成研修・フォローアップ研修～メンター

| 氏 名    | 最 終 学 歴・学 位                              | 主 な 職 歴・社 会 貢 献                                               |
|--------|------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| 赤穂 昭太郎 | 東京大学 大学院工学系研究科 計数工学専攻・工学博士               | 産業技術総合研究所 上級主任研究員・同人工知能研究センター、理化学研究所 深層学習理論チーム客員研究員           |
| 岩崎 学   | 東京理科大学 大学院理学研究科 数学専攻・理学博士                | 横浜市立大学 データサイエンス学部 教授・学部長。統計関連学会連合 理事長、日本統計学会 会長・理事長、応用統計学会 会長 |
| 越智 義道  | 米国ワシントン大学 大学院生物統計学科修了・学術博士               | 大分大学 理工学部 教授・学部長。日本計量生物学会 理事、日本計算機統計学会 評議員、応用統計学会 評議員         |
| 折笠 秀樹  | 米国ノースカロライナ大学 大学院生物統計学科修了・学術博士            | 富山大学 医学部 教授。日本臨床薬理学会 評議員、日本計量生物学会 理事・評議員、応用統計学会 評議員           |
| 国友 直人  | 米国スタンフォード大学 大学院統計学科・経済学研究科修了・統計学修士・経済学博士 | 東京大学経済学部 教授・学部長、明治大学 政治経済学部 教授。日本統計学会 会長、内閣府社会経済研究所 研究員       |
| 栗木 哲   | 東京大学 大学院工学系研究科 計数工学専攻・工学博士               | 統計数理研究所 統計思考院長・教授。横断型基幹科学技術研究団体連合 理事、応用統計学会 副会長、日本統計学会 代議員    |
| 佐藤 俊哉  | 東京大学 大学院医学系研究科保健学専攻 博士課程修了・保健学博士         | 京都大学 大学院医学研究科医療統計学 教授。日本計量生物学会 会長、日本薬剤疫学会 評議員、国際計量生物学会 評議員    |
| 清水 邦夫  | 東京理科大学 大学院理学研究科数学専攻・理学博士                 | 東京理科大学 理学部 教授、慶應義塾大学 理工学部 教授。応用統計学会 会長、日本統計学会 代議員             |
| 神保 雅一  | 東京工業大学 理工学研究科情報科学専攻・理学博士                 | 慶應義塾大学 理工学部 教授、名古屋大学 情報科学研究科 教授。日本統計学会 代議員、応用統計学会 監事          |
| 水田 正弘  | 北海道大学 大学院工学研究科情報工学専攻 博士後期課程修了・工学博士       | 北海道大学 情報基盤センター 教授。日本計算機統計学会 会長、応用統計学会 副会長                     |
| 三輪 哲久  | 東京大学 大学院工学系研究科計数工学専攻・工学博士                | 独立行政法人農業環境技術研究所 生態系計測研究領域長。応用統計学会 副会長、日本計量生物学会 理事             |

## 資料 2

### 統計エキスパート人材育成コンソーシアム規約改正案（新旧対照表）

2026.8.31

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>2021年 8 月31日制定</p> <p>2021年11月19日別表改正</p> <p>2022年7月29日別表改正</p> <p>2022年8月10日別表改正</p> <p>2022年9月21日別表改正</p> <p>2023年4月1日別表改正</p> <p>2023年5月18日改正</p> <p>2023年10月1日別表改正</p> <p>2024年4月1日別表改正</p> <p>2024年9月1日別表改正</p> <p>2024年10月1日別表改正</p> <p>2025年4月1日別表改正</p> <p>2025年8月1日別表改正</p> <p>2026年4月1日別表改正</p> <p><u>2026年8月31日改正</u></p> | <p>2021年 8 月31日制定</p> <p>2021年11月19日別表改正</p> <p>2022年7月29日別表改正</p> <p>2022年8月10日別表改正</p> <p>2022年9月21日別表改正</p> <p>2023年4月1日別表改正</p> <p>2023年5月18日改正</p> <p>2023年10月1日別表改正</p> <p>2024年4月1日別表改正</p> <p>2024年9月1日別表改正</p> <p>2024年10月1日別表改正</p> <p>2025年4月1日別表改正</p> <p>2025年8月1日別表改正</p> <p>2026年4月1日別表改正</p> |
| <p>（名 称）</p> <p>第1条 本コンソーシアムは、「統計エキスパート人材育成コンソーシアム」（以下「コンソーシアム」という。）と称する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                           | <p>（名 称）</p> <p>第1条 本コンソーシアムは、「統計エキスパート人材育成コンソーシアム」（以下「コンソーシアム」という。）と称する。</p>                                                                                                                                                                                                                                |
| <p>（目 的）</p> <p>第2条 コンソーシアムは、その中心的な役割を果たす中核機関<u>及び協働機関から構成される中核機関群</u>並びに参画機関及び<u>連携</u>機関の協働・協力により、文部科学省補助事業「<u>高度統計人材育成強化拠点形成事業</u>」を実施し、我が国の統計エキスパートの<u>安定的な</u>育成を図ることを目的とする。</p>                                                                                                                                                   | <p>（目 的）</p> <p>第2条 コンソーシアムは、その中心的な役割を果たす中核機関並びに参画機関及び協力機関の連携・協働により、文部科学省公募事業「統計エキスパート人材育成プロジェクト」を実施し、我が国の統計エキスパートの育成を図ることを目的とする。</p>                                                                                                                                                                        |
| <p>（事 業）</p> <p>第3条 コンソーシアムは、前条に規定する目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。</p> <p>一 <u>中核機関群による統計学教員育成研修等の人材育成プログラム</u>の実施</p>                                                                                                                                                                                                                           | <p>（事 業）</p> <p>第3条 コンソーシアムは、前条に規定する目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。</p> <p>一 中核機関による大学統計教員育成研修の実施</p>                                                                                                                                                                                                                  |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>二 前号の研修による<u>統計学教員等</u>の育成</p> <p>三 参画機関による統計エキスパート育成システムの構築・<u>推進</u></p> <p>四 前号のシステムによる統計エキスパートの育成</p> <p>五 その他統計エキスパートの育成に必要な事業</p> <p>(会 員)</p> <p>第4条 コンソーシアムは、次に掲げる機関・個人を会員として構成する。</p> <p>一 中核機関 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所</p> <p><u>二 協働機関 中核機関と協働して事業を運営する大学若しくは大学共同利用機関法人又はその研究科、センター等</u></p> <p><u>三 参画機関 大学若しくは大学共同利用機関法人又はその研究科、センター等</u></p> <p><u>四 連携機関 コンソーシアムの目的に賛同し、事業に協力する機関又は事業期間内に参画機関となることが見込まれる機関</u></p> <p><u>五 特別会員 中核機関が実施した大学統計教員育成研修及び中核機関群が実施する統計学教員育成研修</u>を修了し、本コンソーシアムの目的に賛同する個人</p> <p>2 <u>協働機関、参画機関、連携機関</u>及び特別会員は、別表に掲げる機関・個人とする。</p> <p>3 コンソーシアムの目的及び事業に賛同する機関・個人は、<u>中核機関群</u>に申し出、運営委員会の議を経て、新たに会員となることができる。</p> <p>4 会員は、<u>中核機関群</u>と協議して退会することができる。</p> <p>(組 織)</p> <p>第5条 コンソーシアムを運営するため、総会、<u>運営委員会及び中核機関群連絡会議</u>を置く。</p> <p>2 総会は、会員をもって構成し、コンソーシアムの事業及び運営に関する基本的事項を審議する。</p> <p>3 運営委員会は、<u>運営委員会の定める考え方に基づき、中核機関群</u>及びその指名する参画機関</p> | <p>二 前号の研修による大学統計教員の育成</p> <p>三 参画機関による統計エキスパート育成システムの構築</p> <p>四 前号のシステムによる統計エキスパートの育成</p> <p>五 その他統計エキスパートの育成に必要な事業</p> <p>(会 員)</p> <p>第4条 コンソーシアムは、次に掲げる機関・個人を会員として構成する。</p> <p>一 中核機関 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所</p> <p>二 参画機関 大学若しくは大学共同利用機関法人又はその研究科、センター等</p> <p>三 協力機関 教育システム開発、質保証等において事業に協力する機関又は事業期間内に参画機関となることが見込まれる機関</p> <p>四 特別会員 中核機関が実施する大学統計教員育成研修を修了し、本コンソーシアムの目的に賛同する個人</p> <p>2 参画機関、協力機関及び特別会員は、別表に掲げる機関・個人とする。</p> <p>3 コンソーシアムの目的及び事業に賛同する機関・個人は、中核機関に申し出、運営委員会の議を経て、新たに会員となることができる。</p> <p>4 会員は、中核機関と協議して退会することができる。</p> <p>(組 織)</p> <p>第5条 コンソーシアムを運営するため、総会及び運営委員会を置く。</p> <p>2 総会は、会員をもって構成し、コンソーシアムの事業及び運営に関する基本的事項を審議する。</p> <p>3 運営委員会は、中核機関及びその指名する参画機関をもって構成し、コンソーシアムの事業</p> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>をもって構成し、コンソーシアムの事業の実施に関する重要事項を審議する<u>とともに、中核機関群に助言を行う。</u></p> <p><u>4 運営委員会委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。</u></p> <p><u>5 中核機関群連絡会議は、中核機関及び協働機関の教員をもって構成し、コンソーシアムの事業運営に関する連絡調整等を行う。</u></p> <p><u>6</u> コンソーシアムの事務局は、中核機関に置き、会員の協力を得て、コンソーシアムの事業及び運営の全般について企画し、実施する。</p> <p>(雑 則)</p> <p>第6条 この規約に定めるもののほか、コンソーシアムの運営に関して必要な事項は、総会又は運営委員会<u>の方針に従って、中核機関群</u>がその都度別に定める。</p> <p>別表 <u>協働機関</u>、参画機関、<u>連携機関</u>及び特別会員<br/>(<u>2026年8月31日改正</u>) (第4条第2項)</p> <p><u>協働機関</u></p> <p>・ <u>滋賀大学</u></p> <p><u>(注) 統計学教員育成研修のため、「統計数理研究所サテライト」を置く。</u></p> <p>参画機関</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 茨城大学 (大学院農学研究科)</li> <li>・ 大阪大学 (大学院基礎工学研究科)</li> <li>・ 岡山大学</li> <li>・ 九州大学 (マス・フォア・インダストリ研究所)</li> <li>・ 京都女子大学 (データサイエンス学部)</li> <li>・ 京都大学 (国際高等教育院附属データ科学イノベーション教育研究センター)</li> <li>・ 群馬大学 (数理データ科学教育研究センター、情報学部、大学院<u>社会</u>情報学研究科、大学院保健学研究科) (<u>組織改編に伴う変更</u>)</li> <li>・ 慶應義塾大学 (大学院健康マネジメント研究科)</li> <li>・ 国立極地研究所 (先端研究推進系、宙空圏研究グループ)</li> <li>・ <del>滋賀大学</del> (<u>協働機関への移行に伴う削除</u>)</li> <li>・ 順天堂大学 (<u>健康データサイエンス学部</u>)</li> </ul> | <p>の実施に関する重要事項を審議する。</p> <p>4 コンソーシアムの事務局は、中核機関に置き、会員の協力を得て、コンソーシアムの事業及び運営の全般について企画し、実施する。</p> <p>(雑 則)</p> <p>第6条 この規約に定めるもののほか、コンソーシアムの運営に関して必要な事項は、総会又は運営委員会の方針に従って、中核機関がその都度別に定める。</p> <p>別表 参画機関、協力機関及び特別会員 (2026. 4. 1改正) (第4条第2項)</p> <p>参画機関</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 茨城大学 (大学院農学研究科)</li> <li>・ 大阪大学 (大学院基礎工学研究科)</li> <li>・ 岡山大学</li> <li>・ 九州大学 (マス・フォア・インダストリ研究所)</li> <li>・ 京都女子大学 (データサイエンス学部)</li> <li>・ 京都大学 (国際高等教育院附属データ科学イノベーション教育研究センター)</li> <li>・ 群馬大学 (数理データ科学教育研究センター、情報学部、大学院社会情報学研究科、大学院保健学研究科)</li> <li>・ 慶應義塾大学 (大学院健康マネジメント研究科)</li> <li>・ 国立極地研究所 (先端研究推進系、宙空圏研究グループ)</li> <li>・ 滋賀大学</li> <li>・ 順天堂大学 (大学院医学研究科)</li> </ul> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上智大学 (大学院応用データサイエンス学位プログラム)</li> <li>・ 総合研究大学院大学 (大学院複合科学研究科)</li> <li>・ 中央大学 (AI・データサイエンスセンター)</li> <li>・ データサイエンス共同利用基盤施設</li> <li>・ 東京科学大学</li> <li>・ 東京学芸大学 (先端教育人材育成推進機構)</li> <li>・ <u>(組織廃止のため削除)</u></li> <li>・ 東京大学 (大学院経済学研究科)</li> <li>・ 東京理科大学</li> <li>・ 同志社大学 (大学院文化情報学研究科)</li> <li>・ 長崎大学 (情報データ科学部)</li> <li>・ 名古屋市立大学 (大学院看護学研究科)</li> <li>・ 名古屋大学 (大学院医学系研究科)</li> <li>・ 一橋大学 (<u>大学院ソーシャル・データサイエンス研究科</u>) (<u>組織改編に伴う変更</u>)</li> <li>・ 兵庫県立大学 (大学院情報科学研究科、社会情報科学部)</li> <li>・ 広島大学 (高等教育研究開発センター)</li> <li>・ 北海道大学 (大学院保健科学研究院、大学院経済学研究院)</li> <li>・ 立正大学 (データサイエンス学部)</li> <li>・ 早稲田大学 (データ科学センター)</li> </ul> <p>(注記移動)</p> <p>連携機関</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (運営委員会の承認を得て追記)</li> <li>・ 一般財団法人 統計質保証推進協会</li> </ul> <p>特別会員</p> <p>(第1期大学統計教員育成研修 修了者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 石橋 健 (関西大学)</li> <li>・ 加葉田 雄太郎 (鹿児島大学)</li> <li>・ 姜 佳明 (長崎大学)</li> <li>・ 佐藤 宏征 (東京科学大学)</li> <li>・ 田島 友祐 (大妻女子大学)</li> <li>・ 趙 宇 (東京理科大学)</li> <li>・ 土田 潤 (京都女子大学)</li> <li>・ 長井 万恵 (群馬大学)</li> <li>・ 中野 義雄 (株式会社ゼウレカ)</li> <li>・ 橋本 大志 (国立極地研究所)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上智大学 (大学院応用データサイエンス学位プログラム)</li> <li>・ 総合研究大学院大学 (大学院複合科学研究科)</li> <li>・ 中央大学 (AI・データサイエンスセンター)</li> <li>・ データサイエンス共同利用基盤施設</li> <li>・ 東京科学大学</li> <li>・ 東京学芸大学 (先端教育人材育成推進機構)</li> <li>・ 東京大学 (数理・情報教育研究センター)</li> <li>・ 東京大学 (大学院経済学研究科)</li> <li>・ 東京理科大学</li> <li>・ 同志社大学 (大学院文化情報学研究科)</li> <li>・ 長崎大学 (情報データ科学部)</li> <li>・ 名古屋市立大学 (大学院看護学研究科)</li> <li>・ 名古屋大学 (大学院医学系研究科)</li> <li>・ 一橋大学 (ソーシャル・データサイエンス教育研究推進センター)</li> <li>・ 兵庫県立大学 (大学院情報科学研究科、社会情報科学部)</li> <li>・ 広島大学 (高等教育研究開発センター)</li> <li>・ 北海道大学 (大学院保健科学研究院、大学院経済学研究院)</li> <li>・ 立正大学 (データサイエンス学部)</li> <li>・ 早稲田大学 (データ科学センター)</li> </ul> <p>(注) 滋賀大学には、大学統計教員育成研修のため、統計数理研究所サテライトを置く。</p> <p>協力機関</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広島大学 (大学院人間社会科学研究科)</li> <li>・ 一般財団法人 統計質保証推進協会</li> </ul> <p>特別会員</p> <p>(第1期大学統計教員育成研修 修了者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 石橋 健 (関西大学)</li> <li>・ 加葉田 雄太郎 (鹿児島大学)</li> <li>・ 姜 佳明 (長崎大学)</li> <li>・ 佐藤 宏征 (東京科学大学)</li> <li>・ 田島 友祐 (大妻女子大学)</li> <li>・ 趙 宇 (東京理科大学)</li> <li>・ 土田 潤 (京都女子大学)</li> <li>・ 長井 万恵 (群馬大学)</li> <li>・ 中野 義雄 (株式会社ゼウレカ)</li> <li>・ 橋本 大志 (国立極地研究所)</li> </ul> |

| 新                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 旧                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 松島 裕康 (滋賀大学)</li> <li>・ 湯浅 良太 (千葉大学)</li> </ul> <p>(第2期大学統計教員育成研修 修了者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大野 航太 (中央大学)</li> <li>・ 岡本 雅子 (京都大学)</li> <li>・ 小野島 隆之 (滋賀大学)</li> <li>・ 江 啓発 (名古屋市立大学)</li> <li>・ 眞田 英毅 (武庫川女子大学)</li> <li>・ 清家 大嗣 (東京大学)</li> <li>・ 多森 翔馬 (東京理科大学)</li> <li>・ 張 天逸 (早稲田大学)</li> <li>・ 中西 正 (広島修道大学)</li> <li>・ 西 颯人 (一橋大学)</li> <li>・ 深作 亮也 (九州大学)</li> <li>・ 吉田 一生 (北海道大学)</li> <li>・ Christina Andica (順天堂大学)</li> </ul> <p>(第3期大学統計教員育成研修 修了者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 池田 真也 (茨城大学)</li> <li>・ 内田 航 (順天堂大学)</li> <li>・ 杉浦拓也 (立正大学)</li> <li>・ XUE YUJIE (DS 共同利用基盤施設)</li> <li>・ 土田 旭 (滋賀大学)</li> <li>・ 羅 明振 (岡山大学)</li> <li>・ 樊 怡舟 (広島大学)</li> <li>・ 深澤 佑介 (上智大学)</li> <li>・ 古田 裕亮 (慶應義塾大学)</li> <li>・ 前田 絢子 (東京理科大学)</li> <li>・ 松原 悠 (滋賀大学)</li> <li>・ 望月 泰博 (早稲田大学)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 松島 裕康 (滋賀大学)</li> <li>・ 湯浅 良太 (千葉大学)</li> </ul> <p>(第2期大学統計教員育成研修 修了者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大野 航太 (中央大学)</li> <li>・ 岡本 雅子 (京都大学)</li> <li>・ 小野島 隆之 (滋賀大学)</li> <li>・ 江 啓発 (名古屋市立大学)</li> <li>・ 眞田 英毅 (武庫川女子大学)</li> <li>・ 清家 大嗣 (東京大学)</li> <li>・ 多森 翔馬 (東京理科大学)</li> <li>・ 張 天逸 (早稲田大学)</li> <li>・ 中西 正 (広島修道大学)</li> <li>・ 西 颯人 (一橋大学)</li> <li>・ 深作 亮也 (九州大学)</li> <li>・ 吉田 一生 (北海道大学)</li> <li>・ Christina Andica (順天堂大学)</li> </ul> <p>(第3期大学統計教員育成研修 修了者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 池田 真也 (茨城大学)</li> <li>・ 内田 航 (順天堂大学)</li> <li>・ 杉浦拓也 (立正大学)</li> <li>・ XUE YUJIE (DS 共同利用基盤施設)</li> <li>・ 土田 旭 (滋賀大学)</li> <li>・ 羅 明振 (岡山大学)</li> <li>・ 樊 怡舟 (広島大学)</li> <li>・ 深澤 佑介 (上智大学)</li> <li>・ 古田 裕亮 (慶應義塾大学)</li> <li>・ 前田 絢子 (東京理科大学)</li> <li>・ 松原 悠 (滋賀大学)</li> <li>・ 望月 泰博 (早稲田大学)</li> </ul> |



# 2025年度 事業報告

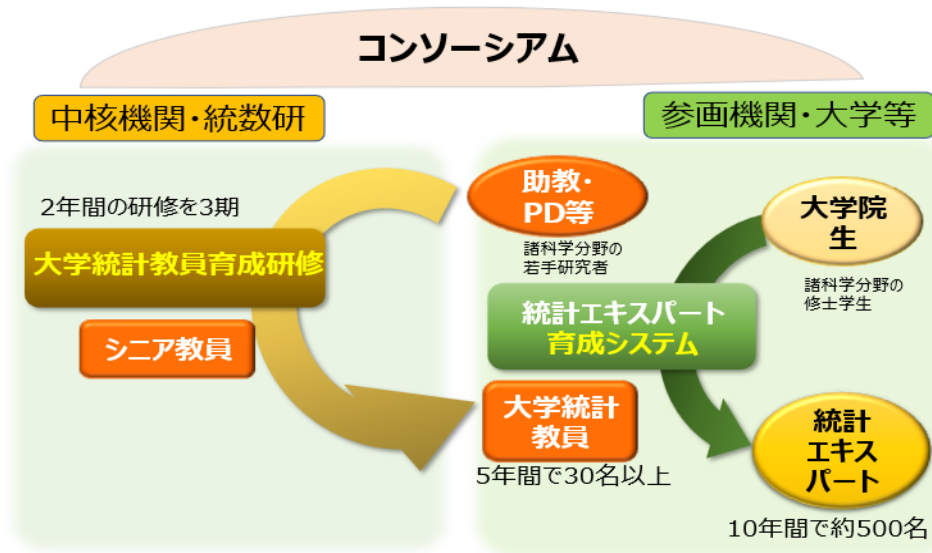
## -プロジェクト開始以降5年間の取組状況-

令和8年（2026年）8月31日  
統計数理研究所  
大学統計教員育成センター

この事業報告は、令和7（2025）年度がプロジェクト最終年度に当たることから、本コンソーシアムの5年間の成果を含めて取りまとめたもの。コンソーシアムHPにおいて公表し、活動の対外的な周知を図るとともに、文部科学省における「事後評価」の基礎資料としても活用する予定

## I 本プロジェクトの概要・目的

- 統計数理研究所を中核機関とし、全国の大学等を参画機関とする「**統計エキスパート人材育成コンソーシアム**」を形成。
- 参画機関の若手研究者を「大学統計教員育成研修」に参加させ、令和7年度（2025年度）年度までに、質保証された**大学統計教員の30名以上育成を目指す**。
- 各参画機関に統計エキスパート育成システムを整備し、令和12年度（2030年度）までに、大学院等でおおむね**500名以上の統計エキスパートの育成を目指す**。



**大学統計教員** : 専門の学術領域で博士の学位を有し、大学院修士学生等に対して統計学の講義や統計活用研究の指導を行うことのできる人材。

**統計エキスパート** : 統計を駆使して学術研究や産業界等に貢献できる人材。  
このプロジェクトで育成するのは、諸科学分野の大学院修士学生等の統計エキスパート。

# Ⅱ 令和7（2025）年度の取組状況

## Ⅱ-1.コンソーシアムの運営（参画機関による統計エキスパートの育成・把握）

### 【令和7（2025）年度事業実施計画の概要】

- ◆ 「コンソーシアム総会」（年1回開催）及び「コンソーシアム運営委員会」（四半期ごとに開催）を中心とする適切なマネジメントと参画機関の積極的な協力の下、参画機関ごとの特性も踏まえ、データサイエンス・AI推進の要・基盤となる「統計エキスパート」を育成を支援。
- ◆ また、その育成状況を共通の要件で把握し、コンソーシアムとして取りまとめ・公表。

- 運営委員会（メール審議・委員懇談会を含めて5回開催）のマネジメントの下で、会員機関と密接に連携した次の取組を通じて参画機関における統計エキスパート育成システムの構築・推進を支援。
  - i）「**第5回総会**」（令和7年（2025年）5月28日）において、参画機関の特性に応じた取組状況を共有。
  - ii）幅広く参加可能な「**第5回ワークショップ**」を開催（令和7年（2025年）9月4日）し、高度統計人材の育成に向けた取組状況・今後の見通しや、コンソーシアムの新たな取組方策を共有。
  - iii）**統計関連学会連合大会企画セッション**（令和7年（2025年）9月8日）や、コンソーシアム・ホームページ（会員サイト）等において、本プロジェクト・研修成果の発表・共有。
  - iv）研修修了生については、コンソーシアム「**特別会員**」（個人会員）として引き続き支援。
- 参画機関における令和7年度（2025年度）の「統計エキスパート」育成状況を把握。

### 「統計エキスパート」育成状況（把握結果の概要）

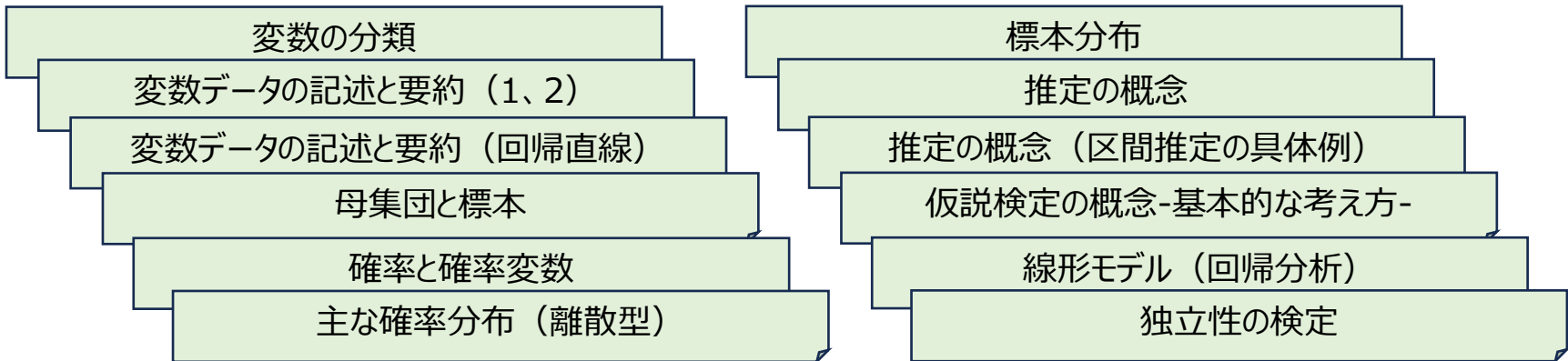
- |                                                                                                  |         |                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|------------------|
| ① 大学統計教員育成研修の修了者・育成対象者から、学術論文や研究における統計学活用について実質的な指導を受け、 <b>修士論文合格・学会発表等の研究成果</b> をあげた者（大学院修士学生等） | : 計68名  | ▶ 「統計<br>エキスパート」 |
| ② 当該教員の統計学に関連する <b>講義を複数科目、履修・修了</b> した者（同上）                                                     | : 計147名 |                  |

【令和7（2025）年度事業実施計画の概要】

- ◆ 繰り返しの模擬講義を中心とする大学統計教員育成研修の特徴的な育成システムや使用教材の情報等を参画機関と共有し、参画機関における統計エキスパート育成に向けた教材・カリキュラムの改善検討を引き続き支援。
- ◆ また、参画機関の取組を更に支援するため、大学統計教員育成研修のオンライン講座の一部について、試行的に参画機関に公開するとともに、コンソーシアム・ホームページ「会員サイト」において、第3期研修生による「統計学基礎 教材集2026」の作成・公開を準備。

- 第2期・第3期大学統計教員育成研修において、**海外の著名大学における使用教材**から選定した研修教材やシニア教員推薦書籍（英文6種類・和文12種類）を引き続き使用・評価するとともに、育成対象者の専門分野の特性に応じて「現代疫学」を追加整備。これらの情報を**コンソーシアムのホームページや会員サイト**を通じて参画機関とも共有し、参画機関の統計エキスパート育成システムの構築・推進を支援。
- コンソーシアム「**会員サイト**」において、第1期修了生による教材開発演習の成果である「統計学基礎 教材集2024」、第2期研修生による「統計学基礎 教材集2025」に続き、**第3期研修生による「統計学基礎 教材集2026」（令和8（2026）年2月）を共有し、参画機関からも高く評価。**

【統計学基礎 教材集2026】の概要】



など計26教材

## Ⅱ-3.第3期・第4期研修の実施

### 【令和7（2025）年度事業実施計画の概要】

- ◆ 同時並行的に実施される第3期・第4期研修の完遂に向け、メンターを1名増員するとともに、所属参画機関において育成対象者が研修に専念できる環境を整備できるよう、可能な限り支援。
- ◆ 第3期大学統計教員育成研修の第3クール（令和7（2025）年4月～9月）及び第4クール（令和7（2025）年10月～令和8（2026）年3月）においては、育成対象者自身の研究や所属参画機関における統計エキスパート育成に活用できるよう、第1クール及び第2クールで培った力をさらに伸ばし、共同研究演習、教材開発演習及びコンサルテーション演習を含めた研修を実施するとともに、所属参画機関においても、育成対象者のファカルティ・ディベロップメント活動などを展開。
- ◆ また、第4期大学統計教員育成研修の第1クール（令和7（2025）年4月～9月）及び第2クール（令和7（2025）年10月～令和8（2026）年3月）においては、統計ベースライン特習、統計教育力育成演習及び統計研究力強化演習から構成される「基礎科目」を中心に研修し、先端的データサイエンス特論や先端的データ分析演習等で不足している知識を補うとともに、所属参画機関においても、委託費の活用などにより育成対象者が研修に専念できる環境の整備を推進。

### 【第3期研修】（主なスケジュールは参考1参照）

- 研修生13名（参考2参照）は修了認定要件（参考3参照）をクリアし、**2年間の研修を修了**（令和8（2026）年3月末）。13名の修了生注3名は、**助教から講師・准教授にキャリアアップ**。
- **共同研究演習5件、教材開発演習12件**の成果（令和8（2026）年3月末）。また、4回の公開模擬講義の講義動画及び資料をコンソーシアム会員サイトに掲載。
- 教材開発演習の成果を取りまとめた「**統計学基礎 教材集2026**」をコンソーシアム会員サイトに掲載し、参画機関に共有（令和8（2025）年2月5日）。

### 【第4期研修】（主なスケジュールは参考1参照）

- 研修生11名（参考4参照）が第1クール・第2クールの研修を終了。具体的には、全体研修（模擬講義）と担当メンターの下でグループ研修で知識を習得するとともに、先端的データサイエンス特論や先端的データ分析演習等の個別科目に参加。
- 研修の円滑な実施には、所属参画機関との協力が欠かせないことから、「**達成度管理WG**」の開催を通じて連携を強化するとともに、2回の**公開模擬講義の動画・資料**をコンソーシアム会員サイトに掲載。

## 【参考1】 第3期・第4期研修の主なスケジュール

|              |                                 |
|--------------|---------------------------------|
| 令和7（2024）年2月 | 第4期 事前説明会（26日 統計数理研究所）          |
| 4月           | 第3期・第3クール、第4期・第1クール開始           |
| 4月           | 第4期 開講式（3日 統計数理研究所）             |
| 4月           | 第4期 全体研修（模擬講義）                  |
| 5月～6月        | 第3期 全体研修（模擬講義）                  |
| 6月～7月        | 先端的データ分析演習（多変量解析）               |
| 6月           | 中間報告会（13日 広島大学）                 |
| 6月～7月        | 先端的データ分析演習（Python）              |
| 6月～7月        | 第4期 全体研修（模擬講義）                  |
| 8月～9月        | 第3期 全体研修（公開模擬講義）                |
| 9月           | 統計関連学会 発表（8日 関西大学）              |
| 9月           | 第4期 全体研修（公開模擬講義）                |
| 10月          | 第3期・第4クール、第4期・第2クール開始           |
| 9月～10月       | 先端的データ分析演習（R環境）                 |
| 9月～12月       | 先端的データサイエンス特論（統計的因果推論）          |
| 11月          | 中間報告会（12日 滋賀大学）                 |
| 12月          | 第4期 全体研修（模擬講義）                  |
| 12月～1月       | 先端的データサイエンス特論（多重比較法の基礎）         |
| 12月～1月       | 先端的データサイエンス特論（統計学における数理の再確認と発展） |
| 1月～2月        | 第3期 全体研修（公開模擬講義）                |
| 2月           | 中間報告会（26日 中央大学）                 |
| 3月           | 修了式（13日 統計数理研究所）                |
| 3月           | 第4期 全体研修（公開模擬講義）                |

# 【参考2】 第3期修了生とメンター

令和8（2026）年3月31日現在

| 修了者名      | 所属参画大学   | 学位            | メンター  | 副メンター |
|-----------|----------|---------------|-------|-------|
| 内 田 航     | 順天堂大学    | 博士（医学）        | 岩崎 学  | 折笠 秀樹 |
| 古田 裕亮     | 慶応大学     | 博士（医療マネジメント学） | 折笠 秀樹 | 岩崎 学  |
| XUE YUJIE | DS共同利用施設 | 博士（理学）        | 国友 直人 | 岩崎 学  |
| 望月 泰博     | 早稲田大学    | 博士（理学）        | 国友 直人 | 岩崎 学  |
| 深澤 佑介     | 上智大学     | 博士（工学）        | 清水 邦夫 | 水田 正弘 |
| 前田 絢子     | 東京理科大学   | 博士（薬学）        | 清水 邦夫 | 水田 正弘 |
| 松原 悠      | 滋賀大学※    | 博士（情報学）       | 神保 雅一 | 中西 寛子 |
| 土 田 旭     | 滋賀大学※    | 博士（理学）        | 神保 雅一 | 中西 寛子 |
| 羅 明振      | 岡山大学※    | 博士（学術）        | 中西 寛子 | 神保 雅一 |
| 樊 怡舟      | 広島大学※    | 博士（教育学）       | 三輪 哲久 | 水田 正弘 |
| 池田 真也     | 茨城大学     | 博士（農学）        | 三輪 哲久 | 水田 正弘 |
| 木村 俊      | 群馬大学     | 博士（理学）        | 水田 正弘 | 三輪 哲久 |
| 杉浦拓也      | 立正大学     | 博士（理学）        | 水田 正弘 | 三輪 哲久 |

「※」印を付した参画機関の育成対象者は、滋賀大学サテライトの研修が中心

### 【参考3】 大学統計教員育成研修 修了認定の要件

| 科目名（全員履修）     | 内部評価    | 評価者    | 重み | 内容          |
|---------------|---------|--------|----|-------------|
| 統計ベースライン特習Ⅰ～Ⅳ | 認       | メンター   | 必修 | 模擬講義＋グループ研修 |
| 統計教育力育成演習Ⅰ～Ⅳ  | A, B, C | メンター全員 | 必修 | 公開模擬講義＋提出物  |
| 統計研究力強化演習Ⅰ～Ⅳ  | 認       | 参画機関   | 必修 | FD活動        |
| 統計検定２級        | 認       | 外部評価   | 必修 | 受験合格        |

| 科目名                       | 内部評価 | 評価者  | 重み              | 内容             |
|---------------------------|------|------|-----------------|----------------|
| 共同研究演習                    | 認    | 担当教員 | 50              | 研究＋学会発表（口頭，投稿） |
| 教材開発演習                    | 認    | 担当教員 | 50              | 教材など           |
| コンサルテーション演習 <sup>2)</sup> | 認    | 担当教員 | 50              | 報告書など          |
| 先端的データサイエンス特論（トピックス名）     | 認    | 担当教員 | 研修部で決定<br>20～35 | 講義参加＋レポート      |
| 先端的データ分析演習（トピックス名）        | 認    | 担当教員 | 研修部で決定<br>20～35 | 講義参加＋レポート      |
| 統計検定準１級                   | 認    | 外部評価 | 30              | 受験合格           |
| 統計検定１級                    | 認    | 外部評価 | 研修部で決定<br>～50   | 受験（受験後の評価を提出）  |
|                           |      |      | 合計100以上         |                |

## 【参考4】 第4期研修 育成対象者11名のメンター配置

| 推薦参画大学 | 学位       | メンター  | 副メンター |
|--------|----------|-------|-------|
| 立正大学   | 博士（総合学術） | 岩崎 学  | 折笠 秀樹 |
| 東京学芸大学 | 博士（学術）   | 折笠 秀樹 | 岩崎 学  |
| 東京理科大学 | 博士（工学）   | 折笠 秀樹 | 岩崎 学  |
| DS施設   | 博士（経済学）  | 国友 直人 | 中西 寛子 |
| 東京理科大学 | 博士（経済学）  | 国友 直人 | 中西 寛子 |
| 極地研究所  | 博士（理学）   | 清水 邦夫 | 中西 寛子 |
| 中央大学   | 博士（理学）   | 清水 邦夫 | 中西 寛子 |
| 滋賀大学※  | 博士（学術）   | 神保 雅一 | 佐藤 俊哉 |
| 名古屋大学※ | 博士（医学）   | 佐藤 俊哉 | 神保 雅一 |
| 九州大学   | 博士（数理学）  | 三輪 哲久 | 水田 正弘 |
| 群馬大学   | 博士（理学）   | 水田 正弘 | 三輪 哲久 |

「※」印を付した参画機関の育成対象者は、滋賀大学サテライトの研修が中心

## Ⅱ-4.今後の事業の具体的な検討

### 【令和7（2025）年度事業実施計画の概要】

- ◆ 令和4（2022）年度に中核機関が実施した自己点検及び令和5（2023）年度に文部科学省「統計エキスパート人材育成プロジェクト推進委員会」が実施した中間評価の結果を踏まえ、コンソーシアム運営委員会を中心に会員機関が連携して、今後のコンソーシアム活動や大学統計教員育成研修などのあり方を具体的に検討。
- ◆ 今後の新たなプロジェクトの具体化に向け、文部科学省と連携・協力しつつ、本プロジェクトのノウハウや成果等を活かし、コンソーシアム運営委員会を中心に検討。

- 
- コンソーシアム運営委員会等において、①令和4（2022）年度に中核機関が実施した自己点検及び令和5（2023）年度に文部科学省「統計エキスパート人材育成プロジェクト推進委員会」が実施した中間評価の結果や、②これまでの本事業の成果、③本事業を取り巻く環境の変化、④会員機関のニーズなども踏まえつつ、今後のコンソーシアム活動や大学統計教員育成研修などのあり方を検討。
  - 具体的には、第23回運営委員会（令和7（2025）年12月2日）において、①中核機関における現行プロジェクトで蓄積された教材やノウハウ等を最大限有効活用し、統計学を教育・指導できる「統計学教員」の育成を加速すること、②本コンソーシアムを自律的に活動できるネットワークとして更に発展させるため、コンソーシアムの連携・機能等の強化に向けた取組方策の検討を開始することなどを内容とする取組方針を確認。
  - その後、第24回運営委員会（令和8（2026）年3月9日）においては、政府予算案の動向も踏まえつつ、この新たな人材育成事業への対応方針を基に、コンソーシアム一体となって公募申請に向けた準備を進めるとの方針を確認。

### 【令和7（2025）年度事業実施計画の概要】

- ◆ 中核機関において、自己負担の増加も図りつつ、上記①から④の取組に必要となるシニア教員などの体制を確保するとともに、参画機関における研修環境整備などの取組を可能な限り支援。
- ◆ コンソーシアム・ホームページの掲載情報の充実に努めるとともに、統計関連学会連合大会における育成対象者の発表（令和7（2025）年9月）などを通じて、研修成果を広く周知

- 
- 中核機関における自己負担の増加も図りつつ、上記(1)から(4)の取組に必要となるシニア教員などの体制を確保する（参考5参照）とともに、委託費の配分を通じて、参画機関における研修環境整備などの取組を可能な限り支援。
  - コンソーシアム・ホームページの掲載情報の充実に引き続き努めるとともに、統計関連学会連合大会における育成対象者の発表（令和7（2025）年9月8日）などを通じて、研修成果を周知。
  - 大学統計教員育成研修の成果を広く公表するため、学術誌「統計数理」（74巻1号。令和8（2026）年6月刊行）に特集テーマ「統計エキスパート人材育成プロジェクト」を設定し、育成対象者の投稿論文を掲載。

## 【参考5】 第4期大学統計教員育成研修のメンター体制

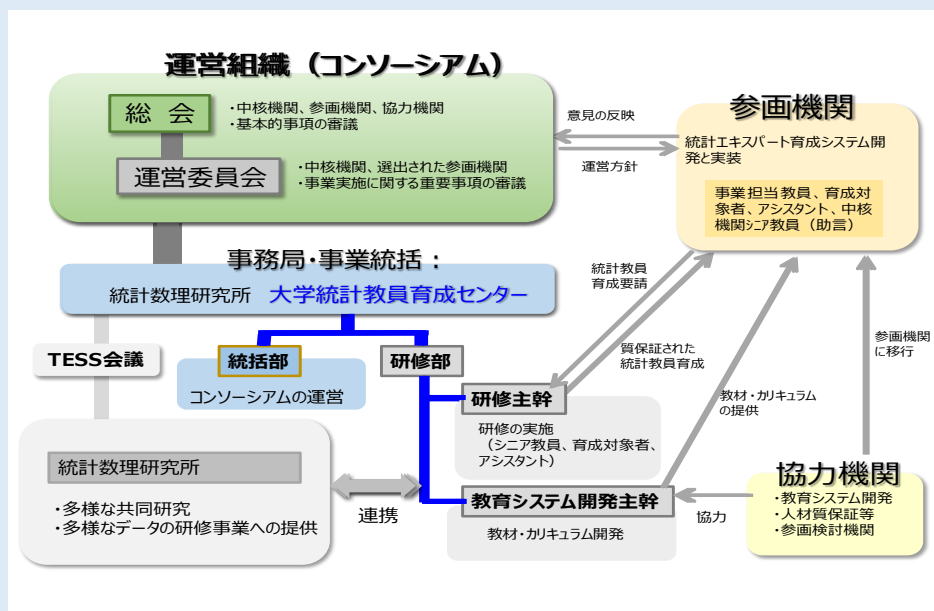
| 氏 名           | 最終学歴・学位                         | 主な職歴・社会貢献                                                                     |
|---------------|---------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 【新規】<br>佐藤 俊哉 | 東京大学大学院医学系研究科保健学専攻博士課程修了。保健学博士。 | 京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻医療統計学教授。日本計量生物学会会長・理事、日本薬剤疫学会評議員。国際計量生物学会Council member。 |

| 氏 名   | 最終学歴・学位                                                                                                                                 | 主な職歴・社会貢献                                                  |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|
| 岩崎 学  | 東京理科大学大学院理学研究科修士課程修了。理学博士。                                                                                                              | 横浜市立大学データサイエンス学部教授・学部長。統計関連学会連合会理事長、日本統計学会会長・理事長、応用統計学会会長。 |
| 折笠 秀樹 | 米国ノースカロライナ大学生物統計学科博士課程修了。学術博士Ph.D.                                                                                                      | 富山大学医学部教授。日本臨床薬理学会評議員、日本計量生物学会評議員。                         |
| 国友 直人 | Department of Statistics and Department of Economics, Graduate School, Stanford University (Ph.D. in Economics, Advisor: T.W. Anderson) | 東京大学経済学部教授・学部長、明治大学政治経済学部教授。日本統計学会会長、内閣府社会経済研究所研究員。        |
| 清水 邦夫 | 東京理科大学大学院理学研究科数学専攻博士課程中途退学。理学博士                                                                                                         | 東京理科大学理学部教授、慶應義塾大学理工学部教授。応用統計学会会長。                         |
| 神保 雅一 | 東京工業大学理工学研究科情報科学専攻修士課程修了。理学博士。                                                                                                          | 慶應義塾大学理工学部・理工学研究科教授、名古屋大学大学院情報科学研究科教授。日本統計学会代議員、応用統計学会監事。  |
| 中西 寛子 | 北海道大学大学院工学研究科情報工学専攻博士後期課程修了。工学博士。                                                                                                       | 成蹊大学経済学部教授、成蹊学園常務理事。日本統計学会理事・監事、応用統計学会副会長、品質管理学会代議員。       |
| 水田 正弘 | 北海道大学大学院工学研究科情報工学専攻博士後期課程修了。工学博士                                                                                                        | 北海道大学情報基盤センター教授。日本計算機統計学会会長、応用統計学会副会長。                     |
| 三輪 哲久 | 東京大学大学院工学系研究科計数工学専攻修士課程修了。工学博士。                                                                                                         | 独立行政法人農業環境技術研究所生態系計測研究領域長。応用統計学会副会長、日本計量生物学会理事。            |

# Ⅲ プロジェクト開始以降5年間の取組状況

## Ⅲ-1-1.コンソーシアムの設立・運営

- 統計数理研究所を「中核機関」として、大学等の部局・部門・センター等を「参画機関」、事業に協力する大学等を「協力機関」として構成する「統計エキスパート人材育成コンソーシアム」を令和3（2021）年8月31日に設立。
- 設立総会において制定された規約に基づき、本プロジェクトの目的達成の要となるコンソーシアムの運営組織として、会員（中核機関、参画機関及び協力機関）をもって構成する「総会」、中核機関及びその指名する参画機関をもって構成する「運営委員会」を設置するとともに、コンソーシアムの事務局として、中核機関に新たな研究施設「大学統計教員育成センター」を令和4（2022）年1月に設置。
- コンソーシアム設立以降、各年度1回開催する総会においては、全会員の協力を得て、コンソーシアム運営の基本的事項について審議し、意思決定。また、概ね四半期ごとに開催する運営委員会においては、参画機関の意見も反映して各年度の事業計画案や新規会員の入会など事業実施に関する重要事項を審議・情報共有。令和5（2023）年度からは、中核機関が指名する参画機関を5機関から8機関に増やし、新規参画機関を含めて参画機関の意見を一層反映することができるようマネジメント体制の充実を図り、事業期間後半の活動を推進。



Ⅲ-1-2.コンソーシアムの活動

- 会員機関の積極的な協力の下、ワークショップを各年度に1回開催し、各参画機関における統計エキスパート育成システムの構築に向けた情報共有を推進。
- また、参画機関・協力機関との密接な連携の下、統計質保証推進協会（協力機関）への委託による「海外の統計教育第一人者による大学院レベルの統計教育に関する招聘講演」の開催結果や、広島大学（協力機関）への委託による「諸外国における統計エキスパートを育成するシステムやカリキュラム・研修等に関する情報収集・分析」の実施結果をコンソーシアムホームページを通じて共有。
- その他、各参画機関における統計エキスパート育成システムの構築・推進を支援し、それぞれの取組成果を総会やコンソーシアムホームページを通じて共有。

| 年度              | 開催日                      | 主な審議事項                                                       | 参加登録者 |
|-----------------|--------------------------|--------------------------------------------------------------|-------|
| 令和3年<br>(2021年) | 令和4年<br>(2022年)<br>2月31日 | 第1回「統計エキスパート育成システムの構築」に向けたワークショップ ～大学統計教員育成センター設立を記念して～      | 129名  |
| 令和4年<br>(2022年) | 8月17日                    | 第2回「統計エキスパート育成システムの構築」に向けたワークショップ ～なぜ今、統計エキスパート育成か？～         | 135名  |
| 令和5年<br>(2023年) | 9月1日                     | 第3回「統計エキスパート育成に向けたワークショップ」 -データサイエンス・統計分野のエキスパートをオールジャパンで育成- | 166名  |
| 令和6年<br>(2024年) | 9月9日                     | 第4回「統計エキスパート育成に向けたワークショップ」 ～DX、EBPMを支える統計エキスパートの持続的・発展的な育成～  | 153名  |
| 令和7年<br>(2025年) | 9月4日                     | 第5回「統計エキスパート育成に向けたワークショップ」 ～高度統計人材の育成とデータサイエンス系大学院教育～        | 150名  |

Ⅲ-1-3.コンソーシアム活動の周知

- コンソーシアム活動の周知・普及を図るため、一般閲覧サイト、会員サイトおよび研修サイトから構成される「コンソーシアムホームページ」を開設（令和4（2022）年3月）し、その運用状況も踏まえて全面的な見直し（令和5（2023）年3月）を含む、継続的な改善を実施。
- また、数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム近畿ブロック会議や各種のシンポジウムへの参加、月刊誌「統計」への特集記事の投稿・掲載（令和3（2021）年12月）、日本経済新聞、日刊工業新聞、読売新聞等の新聞記事掲載への取材協力、統計数理研究所ホームページへの掲載など、幅広く周知。

Ⅲ-1-4.コンソーシアム会員の推移～裾野の拡大

- 上記1-2及び1-3の取組などを通じて、コンソーシアム参画機関の数は、コンソーシアム設立時の21大学等（法人ベースでは20大学等）から、協力機関から参画機関への移行（4大学等）や参画機関への新たな加入（5大学等機関）により、令和6（2024）年9月に30大学等（法人ベースでは28大学等）に拡大。

| 機関数 \ 時点     | 設立時（令和3（2021）年8月31日） | 令和4（2022）年3月31日現在 | 令和5（2023）年9月15日現在 | 令和6（2024）年9月1日現在 |
|--------------|----------------------|-------------------|-------------------|------------------|
| 参画機関数（法人ベース） | 21大学等（20大学等）         | 25大学等（23大学等）      | 29大学等（27大学等）      | 30大学等（28大学等）     |
| 協力機関数（法人ベース） | 5大学等（5大学等）           | 4大学等（4大学等）        | 3大学等（3大学等）        | 2大学等（2大学等）       |

### Ⅲ-1-5.コンソーシアム会員の取組

- 参画機関では、コンソーシアム規約も踏まえ、大学院教育における統計学講義の充実などのカリキュラム再編、統計エキスパート向けのオンデマンド教材と同配信システムの整備、高度な統計分析を行うためのワークステーションや関連ソフトウェアの整備など、参画機関内の統計エキスパート育成を推進する各種の取組を実施。
- また、参画機関・協力機関では、若手研究者が大学統計教員育成研修に積極的に参加するよう個別の勧奨や学内公募等の取組を行い、幅広い分野の育成対象者を研修に派遣。
- さらに、育成対象者の所属する参画機関では、代替教員の確保や補助者の活用による担当授業・業務の負担軽減や削減、専用PCやソフトウェアの整備による業務効率化など、育成対象者が大学統計教員育成研修に注力できるような環境を整備。

### Ⅲ-1-6.自己点検の実施

- 令和4（2022）年10月～令和5（2023）年2月に、TESS運営会議での検討やコンソーシアム運営委員会での議論を踏まえ、外部有識者から構成されるアドバイザリーボードを設置し、その助言も活用して自己点検を実施。
- 自己点検の一環として実施したアンケート調査の結果、①「当初の期待を超える活動である」と回答した参画機関が25機関中13機関（52%）、第1期研修参加機関に限ると9機関中8機関（89%）、②他の若手研究者に本研修への参加を「勧める」又は「どちらかと言えば勧める」と回答した育成対象者が12名中8名（67%）と評価。なお、「どちらかと言えば勧めない」と回答した者は、業務負担が軽減されて研究と研修が両立すれば参加を勧める旨を、理由として記入。
- このアンケート調査結果や自己点検結果については、コンソーシアムホームページにおいて公表するとともに、コンソーシアムの令和5（2023）年度事業計画の検討に活用。

### Ⅲ-1-7.必要な環境整備

- 上記3-1.のコンソーシアム活動や後記3-2.の大学統計教員育成研修の実施に当たっては、必要なメンター（シニア教員）などを雇用し、運営体制を確保するとともに、コンソーシアムホームページの整備・見直しや、研修の充実に必要な高機能PC・分析演習用の各種データ等を整備するなど、必要な環境整備を実施。

### Ⅲ-2-1.大学統計教員育成研修の企画・実施体制の整備

- プロジェクトの目標とする30名以上の大学統計教員を育成するため、当初計画の各期2年間・計3期の研修に加え、参画機関のニーズにも対応して第4期研修を企画・実施。

| 育成研修  | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 第1期研修 | ←      |        | →      |        |        |
| 第2期研修 |        |        | ←      | →      |        |
| 第3期研修 |        |        |        | ←      | →      |
| 第4期研修 |        |        |        |        | ←      |

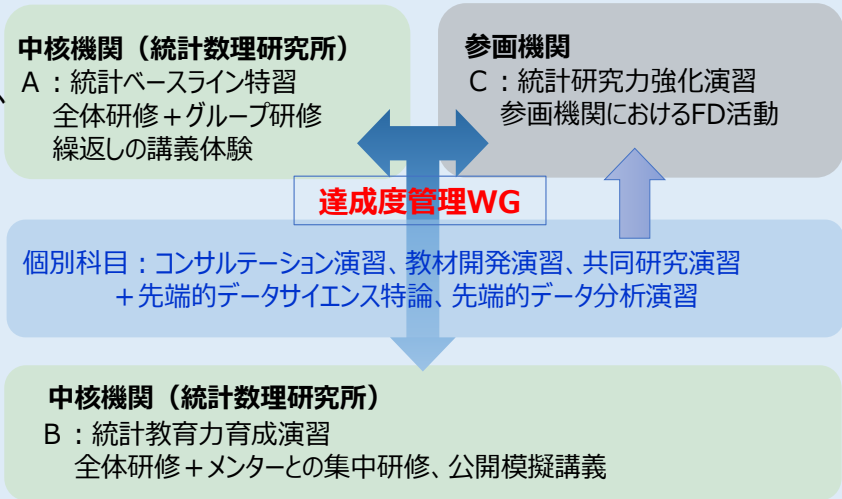
- 中核機関・統計数理研究所においては、大学統計教員育成研修の実施状況を踏まえて、育成対象者の教育・研究指導等に当たるシニア教員を順次雇用し（令和7（2025）年度末現在9名）、各期の研修においては、育成対象者ごとにメンター及び副メンターとして各1名のシニア教員を配置した。また、その他の教職員による支援体制を整備。
- シニア教員の選定に際しては、統計学の応用分野の専門性及び各分野における一流の教員を確保することに加え、人材育成に関しても経験豊富な教員であることも考慮し、育成対象者の専門分野にきめ細やかに対応できる体制を整備。
- 育成対象者の研修管理を的確に行うため、育成対象者ごとに、メンター・副メンター・参画機関研修担当教員・育成対象者で構成する「達成度管理ワーキンググループ」を設置した上で、半年を単位とする各クールの始期と終期に開催し、各育成対象者について、その特性に即した各クール研修計画の策定、研修の進捗や達成度の確認などを実施。

### Ⅲ-2-2.大学統計教員育成研修対象者の募集・選考

- 参画機関・協力機関等に対しては、統計学以外の専攻分野も含めた幅広い育成対象者の推薦を依頼。研修参加への可否は、コンソーシアム運営委員会が承認した選考実施方針に従い、「コンソーシアム選考委員会」において審査し、これまでに4期にわたり計49名の育成対象者を決定。
- このコンソーシアム選考委員会は、当期の参加推薦を行わない参画機関の事業担当教員3名と中核機関のシニア教員3名から構成することにより公正性を担保した上で、研修期ごとにそれぞれ3回開催し、若手研究者が現実に研修に参加することができる能力と意欲を有するかどうかを審査して、研修参加の可否を客観的に決定。
- また、第2期研修以降は、研修の開始時に育成対象者及び所属参画機関の研修担当教員を対象にした事前説明会を開催し、研修スケジュールや留意点等の共通認識を得ることにより、研修の質確保にも配慮。

### Ⅲ-2-3.大学統計教員育成研修の実施

- 大学統計教員育成研修においては、育成する人材について、大学院修士学生に対してデータ分析等の基礎となる統計学の講義や統計活用研究の指導を行うことができる「大学統計教員」と位置付けた上で、修士学生に対して4科目の講義（基本的な統計学の講義、発展的な統計学の講義、専門分野と統計学が融合した講義（2科目））を行うことができるようにすることを具体的な目標として設定。
- 具体的には、2年間の研修期間を半年ごとのクールに区分し、クールごとに研修科目と到達目標を設定した上で、目標の達成に必要な研修をオンライン形式を中心に実施。各クール末には、育成対象者によるコンソーシアム公開模擬講義を開催し、教育能力の向上を図るとともに、育成対象者・修了生、メンター・関係教員等が一堂に会する中間報告会の開催（各年度2～3回）を通じて、対面による研修・意見交換を実施。
- この研修の実施に当たっては、欧米の大学院等で使用して評価されている教材・参考書籍（40冊）や国内の関連書籍（66冊）を幅広く収集し、当研修に相応しい教材を第1期研修に試用するとともに、第2期研修以降、研修教材・シニア教員推薦書籍（英文6種類・和文12種類）を使用・評価し、育成対象者の専門分野にも配慮して順次拡充を図った。また、一部のオンライン講義は、統計数理研究所と滋賀大学サテライトに整備したオンライン講義システムを活用して実施。
- また、達成度管理ワーキンググループにおいては、所属機関の研修担当教員と共に育成対象者ごとの目標や研修進捗状況の確認、研修内容に関する意見交換に加えて、育成対象者の負担についても議論し、研修に注力できているかを確認するなどして、教育・研究力の向上に繋がるよう配慮。
- さらに、参画機関とも連携し、統計検定の活用なども含めた大学統計教員育成研修修了認定の要件を決定するとともに、育成対象者のファカルティ・ディベロップメント（FD）活動などの実施を参画機関に働き掛け。



# Ⅳ 5年間の取組による成果

## Ⅳ-1-1.コンソーシアムの形成 ～「特別会員」を新設

- コンソーシアム規約において、①全会員を以て構成する総会の設置に加え、②「中核機関」、「参画機関」及び「協力機関」の効果的な役割分担や、③中核機関及び参画機関から選出されたメンバーで構成される「運営委員会」の設置等を規定し、コンソーシアムの意思決定・マネジメント体制の基盤を確立した。この規約において、公募要領には記載のない「協力機関」を会員類型として設けたことにより、「協力機関」から「参画機関」に移行する大学が複数出現するなど、コンソーシアムの円滑な拡大に寄与。
- 第1期大学統計教員育成研修の終了を契機として、令和5（2023）年5月には、会員類型「特別会員」（個人会員）を新たに設け、希望する研修修了者が会員として加入する基盤を整備するとともに、運営委員会の議論も踏まえて、コンソーシアムとしての修了者の支援方策を具体化し、研修修了者による統計エキスパート育成の取組を効果的に推進。

## Ⅳ-1-2.コンソーシアムの運営 ～中核機関の体制を整備

- 中核機関は、「大学統計教員育成センター」を設置・運営するとともに、統計数理研究所の所長・副所長を始め関係教員・職員から構成される「TESS 運営会議」（Training Experts in Statistical Sciences）を開催し、中核機関内の関係教員・部門とも連携して、コンソーシアム事業全体を適切にマネジメントできる体制を整備。また、滋賀大学に「統計数理研究所サテライト」を設置し、シニア教員2名を配置して、西の研修拠点として整備。
- 総会においては、参画機関の要望も踏まえ、年間の活動方針を含めた「事業計画」の審議・承認に加え、「活動報告」の共有など、各参画機関における統計エキスパート育成システムの構築・推進に有用な活動を実施。また、運営委員会についても、コンソーシアムの運営に参画機関の意見を反映するとともに、会議資料や議事概要などの情報を会員機関に直ちに周知することを通じて、コンソーシアム内の密接な連携体制の構築。さらに、コンソーシアム会員の積極的な協力の下、一般参加も可能とした「ワークショップ」を毎年開催し、各参画機関における統計エキスパート育成システムの構築に向けた情報共有のみならず、対外的なコンソーシアム活動の周知・普及を推進。「コンソーシアムホームページ」の開設、その運用状況も踏まえた全面的なリニューアルにより、メンター教員や育成対象者の共同研究やコンサルテーション演習の成果などを掲載する「ディスカッションペーパー・サイト」や、修了生による教材開発演習の成果である「統計学基礎 教材集」を掲載するなどして、コンソーシアム内の情報共有に加え、対外的な情報発信力を強化。

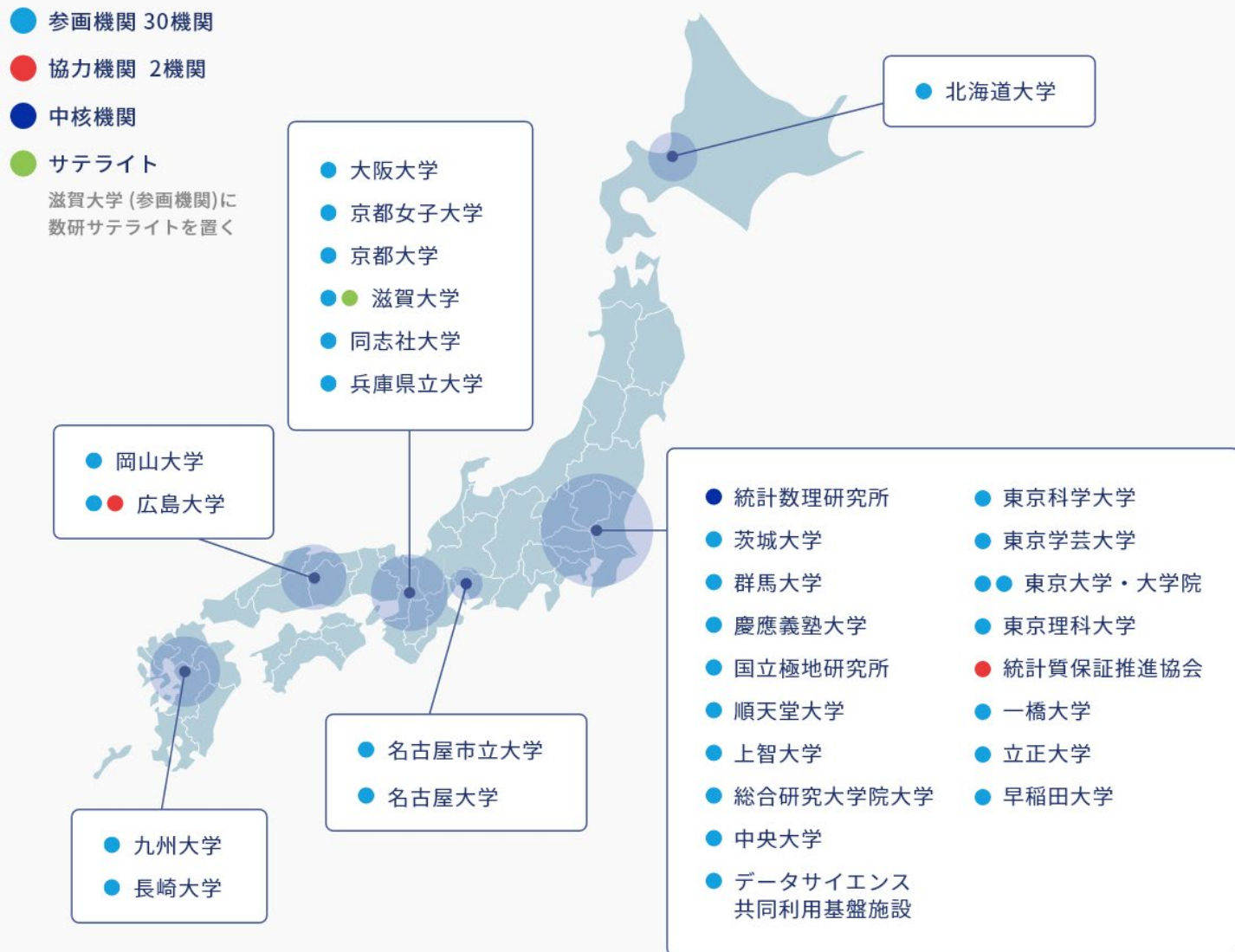
## IV-1-3.コンソーシアムの裾野拡大～参画機関数は21から30に拡大

- コンソーシアムの的確な運営やその活動の対外的な周知・普及、大学統計教員育成研修募集時の勧奨などを通じて、コンソーシアム参画機関の数は、コンソーシアム設立時（令和3（2021）年8月31日）の21大学等（法人ベースでは20大学等）から、協力機関から参画機関への移行（4機関）や参画機関への新たな加入（5機関）により30大学等（法人ベースでは28大学等）に全国的に拡大し、プロジェクト中間年で活動目標値を超える成果を達成（参考6参照）。
- 本コンソーシアムの活動については、「広く統計学及び統計の分野において高く評価し得る」ものとして、第19回日本統計学会統計活動賞を授与（令和5（2023）年9月）されるなど、学術コミュニティからも活動を高く評価。

## IV-1-4.統計エキスパート育成の推進 ～研修修了者を更に支援

- 参画機関においては、コンソーシアム活動による他機関の取組事例の共有や中核機関からの支援などにより、①大学院教育における統計学講義の充実などのカリキュラム再編、②統計エキスパート向けのオンデマンド教材と同配信システムの整備、③高度な統計分析を行うためのワークステーションや関連ソフトウェアの整備など、機関内における統計エキスパート（大学院修士水準）育成システムの構築・充実を推進。
- これらの取組により、参画機関においては、令和6（2024）年度に185名、令和7（2025）年度には215名の「統計エキスパート」を育成するなど、当初の活動目標値（令和12年度末までに、中核機関で研修を受けた研究者を含め概ね500名以上の統計エキスパートの育成）の達成に向け、着実に成果を挙げているほか、統計学を体系的に学ぶことができる大学院組織の設置や大学院修士課程学生が受講可能な統計学教育プログラムの整備を推進。
- また、大学統計教員育成研修の修了者は、統計教員として各所属機関の統計エキスパート育成に貢献することから、希望するすべての研修修了者をコンソーシアム「特別会員」（個人会員）として位置づけ、研修修了後も手厚く支援する方針をコンソーシアム総会にて決定し、コンソーシアムとして手厚く支援。特に希望する者には、情報・システム研究機構の自己財源を活用して、研修を継続・発展させる形で教育・研究指導を行い、より高度な統計活用が可能となる研究教育スキルを有する人材に育成。

## 【参考6】「統計エキスパート人材育成コンソーシアム」会員



## IV-2-1.大学統計教員育成研修に必要な体制整備 ～元学会長クラスのシニア教員を確保

- 中核機関は、育成対象者の専門分野に対応してシニア教員を順次拡充し、中核機関（統計数理研究所）の特任教授として9名のシニア教員を雇用して、研修を円滑かつ効果的に実施（前掲参考5参照）。これらのシニア教員は、統計学の応用分野としての専門性及び各分野における一流の教員であることのみならず、人材育成に関しても経験豊富な教員であることを条件として選考。
- 育成対象者ごとにメンター及び副メンターとして各1名のシニア教員を配置し、不測の事態への備えや育成対象者の研修に関する相談などに十分対応できるよう配慮することにより、きめ細やかに指導・育成。
- また、中核機関においては、これらのシニア教員を支援するために必要な教職員の確保や統計数理研究所内の連携体制を整備。また、シニア教員などすべての研修部所属教員で構成する「研修部会議」を設置し、研修全体の進捗の管理や、シニア教員間の情報共有、研修に関する各種検討事項の審議を通じて、円滑かつ効果的な研修を実施。なお、先端的データサイエンス特論（連続講義シリーズ・コンソーシアム会員公開）においては、統計数理研究所外の各界一流の講師陣も活用するなどして、研修の質向上にも配慮。
- 参画機関においては、研修担当教員を指名し、主に育成対象者の分野研究、参画機関での講義や他の教員等への貢献などに関する管理を行う一方で、中核機関のシニア教員は、教育力強化（シラバス作成、講義手法、教材作成など）の指導、共同研究の支援を行うなど、参画機関の研修担当教員とシニア教員との役割分担を明確化。また、育成対象者、参画機関教員及び正副メンターらで構成される「達成度管理WG」の定期的な開催による意見交換・連携を通じて、円滑な研修の実施や、研修効果の最大化を推進。

## IV-2-2.有用な研修の企画 ～基本的な考え方を明確化・共有

- 中核機関は、研修を担当するシニア教員等の共通認識となる「大学統計教員育成研修の基本的考え方」として、大学院修士課程学生に対して基本的な統計学を始め4科目の講義を可能にすることなど、5つの考え方を研修部会議において決定し、研修目標を明確化するとともに、会員機関と共有。

1. 主たる目的は、大学統計教員の育成  
～ 統計学者の育成ではなく、育成対象者の専門分野を尊重
2. 修士課程学生に対する 4科目の講義を可能にする  
～ 「基本的な統計学の講義」・「発展的な統計学の講義」・「専門分野と統計学が融合した講義」（2科目）
3. 研修の基本は、講義体験の繰り返しと達成度の確認  
～ 達成度WG（育成対象者・研修担当教員・メンター・副メンター等）により、各育成対象者の研修進捗状況・達成度を確認
4. 育成対象者の研修計画・研究計画を、半年ごとに策定  
～ シニア教員は、全員で互いに協力して研修をサポート
5. 教員育成の方法を開発する  
～ 模擬講義を通して大学における教育方法の改善を模索

## IV-2-3.育成対象者の選考 ～目標を大きく超える育成対象者数

- 大学統計教員育成研修の育成対象者（第1期～第4期）は計49名に達し、うち38名（第1期12名、第2期13名、第3期13名）が研修を修了。当初の活動目標値（3期・30名の研修修了者）を大きく超える成果。
- 第1期研修～第4期研修の育成対象者計49名は、中核機関への働き掛けと参画機関事業担当教員の理解・尽力もあり、医学、工学、学際情報学、経済学、情報学、数理科学、文学、保健科学、薬学、理学等の幅広い専門分野の若手研究者。また、選考においては、育成対象者の要件として、博士学位など「能力と意欲（第1期選考では3項目、第2期選考以降では4項目）」を研修参加推薦要領に明記した上で、コンソーシアム選考委員会において、研究概要などの研修参加推薦書類を基に、「専門領域での成果」、「統計の知識・経験」、「意欲・積極性」、「貢献度・将来性」の4点について点数化し、判断が難しいときには追加書類提出を求めるなど、客観的かつ丁寧に選考し、育成対象者の質を確保。
- さらに、第1期研修応募者の中には、統計学に関する知識を明確に評価できない者が散見されたため、統計学基礎知識の確認がより客観的に行われるよう、第2期募集以降、統計検定2級の「試験結果レポート」の添付を要請。また、大学統計教員育成研修の目的を十分に理解していないと思われる応募者には、確認のための追加資料を求めるなどして、研修開始時には全員が同じ目標をもてるよう配慮。

IV-2-4.大学統計教員育成研修の適切な実施 ～統計学を活用した新たな研究成果を創出①

- 中核機関は、研修目標を効果的に達成するため、協力機関である東京学芸大学の高等教育力強化手法に関する助言を踏まえ、研修生全員（育成対象者、シニア教員、その他研修部教員）が参加する全体研修において、育成対象者が模擬講義を繰り返し実施することにより、互いに切磋琢磨できる環境を形成した。さらに、模擬講義を動画として保存して、育成対象者や研修部教員の間で共有するとともに、その一部をコンソーシアム会員サイトに掲載するなど、他に例をみない有用な取組を導入し、研修を実施。
- それぞれの講義を無理なく習得できるようにするため、2年間の研修期間を第1クールから第4クールまで半年ずつに区切り、次のようなカリキュラム・科目で研修を実施し、クール毎に目標及び達成度を確認した。研修開始に当たっては、育成対象者が自らの専門分野の研究内容を発表し、メンター全員がその内容を理解した上で、個々の育成対象者がどのような発展を目指すかを「研修部会議」において検討し、育成対象者の今後の研究業績の創出やキャリア形成に繋がるよう配慮した研修を計画的に実施。

|       | 到達目標                                      | 研修科目の概要                                                                                                         |
|-------|-------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1クール | 基本的な統計学の講義ができること                          | 「統計ベースライン特習」・「統計教育力育成演習」・「統計研究力強化演習」から構成される基礎科目・必修科目を中心                                                         |
| 第2クール | 発展的な統計学の講義ができること                          | 3科目の基礎科目に加え、共同研究演習データサイエンス特論（統計的因果推論、統計的時系列解析、多変量解析、統計学実践とその数理、医療統計と研究公正）、先端的データ分析演習（R環境）などの個別科目・選択科目を開講して研修を実施 |
| 第3クール | 育成対象者自身の研究業績や所属参画機関における統計エキスパート育成に活用できること | 共同研究演習、教材開発演習及びコンサルテーション演習を中心に、先端的データサイエンス特論や先端的データ分析演習等を機動的に実施                                                 |
| 第4クール |                                           |                                                                                                                 |

- 研修に使用するテキストについては、海外の著名大学における授業内容・使用テキストなどを基に検討し、洋書3種類を含めた6種類の基本テキストを選定した。特に“An Introduction to Statistical Learning: with Applications in R (Springer Texts in Statistics)”は、グループ研修や模擬講義を通じてすべての育成対象者が理解することができるよう配慮するなど、世界水準に見合う人材の育成を推進。その後の研修の進捗に伴い、第3クールの開始前に大幅なテキストの見直しを実施し、英文テキストを従来の3種類から6種類に拡充し、全体のテキストも従来の6種類から18種類に拡充するとともに、最新の統計手法を育成対象者の今後の研究に活用できるよう研修内容を充実。
- また、上記の研修カリキュラムや使用教材等を、コンソーシアムホームページなどを通じて参画機関に提供し、参画機関内の統計エキスパート育成システムの構築・推進を支援。

## IV-2-4.大学統計教員育成研修の適切な実施 ～統計学を活用した新たな研究成果を創出②

- 研修成果を実践の場でも活かすため、育成対象者・研修修了生は、所属機関等において、「統計科学基礎」、「統計的モデリング実践論」、「統計学及び演習」及び「データサイエンス1（記述統計）」などの講義を担当。
- これを第1期生から第3期生38名についてみると、令和6年度（2024年度）の計79講義から令和7年度（2025年度）には計111講義（令和6年度の1.4倍）と着実に増加しており、研修を通じて培ったシラバスや教材の改善は、今後の統計エキスパート育成システムの推進にも貢献。
- また、これら38名の研修修了者については、統計学関連の講義に加え、①研修経験を活かした大学院生の研究指導、②研修を通して修了者が開発した授業法・教材等の学内展開、③学内の統計エキスパート育成システムの構築・推進活動への参画などを通じ高く評価。これらの講義実績・学内での活動評価を背景に、着実にキャリアアップ。
- 第2・第3クール以降は、基礎科目に加えて、個別科目（コンサルテーション演習、教材開発演習、共同研究演習、先端的データサイエンス特論、先端的データ分析演習）を有機的に組み込んで実施。メンターとのグループ研修では、育成対象者に応じた統計学のきめ細かな指導を実施。メンター教員の指導の下、育成対象者2名が共同して研修用教材「Lecture Slides of Statistical Learning - by Trevor Hastie and Robert Tibshirani」の翻訳を行ったほか、育成対象者全員が共同して「統計学基礎の指導のためのスライド作成」に取り組むなど、今後の統計エキスパート育成にも有用な成果を得るとともに、研究業績に繋がるよう、統計関連学会連合大会企画セッションや、応用統計学会、日本計算機統計学会等において成果を発表。
- さらに、多様な専門分野から参加している育成対象者間の交流や、専門分野の題材への新たな統計手法の適用などを通じて、「参画機関における修士水準の統計授業・演習、統計研究指導が可能となる大学統計教員の育成」という当初の目的に加え、以下のような新たな価値の創出ともいえる成果も創出。
  - ・ 育成対象者の専門研究分野（遺伝子発現の解析）における研究（遺伝子発現の変化を捉えるための公共データベースとの比較）において、統計的手法（ブートストラップ法）を応用してサンプルのばらつきを評価するなどの新たな研究成果を創出。
  - ・ メンター教員1名と育成対象者3名の共同翻訳による、統計学の入門書としても活用可能な「ヘルスデータサイエンス-健康科学のための統計解析-」の刊行（令和5（2023）年8月）。
  - ・ 細線化と画素色調解析技術を用いた、眼底写真における動静脈交叉現象の自動検出（研修生が有する医学的な知見（薬学）と統計学の融合により、眼底画像処理装置に関する特許を申請）。

## IV-2-5.大学統計教員育成研修環境の整備 ～高機能計算機や各種演習用データ整備

- 中核機関においては、①メンターなどのシニア教員の雇用、②育成対象者が研修や研究に使用できる専用の研修室の整備、③育成対象者が参画機関からリモートアクセスすることも可能な高機能計算機や、様々なデータ分析が体験できる各種データの整備等を実施。
- また、育成対象者が所属する参画機関に対し、育成対象者が研修に参加しやすい環境の整備、学会での発表などに必要な支援を実施。参画機関は、この支援により、①代替教員や補助者の確保、②通常業務効率化に資する機器やソフトの整備など、研修に専念しやすい環境の整備などを推進。
- さらに、滋賀大学と連携し、西日本の研修拠点である「統計数理研究所サテライト」にオンライン講義のためのスタジオや研修専用室を設置し、関西地域などの育成対象者が使用できるよう研修環境を整備。サテライトの運営には、滋賀大とのクロスアポイントメント教員や研修部配属のシニア教員に従事させ、研修実施体制を確保。

## IV-2-6.大学統計教員育成研修対象者の評価 ～修了基準を明確化・共有

- 中核機関では、研修の実施と並行して所要の検討を行い、研修部会議において、次に示す各科目に関する評価基準・修了基準を第1期研修・第1クール終了までに設定するなど、修了基準を明確化（前出参考3参照）。
- 「基礎科目」に関しては、①統計ベースライン特習、②統計教育力育成演習及び③統計研究力強化演習について、模擬講義を通してメンターが採点を行い、基準を超えているか否かを確認して評価するとともに、客観的な統計学に関する能力として④統計検定2級の合格を確認し、これらを「必修」とすること。
- 個別科目に関しては、育成対象者が選択する次の科目の中から複数科目を選択し、その成果物に対してメンターなどの担当教員が研修部の基準に従い評価し、認められた科目の重みの合計点100点以上を取得とすること。
- また、この評価・修了要件については、育成対象者に説明し、理解を得た上で、運営委員会における審議、総会における了解を得て正式に決定することにより、コンソーシアム全体で共有。
- 本修了要件の下で、各育成対象者が自ら研修計画を策定して個別科目に参加することとした。なお、第1期から第3期の育成対象者計38名については、全員が上記の修了要件を満たしたことから、修了証及び履修証明書を交付して、質保証された研修修了者であることを大学等が認識できるよう配慮。

## V 中間評価の留意事項への対応状況

- 国際的統計人材の育成に向けて、英語での講義に対するサポートなど、国際的コミュニケーション能力を涵養する取組も考慮すること。

- 大学統計教員育成研修では、海外でも実績のある英文テキストを試用・評価し、最新の統計手法を今後の研究に活かすことができるよう配慮し、令和4（2022）年度の見直しにより従来の3種類から6種類に拡充した英文テキストを使用。
- 令和6（2024）年度には、更なる国際的コミュニケーション能力涵養の余地を検討するため、全ての育成対象者を調査対象として、その能力やニーズ等の実態を把握するアンケート調査を実施。その結果、本研修において英語コミュニケーション能力を涵養する取組を行うことについては、「必要ではない」・「どちらかという必要ではない」とする者が全体の63%を占め、自由記入欄には「研修負担がかなり大きくなる」、「統計学の習得と上級英会話手法の習得の両立は難しい」、「統計学でのつまずきか英語でのつまずきか判別できなくなる恐れがある」、「研修の趣旨と異なる」などのコメント。
- 一方、従来から一部で取り組んでいる「全体研修で使用する資料への基本的な用語の英語訳の付加」、「英語による資料作成の容認」、「英語による統計学の講義・講演の聴講」などを評価する意見もあることから、これらの取組について研修部会議において改めて確認、推進。
- このような取り組みの結果、育成対象者による国内外で開催された国際会議等への参加、英語による口頭発表・ポスター発表や、国外の英語論文誌への研究論文の掲載件数は年々増加するなどの成果

| 年度        | 国内外で開催された国際会議等における英語による発表 | 国外の英語論文誌への研究論文の掲載 |
|-----------|---------------------------|-------------------|
| 令和4（2022） | 4件                        | 10件               |
| 令和5（2023） | 24件                       | 40件               |
| 令和6（2024） | 33件                       | 42件               |
| 令和7（2025） | 36件                       | 53件               |

- 運営体制について、運営委員会等の委員の所属が一部固定化されているため、一部入れ替え等を視野に入れ、より多くの参画機関の意見を集約できるよう検討すること。

- コンソーシアム運営委員会の体制については、第11回運営委員会（令和5（2023）年5月1日）で承認された「改選の考え方」に沿って、参画機関委員を従来の5名から8名に増員し（中核機関委員は5名に据え置き）、新たに参画機関に加わった機関を含めて、幅広い意見を反映できるように見直し。
- 令和6（2024）年4月の委員交代に際しても、この「改選の考え方」を踏まえ、後任の運営委員会委員を指名したが、一方で、定期的な見直しの契機となる「任期」については定められていない。このため、第17回運営委員会（令和6（2024）年7月2日）において意見交換を行った上で、第23回運営委員会（令和7（2025）年12月2日）において、コンソーシアム規約に「2年ごとに定期的な見直し」を行うことを明確化した上で、2年後の令和8（2026）年度に委員改選を実施する方向で合意。

- 統計学・データサイエンスは産業界でも必要とされているため、本事業の研修内容や育成人材について、産業界からの評価のフィードバックを得ることについても検討すること。

- 第4回コンソーシアムワークショップ（令和6（2024）年9月9日開催）において、産業界・公的機関・大学における統計エキスパート育成に向けた取組状況や期待・ニーズについて、それぞれの代表からコメントやフィードバックを得た。これにより、統計学・データサイエンスが必要とされている産官学における人材育成の現状、課題等を会員間で共有し、統計エキスパート育成の今後の展開に向けた考察を行うための基礎情報を蓄積。
- 今後とも、会員機関と連携協力し、産官学に求められる統計エキスパート人材や、コンソーシアムとしての在り方などについて、引き続き検討する計画。

- 今後の本事業の継続・発展に向けて、メンターの質の確保に留意しつつ、新たなメンターの採用も見据え、本事業での経験やノウハウ等を記録・蓄積し、漏れなく引き継がれるような取組を検討すること。

- 令和7（2025）年4月に開講した「第4期研修」の円滑な実施を図るため、クローポ制度を活用して新たなメンター1名を確保するとともに、今後のメンター候補のリストアップ・選考等に着手。
- 大学統計教員育成研修のノウハウは、研修部会議の記録や、育成対象者による模擬講義及びシニア教員による講義の動画・資料の保存等を通じてこれまでも蓄積に努めているところであり、引き続きこの取組の徹底を図るとともに、蓄積されたノウハウ等を体系的に整理するなどして、参画機関における活用にも一層配慮する方針。
- このほか、達成度管理ワーキンググループ（育成対象者・所属参画機関の研修担当教員・担当メンターにより構成）において、育成対象者ごとに各クールの到達目標、研修担当教員の意見、メンターからの助言等を把握。
- また、ノウハウ蓄積の取組の一環として、コンソーシアムHPの「会員サイト」に第1期修了生による教材開発演習の成果である「統計学基礎教材集」を掲載（令和6（2024）年10月）。引き続き、第2期修了生による「統計学基礎 教材集2025」（令和7（2025）年1月）及び第3期修了生による「統計学基礎 教材集2026」（令和8（2026）年2月）をそれぞれ掲載し、参画機関による統計エキスパート人材の育成を支援。

- 統計エキスパート人材を、ニーズに対応しつつ多様な分野で育成する取組は、本事業終了後も継続する必要性があり、事業終了後も本事業の成果を活用し、コンソーシアムを中心として発展的に継続できるよう、事業実施体制も含めて検討すること。

- コンソーシアム運営委員会及び同委員会委員による懇談会において、①令和4（2022）年度に中核機関が実施した自己点検及び令和5（2023）年度に文部科学省「統計エキスパート人材育成プロジェクト推進委員会」が実施した中間評価の結果や、②これまでの本事業の成果、③本事業を取り巻く環境の変化、④会員機関のニーズなども踏まえつつ、今後のコンソーシアム活動や大学統計教員育成研修などのあり方を検討。
- 具体的には、第23回運営委員会（令和7（2025）年12月2日）において、①中核機関における現行プロジェクトで蓄積された教材やノウハウ等を最大限有効活用し、統計学を教育・指導できる「統計学教員」の育成を加速すること、②本コンソーシアムを自律的に活動できるネットワークとして更に発展させるため、コンソーシアムの連携・機能等の強化に向けた取組方策の検討を開始することなどを内容とする当面の取組方針を確認。
- その後、第24回運営委員会（令和8（2026）年3月9日）においては、政府予算案の動向も踏まえつつ、この新たな人材育成事業への対応方針を基に、コンソーシアム一体となって公募申請に向けた準備を進めることを確認。

# VI プロジェクト期間中の環境変化に対応した今後の対応方針

## VI-1.5年間の取組成果の概要

- 中核機関を中心としたコンソーシアムでは、上記Ⅲ～Ⅳのとおり、令和3（2021）年度のプロジェクト開始から令和7（2025）年度の5年間に、38名の大学統計教員を育成し、これらの大学統計教員により、令和6（2024）年度以降、年間100名を超える統計エキスパートを輩出する体制を整備するなど、当初の目標を超える成果。

## VI-2.プロジェクト期間中の環境変化

- このプロジェクト期間中に、膨大なデータから新たな知見を引き出せるデータサイエンティストに対するニーズはますます高まり、データサイエンス系の高等教育組織・教育プログラムの整備が急速に進展。
  - ①「データサイエンス系学部・学科」の新設ラッシュ：設置校の数は、4大学（令和2（2020）年度）から40大学（令和7（2025）年度）に急増。
  - ②「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」制度の創設：認定校（リテラシーレベル）は、0大学（令和2（2020）年度）から490大学（令和8（2026）年4月現在）に急増。
- このように組織等の整備が急速に進んだ反面、わが国には米国等の諸外国に設置されている統計学部が存在しなかったため、データサイエンスの基盤となる統計学の専門教員の不足が顕著。
  - ①全国の国公立大学のうち、数理教育は53%、データサイエンス・AI教育は62%で教員が不足（令和5（2023）年9月26日 日本学術会議見解）。
  - ②AI戦略により、全大学生にDSの知見（リテラシーレベル）が必要とされる一方、全国約800大学のうち517大学にはDSの基盤となる統計学の専門教員が不在。
  - ③大学教員の求人公募数：「統計」（128件）は「機械学習」（37件）や「情報科学」（67件）を大きく上回り、増加中（令和7（2025）年 科学技術振興機構）。
  - ④統計教員の求人は、経済学部・社会学部などの社会科学系が公募全体の約半数を占め、DS系に限らない幅広い学術分野でニーズが高い（同上）。
- 以上のような喫緊の課題に対応し、データサイエンス・AIの基盤である「統計学」全般を体系的に教え、機械学習・ディープラーニング等の基礎となる統計的思考・手法を活用した研究・指導を行うことのできる統計学教員を始めとする高度統計人材の育成を推進するためには、これまでの事業のノウハウや成果を活かして統計学教員の育成を加速し、高度統計人材を安定的に輩出する人材育成エコシステムを構築することが必要不可欠。

# VI プロジェクト期間中の環境変化に対応した今後の対応方針

## VI-3.新たな取組への対応方針

第24回運営委員会（令和8（2026）年3月9日開催）においては、上記VI-2の環境変化や文部科学省の「高度統計人材育成強化拠点事業」の創設に対応し、以下の対応を行うとの方針を定め、令和8（2026）年度以降、その実現を推進することを決定。

- ① 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構を「中核機関」、国立大学法人滋賀大学を「協働機関」とする「中核機関群」と、中核機関群に協力する大学・大学共同利用機関の学部・学科・センターなどの機関から構成される組織（以下「コンソーシアム」という。）として発展的に整備。
- ② 中核機関群は、統計エキスパート人材育成プロジェクトにおいて開発した期間2年の「大学統計教員育成研修」の教材・ノウハウ等を基に、期間1年の「育成研修」を中心とする新研修プログラムを開発し、事業期間内に80名以上の質保証された統計学教員を育成。
- ③ これら80名以上の統計学教員及び前身事業の大学統計教員育成研修修了者38名が1人当たり3～4名の統計エキスパート人材を育成することにより、令和15(2033)年度以降、毎年500名程度の統計エキスパート人材を安定的に輩出する人材育成エコシステムを構築。
- ④ 統計科学の知識とスキルを持ったデータサイエンティストを集中的に育成する「Leading Data Analytics Talents（通称：リーディングDAT）」などの人材育成事業の知見を有する統計数理研究所統計思考院や関係教員との連携を強化し、育成研修修了者の知見も活用することにより、短期集中型研修プログラムの開発や実践などの取組を行い、高度な統計人材の育成を加速。
- ⑤ 上記①から④の取組と併せて、コンソーシアムを自律的に活動できる有機的なネットワークとして発展させるため、主要参画機関等との協力・連携を強化し、地域や分野の特性を踏まえた大学等拠点モデル構築に向けた調査研究を開始し、その結果を踏まえ検討を進め、実証を経て、事業期間終了までに人材育成の中核となる拠点の構築を目指す。

## VII 参画機関におけるプロジェクト期間中の取組状況

### 茨城大学

- 統計エキスパート育成システムの推進に向け、大学院農学研究科では、統計教育のプログラム化と演習環境の整備を目的とした5年間の取組を展開した。特に、学部の「農学部データサイエンス教育プログラム」からの接続性と発展性を重視し、大学院における統計学教育を応用から専門基礎まで網羅する体系的なカリキュラムの設計を目指した。
- 主な成果として、大学院共通の統計教育強化を目的に、従来の「統計学」に加え、統計検定準1級・1級レベルの内容を含む「統計数理学特論」および「統計解析学特論」の2科目を新規開講した。令和4年度以降の修士課程における統計関連科目の延べ履修者数は141名に達し、そのうち24名がこれら新規の統計科目を履修し、より発展的な知識を習得した。
- また、持続的な教育体制の構築として、第3期大学統計教員育成研修への教員派遣（令和6年度～）に加え、令和7年度には助教1名を新たに採用し、指導体制を拡充した。
- 今後は、これらの成果を基に、農学分野における高度統計人材の体系的な育成モデルの制度化を進めるとともに、多様な専門科目群との連携を深め、より実践的な統計応用力を備えた人材育成を推進する。

### 大阪大学

- 狩野裕教授(現同志社大)が3年間、鈴木譲教授が2年間、コンソーシアム運営委員会委員を務めた。
- 修士学生の1名が本プロジェクトの支援で統計検定準1級を受験した。それ以外に過去5年間で20名以上が準1級、1級を受験した。
- また、10名程度が博士を修了して大学教員(助教、ポスドク)になった。将来的に本プロジェクトを利用する可能性がある。

## 岡山大学

- 本学から2名の教員（第1期、第3期各1名）がそれぞれ2年間の研修に参加し修了した。研修参加教員は本学における研修として研修担当教員の授業・演習科目に参加し、自身の知識・技能の向上に努めるとともに、本学の統計教育に貢献いただいた。第1期研修を修了した教員は参画機関の長崎大学に転出したが、第3期研修を修了した教員は、今後も本学の学部・大学院における統計・データサイエンス教育強化に携わる計画である。
- 令和4年4月にAI・数理データサイエンスセンターを設置した。同センターAI・数理データサイエンス教育推進部門では、統計エキスパート育成システムの推進を所掌業務内容の一つとして、研修育成対象者の支援・環境整備を行ってきた。
- また、同センターではAI・数理データサイエンス教育プログラムの開発・改善に努めており、文部科学省から「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」（リテラシーレベル：令和3年度から、応用基礎レベル：令和5年度から）の認定を全学部で受けている。教育プログラムに研修の成果をフィードバックすることで、本学のAI・数理データサイエンス教育強化に寄与する体制を構築している。
- 令和4年4月に当時中国地区で初となる公的マイクロデータオンサイト施設を開設し、社会科学等における公的統計利用の普及発展に寄与している。
- 令和5年4月に理系大学院を再編改組して大学院環境生命自然科学研究科を設置した。博士前期課程 数理情報科学学位プログラム・数理データ科学コースの統計データ科学に関する教育研究分野において、年間数名ずつの統計エキスパート人材を育成できる体制となっている。
- 文部科学省の公募事業（Xプログラム）により、令和7年4月に大学院教育学研究科を改組して修士課程教育科学専攻に「教育データサイエンス学位プログラム」を設置した。文系学問分野とデータサイエンスを融合させるカリキュラムの導入により、ダブルメジャーの統計エキスパート人材育成を推進している。

## 九州大学

- 教育面では、大学院修士課程学生向けの統計学教育プログラムの運用を継続し、スタディグループワークショップや実践的なPBL科目を通じて、社会の課題解決に資するデータ分析能力を備えた人材をコンスタントに輩出する体制を構築した。
- 若手教員（研修育成対象者）の育成面では、純粋数学（代数、幾何等）をバックグラウンドに持つ若手研究者に対し、計算機環境の整備や国内外での講演の機会を提供した。その結果、彼らが統計学の概念を吸収し、「代数統計学」をはじめとする数理・統計の融合分野において具体的な研究成果を創出するに至った。特に、国際的トップジャーナル（Psychometrika）への論文掲載や、データサイエンスPBLを通じた学生指導の実践など、研究・教育の両面において自立した「大学統計教員」を複数名育成することに成功し、当初の目的である育成基盤の構築を達成した。

## 京都女子大学

- 第1期大学統計教員育成研修修了者の研究および教育の質を向上させることを目的として毎年度京都女子大学データサイエンス学部・研究所シンポジウムを開催している。本シンポジウムは主に2つのセッションに分かれて実施されている。1つはデータサイエンス系の学部・学科を有するまたは設置予定の大学の先生を講演者と招く「データサイエンス教育」のセッション、もう1つはデータサイエンス関係の研究者・実務担当者を招き、データサイエンスの利活用法について講演いただく「データサイエンス活用」のセッションである。研修生はこのシンポジウムに参画することで、データサイエンスの教育力と研究能力を養うだけでなく、人脈作成を行った。これらの成果は研修生の口頭発表や論文発表件数に表れている。
- 研修生の教育力を高めるための取り組みとして、「データサイエンスカフェ（DS Café）」の運営も行われた。これは3年間通じて行われたものであり、DS Caféでの様々な質問や講義に対するフィードバックを得ることにより、研修生の教育スキルは磨かれている。これらの成果は講義の参加人数が多くなっていることや、研究室ゼミでのコンペティション成果（2025年度スポーツデータサイエンスコンペティションポスター部門優秀賞、マーケティング分析コンテスト2025最終選考作品等）につながっている。

## 京都大学

- 2023年度に委託費で購入したサーバー上に、京都大学の認証システムと連携したMoodleを稼働させ、学内のデータサイエンス関連講義で使用するオンライン試験実施環境を整備した。初年度は試験的に4クラスでオンライン試験を実施し、学内のデータサイエンス関連科目を担当する他の教員とオンライン試験のメリット・デメリット、試験結果および運用状況について情報を共有した。その結果、2023年度以降は同環境を活用する教員が増え、学内でノウハウの共有・蓄積が進んだ。また、試験のノウハウや試験問題についても情報が共有され、教員間での相互利用が促進されるなど、教員間の連携が深まった。
- さらに、研修修了生が「統計エキスパート人材育成プロジェクト」においてシニア大学統計教員から指導を受け、担当した授業「統計入門」や「データ分析演習Ⅰ」の実践結果を分析した。受講者の学習動向などを踏まえ、これまでの授業における課題や問題点が明らかになった。これらの知見は、同じ授業を担当する他の教員とも共有され、授業改善に役立てられている。
- また、エキスパート人材育成を目的として購入したワークステーションを用いて、情報学研究科データ科学コースの学生に対して実践的な研究指導を行い、CIREDIS教員の指導で16名が修士課程を修了した。現在は、修士課程に12名、博士課程4名在籍している。

## 群馬大学

- 第1期、第3期および第4期において、3名の教員を研修生として派遣し、第1期および第3期の研修生が研修を修了した。第1期生は、助教から准教授へ昇格するとともに、所属していた食健康科学教育研究センターが研究科へ改組されたことに伴い、大学院修士課程における教育・指導を担う体制の構築を完了した。第3期生は、数理データ科学教育研究センターに所属し、群馬県教育委員会との連携により、現職の高校教員に対するリスキリング教育を実施する体制を構築した。第4期生は、数理データ科学教育研究センターに所属し、地域企業との連携によるリスキリング教育の実施に向けた準備を進めている。

## 慶應義塾大学

- 当研究科には従来から、分析科目という科目分類がある。専攻またプログラムにより必修科目及び履修すべき科目は異なるが、公衆衛生の統計的な基礎をなす生物統計学に関する基礎生物統計学1・2、応用生物統計学、観察研究のための分析手法を学ぶクオリティマネジメント、サービスデータサイエンス、多変量因果解析、調査手法にインタビューを用いる研究のための質的研究法などで構成されている。
- この中で本プロジェクトによる支援は主に、観察研究のための3科目を対象として運用した。初年度にビデオ講義の制作と、研修生の候補者に貸し出す分析用のノートパソコンとソフトウェア、2年目にはリモートの分析環境の整備を充実させることができた。3年目以降もビデオを活用しつつ、整備したパソコンを授業の履修者に貸し出すなど、学生の大学での教育環境の充実に使用した。
- また一貫校生を対象に、公衆衛生に関わる教員がデータサイエンスサマーキャンプという取り組みを開始した。そこに参画しつつ、スポーツに関するデータサイエンスの検討を、今後も継続していく。

## 国立極地研究所①

- 第1期研修を修了した若手教員によるデータサイエンスに関する新たな講義（極域データ解析学と先端極域計測学）を総合研究大学院大学の極域科学コースのカリキュラムに追加し、前者は2023年度から、後者は2026年度から講義を開始した。
- 所内教員向けにデータサイエンスや統計に関する要望を尋ねるアンケートや意見交換会を実施し、必要とされる支援等について議論した。その結果をもとに、所属研究者を対象として、統計・データサイエンスに関する外部の有料講習の受講費用を補助する取り組みを行った。また、継続的な議論・情報共有のためのスペースをGoogle Spaces上に立ち上げ、活用している。

## 国立極地研究所②

- 事業担当教員を中心に本予算を活用して、統計解析用の大量データを保管するシステムを構築した。同システムには大容量の全球気象データやEISCAT（3D）レーダーデータを収容し、国内外の関連研究者の利用に供している。また、本予算で調達した大型モニターを所内の共有スペースに設置し、育成対象者を含む所内研究者が統計やデータ解析等に関する議論を行う場として活用した。

## 滋賀大学

- 本学は、2021年度のプロジェクト開始以降の5年間にわたり、データサイエンス教育を基盤とした統計エキスパート人材の育成に、組織的かつ計画的に取り組んできた。事業担当教員および研修担当教員によるワーキンググループを設置し、統計学の教育上の位置づけを再整理するとともに、大学院カリキュラムの点検・改善を継続的に実施し、理論と実践を往還する教育体系の高度化を図ってきた。
- 実践的能力育成の中核として、2022年度以降、金融、保険、製造、インフラ、情報通信、医療、自治体、研究機関等と連携した共同研究・受託研究を毎年度複数件実施し、5年間で30件を超えるデータ分析・課題解決型プロジェクトを展開した。これらの取組には大学院生を計画的に参画させ、延べ60名以上が実データを用いた統計解析、モデリング、予測、評価を経験しており、問題設定から成果報告までを担う高度な実践力の育成につながっている。
- また、統計エキスパート事業の研修には第1期から第4期まで延べ5名の教員が参加し、統計理論、因果探索、機械学習等に関する研究力・教育力の高度化を実現した。国内外の学会発表や査読付き学術誌への論文掲載といった具体的な研究成果が継続的に創出されており、助教から講師への昇格を含め、本学の統計・データサイエンス教育を牽引する中核人材として育成されている。
- さらに、サテライト研修施設の整備・活用を通じて、研修実施、教材開発、他大学研修生の受入れ、交流拠点形成を推進するとともに、統計・データサイエンス分野の専門書・教材を複数刊行し、教育資源の体系的整備と全国的な波及にも寄与した。
- 以上のように、本学は教育・研究・社会連携を有機的に結び付けた取組を5年間にわたり着実に推進し、統計エキスパート人材育成拠点として顕著な成果を挙げた。

## 順天堂大学

本プロジェクトの5年間（令和3～7年度）を通じ、順天堂大学では統計エキスパート育成のための環境整備・人材育成・研究推進の三側面から継続的な取り組みを実施した。

- 教育環境の整備：令和3年度から始まった整備により、実習用ワークステーション9台（ノートパソコン含む）、NAS、ペンタブレット、および令和7年度に購入した大規模ストレージサーバーなどの教育・研究環境が順次整備した。これにより、大規模医用画像データを用いた実践的統計教育を実施できる環境構築が完了した。
- 教育プログラムの発展：令和3年度の大学院医学研究科修士課程データサイエンスコース開講に始まり、令和5年度のデータサイエンス学位プログラムへの再編、令和6年度の博士課程開設、そして令和7年度の大学院健康データサイエンス研究科新設と、教育体制は段階的・継続的に拡充された。修士・博士課程を通じた統計エキスパートの体系的育成が可能な体制が整った。
- 研修対象者の育成：第2期研修育成対象者である講師及び第3期研修育成対象者の助教は、本プログラムを通じて統計的専門性を高め、本学の研究・教育の両面で中心的な役割を担う人材へと成長した。また、大学院教育において確率・統計論や医用画像統計解析特論等の授業を担当し、次世代の統計エキスパート育成にも貢献している。具体的には、講師はデータサイエンス研究演習II(画像診断)(大学院後期)、データサイエンス概論 B（大学院後期）、データサイエンス概論（学部前期）、内田航助教はデータサイエンス研究演習II(画像診断)(大学院後期)、確率と統計I（学部後期）、確率と統計II（学部後期）、生体情報解析基礎（学部後期）、統計学基礎（総合研究大学院大学先端学術院統計科学コース前期）にて統計学に関連する講義を担当し、学生からも高い評価を得ている。

## 上智大学

- プロジェクト予算で作成したオンデマンド教材や、統計ソフトウェア等を活用し、大学院生へ教育や研究活動を充実させた。
- 統計数理やデータサイエンスの知見を学内の他専攻にも広げることの第一歩として、統計と親和性の高い看護学専攻と連携を行うことになり、研修に参加した教員の科目をはじめとする多くの科目を供出し、看護×統計・データサイエンスというコンセプトで看護学専攻側のカリキュラムの幅を広げることとした。
- また、看護学専攻と共同でのFD開催や共同研究等も進めている。

## 総合研究大学院大学

- 大学院での統計科学の基礎科目として8つの科目を提供している。専門科目として40程度の科目を提供している。統計科学関連の学位取得者を12名輩出した。
- 基礎科目の一つで、研修修了生に講義の場を提供している。

## 中央大学①

### 【統計エキスパート育成システムの構築・推進について】

- 令和3年度は、大学院生等にとって身近な分野であるスポーツに着目し、大学スポーツを通じた、問題の定式化（problem）、分析計画の策定（plan）、データ収集（data）、分析（analysis）、解釈（conclusion）といった統計的探求プロセスによる問題解決のスキル向上を目指すために、野球とソフトボールにおける投球・打撃データの計測機器によりトラッキングデータおよび映像データを収集する環境を構築した。これにより、実データに基づいた統計的思考力（statistical thinking）が醸成された人材の育成を目指した。
- また、統計学やデータサイエンスに関する自修環境支援を目的としたチャットボットを配備することで、オンデマンド教材を用いた統計学の自修プログラムの整備を進め、チャットボットとTAとの連動による効果向上がなされた。
- 令和4年度は、前年度に引き続き野球とソフトボールにおける投球・打撃データの計測機器によりトラッキングデータおよび映像データを収集する環境をさらに整備すべく、野球の試合中のデータ収集し、分析、解釈する環境を整えた。また、遠隔授業等を行う環境を整備し、キャンパスをこえた活動を支援した。
- 令和5年度以降は、これまでに環境を整えたデータ収集、分析の基盤とあわせて、実データに基づいた活動をすすめるため、仮想専用サーバーの利用や、ビッグデータを基にした分析ツール利用する基盤を用意した。あわせて、収集データのデータ転送のためのルーターや遠隔会議用のシステム導入をすすめた。それら分析、実験環境を十分に活用することで、統計的思考力を養うための演習、ゼミ活動を積極的にすすめることができた。

### 【研修生について】

- 令和5年度から第2期研修に参加した研修生は、1年目には基礎的な統計学を学び直すところから学習を始め、回帰分析や不完全データの統計学など、計算機を用いた統計学について深く学習を行い、習得した。2年目では自身の研究分野への統計学の応用として、関連する数理統計やデータ同化に関して学んだ。

## 中央大学②

- 令和6年度より、本学理工学部の特任准教授に昇格し、理工学部の都市環境学科1年生及び物理学科2年生の確率・統計の授業や、全学向けのデータサイエンス関連の授業を担当している。また、今年度から開講している大学院全研究科向けのデータサイエンス関連の授業を担当することとなったため、令和7年度はその準備を行った。これらは研修を通じて得られた知見や経験に基づいて任命されたものである。また、研究室における学生指導は毎年度行っており、特に令和5年度と令和7年度には大学院生の修士論文研究指導を密に行なった。
- 令和7年度に第4期研修に参加した研修生は、より計算能力の高いコンピュータを導入し、大規模データを用いた統計解析・機械学習実験を円滑に実施できる個人研究環境を整えた。加えて、大規模モデルを用いた評価実験については、高性能GPU環境を備えた外部計算資源をレンタル利用することで、ローカル環境では困難な実験を可能とした。また、研究テーマに関連するアンケート調査を実施し、実データの収集・分析を通じて、研修で学んだ統計的手法を実践的に応用する機会を設けた。また、委託費を活用し国内外の学会への参加・発表を行った。学会発表を通じて研究成果を外部に発信するとともに、興味をもつ分野の最新の研究動向を把握する機会を設けた。

## DS共同利用基盤施設①

- 本施設は2022年度よりの参画である。この間育成対象者としてのべ3名を予定していたが、1人目が早期に他機関へ移籍（他機関から研修には参加）したため、実質的に第3期と第4期に1名ずつの参加となっている。本施設は大学等研究者に対するデータ共有支援（一部センターはデータ解析支援）を主たる活動としており、特に本エキスパート育成システムを担当する社会データ構造化センターは主として社会科学分野におけるデータ共有支援型のセンターである。この性格から、同センターにおける公的マイクロデータ事業グループおよび社会調査事業グループが展開する事業に参画するOJT型の教育により、具体的な大規模実データの構造化・ハンドリングの経験や、新しい手法の開発や実データの取得の実務経験の蓄積、あるいは教材開発の経験を通して、教育研究スキルの向上を図り、社会データの構造化・解析に長けた統計教員を養成することを目標とした活動を行うこととしている。
- 本センターでは、上記グループの活動内容に合わせて、育成対象人材の希望に合わせて、下記2コースの人材養成のためのプログラムの提供を想定してきた。
  - (1) 公的マイクロデータ事業グループにおいては、公的統計のマイクロデータやファイナンス分野における秘匿性の高いマイクロデータ等にアクセスする機会を提供し、担当教員2名（統計数理研究所リスク解析戦略研究センターを兼務する）によるスーパーバイズの下で、様々な実データに基づく解析やデータ構造化の問題に取り組む

## DS共同利用基盤施設②

(2) 社会調査事業グループにおいては、全国共同・連携調査ネットワーク形成によるデータ収集、データ整備と共同利用に関わるプロジェクトに参画する機会を提供し、メンター教員1名（統計数理研究所データ科学研究系を兼務する）によるスーパーバイズの下で、様々な手法による社会調査データの取得に関わる実務経験を積む

- こうしたプログラム内で、データ取得からデータの構造化、解析を含むデータライフサイクル上の諸側面に関する経験を積み、社会現象と対象とした分野におけるデータサイエンス教育のための大学教員養成を図ることとした。
- 第3期、第4期の育成人材は主にセンターの活動に応じたOJT的な内容としては(1)による育成を目指した。他方、センター側のメンター教員のアドバイスの下に、共同研究や教材開発の活動に携わることができた上に、教育のみならず研究上の成果も上がってきている。第3期生はコースを終了、データサイエンス教育・育成拠点の特別研修に引き続き参画する。第4期生は2026年度4月よりデータサイエンス系学部への就職を果たし、引き続き当該移籍先から研修に参加する。研修生らは大学統計教員育成センターのメンター教員・シニア教員との共同作業も増え、様々な形で刺激を受け、教育者（の卵）としてだけでなく研究者としての成長も実感している様子である。

### 東京科学大学

- 旧東京医科歯科大学は文部科学省「データ関連人材育成プログラム」に採択された実績があり、その関連で統計エキスパート育成システムに参画した。同研修の参加者は1名であったが、研修の負担が大きいこともあって、次の参加者にはつながらなかった。
- また、途中、大学統合など大きなイベントがあったことで、学内における統計エキスパート育成システムの位置づけをどうするか、調整に時間を要した。すでに、理工学系（旧東工大）の大学院修士課程においては、充実した統計・データサイエンス教育が展開されており、大学統合後、統計エキスパート育成システムで得られた知見を活かして医歯学系と理工学系の融合カリキュラムの検討が進んでいる。

### 東京学芸大学

- 動画教材「統計的推測の考え方を身につけるー推定・検定と統計用語の正しい理解を目指してー」を共同開発、無料公開を行った。
- 教員養成段階の学生に対し、個人の選択に応じた生成AIによるフィードバックシステムおよびフィードバックシステムを搭載した授業運用支援システムを開発し、学生たちの振り返りを促し、効果的な統計教育をサポートする体制を整えた。
- 授業実践に関しては、昨年度より高い授業満足度を得ることができ、特に研修生のクラスの学生の成績が同じ内容を受けた他のクラスよりも高い傾向があった。質の高い教育実践力を身につけられたことが示唆された。

## 東京大学（数理・情報）

- 東京大学の特任助教2名が統計エキスパート人材育成プロジェクトの研修に参加し、第2期大学統計育成研修を修了した。さらに、数理・データサイエンス・AI教育強化事業と連携した統計教育の充実を進めた。

## 東京大学（経済）

- 令和3年度に整備した計量経済学の分析用ソフトウェアやワークステーションの活用を継続して行っており、院生の自主的な学習・研究を通じて、機関内の統計エキスパート育成の推進を図った。計量経済学の分析用ソフトウェアについては、統計コース以外の院生についても利用を促進しており、たとえばマーケティングなどの分野の院生も利用をしている。さらに令和5年度には、主として応用データ分析を行う「政策・ビジネスのためのデータ分析」といった講義でも利用をしており、引き続き令和6年度以降においても、継続・促進した。
- このような取組の結果、所属院生は、日本統計学会の春季集会や統計関連学会連合大会等の国内外の学会にて継続的に発表を行っている。
- また、統計検定2級、準1級、1級の受験支援をいただいたことにより、院生の他に学部生に対しても広く主体的に統計学の学びに取り組んでもらうことができた。

## 東京理科大学①

- 令和7年度において東京理科大学は7学部33学科、7研究科30専攻を有する理工系総合大学であったが、さらに令和8年4月1日、創域情報学部（新学部）及び理学部第一部に科学コミュニケーション学科（新学科）を設置するに至り、8学部33学科、7研究科31専攻を有する国内でも有数の大規模理工系総合大学となった。令和7年だけでなく、既にこれまで学部生全員を対象としたデータサイエンス教育プログラム[基礎]、および、大学院生対象のデータサイエンス教育プログラム[専門]（キャンパスの特色を生かした数理・ビジネス・人工知能・医薬・機械学習・医療統計・インフォマティックスの7つのコース）を展開してきてが、さらに発展を期して令和4年度からリテラシーレベルの教育として全学部共通科目「データサイエンス・AI概論」を開講し、これは令和5年度に文部科学省から「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の認定を受けた。

## 東京理科大学②

- さらに、令和6年度からは、学部から大学院までのデータサイエンスの一貫教育を推進するために、教育プログラムをLevel 1からLevel 4までの4つのレベルに再編成した。それに伴い、データサイエンス教育プログラム[基礎]はLevel 3に、データサイエンス教育プログラム[専門]はLevel 4に変更した。リテラシーレベルはLevel 1で、リテラシーレベルに接続する科目として「データサイエンス・AI応用基礎」を開講して、概論とともに受講することによってLevel 2としたが、これは令和7年度に文部科学省より「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」の認定を受けた。Level 3は各学部の専門分野につながる能力を身につけ（学部専門教育レベル；専門基礎レベルと称す）、さらにLevel 4では各キャンパスの特色を活かした7つのコース（大学院教育レベル；専門レベルと称す）を用意し、学生が自分の専門に合わせてコースを選択できるようにしている。コースを受講する学生も年々増加しつつあり、学生の多様なニーズに応えられるよう科目を配置している。
- すなわち、本学は、数理・データサイエンス・AIに関する学術の高度化のみならず社会的な要請に対応し、過去5年間でデータサイエンス教育プログラムをわかりやすく再編、体系化し、学生が学びやすく、見えやすい教育システムを構築して来たが、このプロジェクトを通じて得られた知見・経験はこうした努力を下支えするものと評価している。

## 同志社大学

- 本プロジェクトにおいては2名の研修生および多くの大学院生を世に送り出すことができた。研修生のうち1名（任期付き助教）は研修の途中で無期の専任講師としての採用が決まり、京都女子大学データサイエンス学部に移動した。その後、移動先において研修を修了した。もう1名（任期付き助教）は研修終了後直ちに無期の専任講師として武庫川女子大学社会情報学部採用された。両名とも採用先の大学では統計関連科目を担当しており、本研修の成果が明示的に示されていると考えている。
- 研修生が育成に関わった大学院生も前期課程25名、後期課程3名となり、後期課程の3名は、関西大学ビジネスデータサイエンス学部助教、和歌山県立医科大学医学部助教、東京科学大学総合研究院プロジェクト助教と全員統計関連の教員として採用されている。前期課程の修了生の多くは外資コンサル、Sier、IT関連企業においてデータサイエンスに関係する専門職に従事している。このように、本プロジェクトにより人材育成という面では大きな成果が出ていると考えている。

## 長崎大学①

### 1.統計エキスパート育成システムの構築・推進

#### ① カリキュラム整備

- ・ 情報データ科学部 DS（データサイエンス）コースで統計学を基礎とした科目を全学年に開講した。
- ・ 「データサイエンス応用基礎教育プログラム」を文部科学省数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベルプラス）に申請し認定された（2022年度認定）。
- ・ 大学院総合生産科学研究科（2024年度新設）において統計学を基礎とした科目を開講し、統計学系3科目からなる先端統計学教育プログラムを開設した（2024・2025年度修了者各1名）。

#### ② 統計検定支援

- ・ テキストの無料配布や受験勉強会の開催、統計検定受験クーポンの配布により、統計検定に複数の学部生が合格した（2022～2024年度）。また2022年度に統計検定1級に学部3年生が合格した。

#### ③ PBL・データ分析コンペティション

- ・ 実社会課題解決プロジェクト（PBL）でデータサイエンス班を結成し、2022年度PBL合同成果報告会（インテージテクノスフィア社主催）において最優秀賞を受賞した。
- ・ 日本統計学会スポーツデータサイエンス分科会・統計数理研究所主催の2023年度スポーツデータサイエンスコンペティション・野球部門で、学部生4が入賞した。
- ・ マーケティング分析コンテスト（株式会社野村総合研究所）の応募者への指導、ノミネート・受賞グループの輩出（2022・2024年最終候補作品各1件、2025年佳作1件・最終候補作品2件）
- ・ 大学院総合生産科学研究科「マーケティングサイエンス特論」において、データ分析ハッカソンを開催し、大学院生・学部生、外部大学の学生が参加し、取り組みを長崎大学のHPで発表した（2024年度は株式会社ジョイフルサン、2025年度は株式会社インテージテクノスフィアより提供いただいたデータを使用）。

#### ④ 医療健康データ科学短期集中研修

- ・ 統計数理研究所医療健康データ科学研究センター主催の「多変量生存時間解析コース」(2023年度)・「医療健康データ科学のための機械学習コース」(2024年度)へDSコース学生各1名が選抜されて受講し、合格した。

## 長崎大学②

### 2. 高校教員・高校生向け統計教育・実践支援

#### ① 高校数学教員向け統計講習会

- ・ 正規分布・平均推定・仮説検定を中心とした統計学基礎の講習を、長崎県教育庁と共催した（2022年度受講者数163名、2023年度120名）。

#### ② 長崎大学と県内高校との協働探究

- ・ データサイエンスによるデータ探求活動の指導と助言を行った（北陽台高校、2024年度）。

#### ③ 長崎大学の高大連携事業講座

- ・ 高校生のための公開講座「数学への誘い～数学の世界を楽しもう～」のなかで「データ分析のための統計学」の講義を担当した（2025年度）。

### 3. 国際交流

#### ① 学生の海外大学への派遣

- ・ インド・タイ・韓国・中国の大学に情報データ科学部生を派遣し、現地でのアンケート調査やデータ分析、アプリ開発等のPBL・共同研究を行った（泰日工業大学（タイ、2022～2024年度）、IIIT-D（インド、2024年度）、中国東北財経大学（中国、2025年度）、釜慶大学校（韓国、2025年度）、全北大学校（韓国、2025年度））。

#### ② 海外大学の学生の受入

- ・ インドの2大学（IIIT-D、VIT）から各3名の学部学生を受け入れて共同研究を行った（2024・2025年度）。

## 名古屋市立大学

- 本参画機関（看護学研究科）では、本プロジェクトへの参画以降、段階的に研究基盤の整備および人材育成・活用に取り組んできた。
- まず、1～2年目においては、主に研究環境の整備を重点的に進めた。特に、新キャンパス（名古屋市立大学葵キャンパス）の開設に合わせ、統計解析およびデータ分析を円滑に実施できる環境の構築を目的として、PC機器や関連設備の整備を行った。これにより、教員および大学院生が日常的にデータ解析を行える基盤が整備され、今後の研究活動の基礎が確立された。
- 続く3年目においては、プロジェクトにおける育成対象教員の修了という節目を迎えたことを踏まえ、これまで整備してきた研究環境を活用し、研究活動の高度化・活性化に取り組んだ。具体的には、既存の看護研究推進センターと連携し、研究科内における統計解析を基盤とした研究の推進体制を強化した。また、統計解析に関するセミナーを年1～2回程度開催し、特に若手研究者を中心に、研究設計やデータ解析能力の向上を図った。
- さらに、学内連携の観点からは、2023年度に新設されたデータサイエンス学部との協働を推進した。修了した育成対象教員を中心に、教育・研究の両面において連携体制を構築し、データサイエンス分野の知見を活用した研究の展開を図っている。加えて、研究科内において統計解析手法を主要な研究手法とする教員を巻き込み、分野横断的な研究ネットワークの形成にも取り組んでいる。
- 以上のように、本機関では、初期段階における環境整備から、人材育成後の研究推進・組織的連携へと段階的に発展させることで、統計・データサイエンスを基盤とした研究力の向上を図ってきた。

## 名古屋大学

- 機関内に統計エキスパートを育成するシステムの構築を継続的に進めた。育成対象者の研修環境を整備するとともに、統計解析ソフトを活用した統計解析演習をより効率的に実施できるよう、解析用コンピュータを計画的に導入・整備した。また、これまでに作成したe-learning教材の内容を充実させ、修士課程や博士課程の授業に継続的に組み入れた。その他、機関内の統計解析に係る既存の授業や演習の実施時期や内容を踏まえ、統計エキスパート養成のカリキュラムマネジメントを行った。さらに、統計セミナー等の特別講義を複数回開催した。当機関が参画した2021年度以降16名が統計エキスパート育成システムに基づき修士課程（公衆衛生コース、医科学コース）を修了した。

- 2022年度の本コンソーシアム参画以降、統計エキスパート育成システムの構築に向け、教育研究基盤の継続的な整備を進めてきた。具体的には、統計関連の専門書籍の拡充、Bloombergターミナルをはじめとする学術データセットの導入、統計・機械学習に対応する高性能計算資源およびオンサイト統計分析施設の整備等を計画的に実施し、学生・教員が主体的に高度な研究を深められる環境を構築してきた。また、2023年度には大学院ソーシャル・データサイエンス研究科を新設し、統計エキスパート育成システムを同研究科のカリキュラムの中核として組み込むことで、体系的かつ継続的な育成体制を整えた。
- 大学統計教員育成研修については、2023年度には西颯斗特任助教、2024年度にはWoo Yu Jin准教授が参加した。西特任助教は「統計」を担当し、本学における統計教育の一翼を担った。またWoo准教授は「回帰分析Ⅰ」「計量政治学」「政治学の実証分析」等の統計関連講義の拡充を進めた。さらに本研究科における研究指導にも参画し、博士前期・後期課程学生に対して統計学的方法論を軸とした実質的な指導を行っている。
- 本育成システムのもと、学生による研究成果の発表は年々増加している。2024年度は学生が筆頭発表者として国内学会等で21件、国際学会等で1件の発表を行い、うち3件が学会表彰を受けた。2025年度では国内学会等42件、国際学会等7件、論文掲載3件と大きく件数を伸ばし、うち9件が優秀賞等の表彰を受けるに至っている。この発表実績の着実な増加は、本学の研究内容が外部の学術コミュニティから高い評価を得ていることの証左である。
- また、本育成システムの博士前期（修士）課程の修了者は、2023年度以降累計で延べ37名に達しており、大手コンサルティングファーム、総合電機メーカー、大手シンクタンク、広告代理店、運輸業、官公庁など、我が国の主要産業を代表する企業・機関に就職している。その多くが、情報処理・通信技術者、データサイエンティスト、経営コンサルタントといった、本学での学びが直接活かされる高度専門職に就いており、本プロジェクトの活動目的である、統計学を駆使して産業界等に貢献できる人材を育成してきたと言える。
- 博士後期課程についても、本育成システムに2025年度時点で9名の学生が参加しており、2026年度には新たに9名が進学・編入学する。博士後期段階では、より高度な統計的方法論の深化と研究指導を通じ、研究者および実務におけるリーダーとしての育成を進めている。

## 兵庫県立大学

- 第一期プロジェクト参加者である助教は、大学統計教員育成課程を修了し、統計エキスパートとしての専門性も評価されて、関西大学ビジネスデータサイエンス学部准教授として、その開設と教育に従事され、活躍されている。

## 広島大学

- 統計エキスパート人材を養成するためのインフラ整備（PC環境等ハードウェア＋統計分析用ソフトウェア、仮想PC環境の構築によるリモートPC運用など）と運用を進めた。併せて統計関連書籍の拡充を進めた。
- 委託調査により、英国・欧州統計教育の現状および米国における高等教育制度の最新動向（マイクロクレデンシャルの現状とそれを利活用した統計教育の動向／オープンバッジ等デジタル証明によるクレデンシャル授与の現状／社会科学系統計データアーカイブと統計教育の動向）に関する調査研究および資料情報の整理を進めた。成果は2023年度統計関連連合大会での発表および統計専門誌エストレーラへの寄稿としてまとめ、それら報告に基づいて「マイクロクレデンシャル」を活用した統計教育の短期訓練プログラムの視覚化を検討した。
- 研修期間中に積極的に学会発表や論文投稿を行った。具体的には、統計関連学会連合大会、実験社会科学カンファレンス、大学入試学会、Higher Education Research Asia、The Japanese Society for Quantitative Political Science、Joint Quantitative Political Science Conference for Asia and Australasiaなどでの発表を行った。また論文成果としては、『行動計量学』『統計数理』『International Journal of Educational Research』へ採択された。また大学入試学会において研修対象者の共同研究が発表賞（2023–2024年度）を受賞した。
- 令和7年度から、研修対象者は広島大学人間社会科学研究科教育データサイエンスプログラムの兼任教員となり、研修の成果を「教育学・心理学研究法」の授業にてビッグデータ分析の講義、「教育におけるデータサイエンス活用法」の授業にて因果推論の講義として結実させた。
- 大学院授業にhootfolio社が開発したcausal analysisを導入し、数学や統計学に苦手意識を感じる院生に対しても統計分析をシームレスに導入できるように環境整備を行った。
- 研修対象者は、hootfolio社との連携や意見交換を通じてその能力が認められ研究開発顧問として迎え入れられるとともに、データサイエンス系院生をhootfolio社のインターンに送り込むルートを開拓した。

- 本コンソーシアムへの加入以降、本学では大学院修士課程レベルの統計的知識を有する人材の育成に資することを目的として、大学院生の研究活動における統計的素養の向上に向けた取り組みを進めてきた。
- プロジェクト開始当初は、大学院生が統計に関する情報を得られる環境を整備するため、北海道大学の教育システムであるELMS内に情報共有のためのグループを新たに開設し、大学院生の登録や資料提供の方法について検討を行った。また、大学院生が自身の研究において統計的手法に関する課題に直面した際に相談できるよう、統計相談コーナーの設置を検討し、研修育成対象者が対応する対面相談の場や、統計ソフトウェアを用いた具体的な支援方法について準備を進めた。
- その後は、これらの取組を基盤として、統計に関する学習資料の共有方法、対象学生への周知、相談対応の進め方などについて継続的に整理を行った。特に、大学院生が研究計画、データ解析、結果の解釈、論文作成の過程で統計的な判断を必要とする場面を想定し、研修で得られた知識を研究指導や論文作成指導の中で還元することを意識した。これにより、単に資料を提供するだけでなく、学生が自身の研究課題に即して統計的な考え方を確認できるような支援の在り方について検討を深めた。
- また、統計相談については、大学院生から想定される相談内容や対応可能な範囲を整理し、必要に応じて研究指導の場面で統計手法の選択、解析結果の解釈、発表資料や論文中での統計結果の示し方などについて助言を行った。これにより、統計相談を独立した窓口としてのみ位置付けるのではなく、日常的な教育・研究指導の中で統計的支援を行う形へと展開した。
- これらの取り組みを通じて、本学では、ELMSを活用した統計情報の共有、統計相談に向けた体制整備、ならびに研究指導における統計的助言を段階的に進めてきた。プロジェクト期間を通じて、研修で得られた知識を大学院教育および研究支援へ還元するための基盤を整備し、大学院生が自身の研究に統計的視点を取り入れるための支援体制の形成につなげることができた。

- 当参画機関は、令和5年度に加入したため、令和7年度までの3年間の取組状況と成果等を報告する。
- 加入当初の令和5年度は、令和6年度から第3期の研修に参加する助教の、主として教育活動での環境を中心に整備した。具体的には、教育用のPCの設置と図書等の購入であった。PCは研修者が実際に学生を教育することを想定し、通常は教室として使われていない自由度の高い居室を配当した。図書等についても、第3期研修対象者が参考とする書籍や教材開発のために参考にすべき視聴覚教材を購入している。
- 令和6年度については第3期研修に参加した助教が、自身の担当する統計学関係の科目において使用することを想定し、データを購入した。当該データは、本学熊谷キャンパスの大学院生の約半数を占める文系学生にも興味を持てるよう、また、理系学生にも就職という観点で興味のある企業財務データを選定している。
- 令和7年度については第3期研修参加者が大学院生に対する統計教育を行うことを目指し、科目聴講制度の運用を開始した。実際には聴講希望者を得ることができず、大学院生を対象とした統計教育に携わる計画は実現しなかった。第4期研修参加者については、研修初年度であることを考慮して、令和7年度については研修受講を優先してもらったが、来年度には同様に聴講の対応に当たる。
- 本来は大学院科目として教育環境を整備することが望ましいが、当機関においては研究科の設置が未了であることから、暫定的な措置として科目聴講制度による運用を行っている。今後は、当機関を基礎学部とする研究科を設置し、段階的に体制の整備を進めていく計画である。
- 令和6年度については第3期研修に参加した助教が、自身の担当する統計学関係の科目において使用することを想定し、データを購入した。当該データは、本学熊谷キャンパスの大学院生の約半数を占める文系学生にも興味を持てるよう、また、理系学生にも就職という観点で興味のある企業財務データを選定している。
- 令和7年度については第3期研修参加者が大学院生に対する統計教育を行うことを目指し、科目聴講制度の運用を開始した。実際には聴講希望者を得ることができず、大学院生を対象とした統計教育に携わる計画は実現しなかった。第4期研修参加者については、研修初年度であることを考慮して、令和7年度については研修受講を優先してもらったが、来年度には同様に聴講の対応に当たる。
- 本来は大学院科目として教育環境を整備することが望ましいが、当機関においては研究科の設置が未了であることから、暫定的な措置として科目聴講制度による運用を行っている。今後は、当機関を基礎学部とする研究科を設置し、段階的に体制の整備を進めていく計画である。

本学では、事業期間を通じて所属大学院生を、統計学・データサイエンスの基礎を理解した上でその知見を自身の専門分野における学術研究や産業界等に展開可能な統計エキスパートとして育成するシステムの構築・推進に取り組んできた。5年間の取組は大きく以下の2点に整理される。

## 1. 統計エキスパート育成システムの構築・推進

専攻を問わず全大学院生がデータサイエンスの基礎を習得できるよう、オンデマンド講義を中心とした教育体制を整備・拡充してきた。初年度（2021年度）には、全学公開オンデマンド科目「データ科学入門（ $\alpha, \beta, \gamma, \delta$ ）」の授業コンテンツの改善と英語化に着手し、「Introduction to Data Science  $\alpha$ 」の英語コンテンツ（スライド資料・動画・演習問題等）を作成した。以降、英語科目を含む新規科目の開設を段階的に進め、留学生を含む多くの大学院生に統計学・データサイエンスを学ぶ機会を提供してきた。最終年度（2025年度）には、生成AIの普及を踏まえた関連科目の検討を深め、令和8年度の新規科目立ち上げを決定した。また、オンデマンド科目の質の向上と受講生サポートのため、Learning Assistant（LA）が常駐するMath and Stat Center（MSC）の運営・充実化を継続的に推進した。MSCでは統計学・データサイエンスに関する対面・オンラインでの質問対応を行うとともに、LAによるコンテンツチェックや受講生アンケートを通じた継続的な教材改善を実施してきた。設備面では、指導用PC・モニター・参考文献等を計画的に整備した。

## 2. 研修育成対象者の研修環境の整備

2023年度以降、第2期・第3期の研修育成対象者が研修に専念できる環境整備に取り組んだ。育成対象者の業務範囲は、学内向けオンデマンド講義の構築・運用から学外企業・他大学と連携したデータ科学研究教育の推進まで広範にわたる。そこで以下の2点を柱として環境を整備した。

第一に、育成対象者自身の研究環境の整備として、分析用ワークステーション・ノートPC等の機器、生成AI（ChatGPT）・翻訳ソフト（DeepL）等のソフトウェア利用環境、学会参加費・論文掲載費等の研究発表支援、さらに広報記事制作や英語化作業の外部委託による業務軽減を実施した。

第二に、育成対象者の研修時間を確保するため、センター内他教員が複数名で育成対象者の業務を代替する体制を構築した。代替業務（既存科目の英語化・新規科目立ち上げ・コンテンツ改善等）を効率的に遂行するためのPC・モニター・動画撮影用ソフトウェア・書籍等を整備した。

これらの研修環境整備の結果、第2期・第3期育成対象者の研究活動は着実に進展し、具体的な成果として学会発表および論文発表に結びついた。実績は、2023年度に口頭発表1件、2024年度に口頭発表9件・論文4件、2025年度に口頭発表13件・論文3件であり、3年間の合計で口頭発表23件・論文7件に達した。年度を追うごとに発表件数が増加しており、研修環境の整備が育成対象者の研究活動の活性化に大きく寄与したといえる。

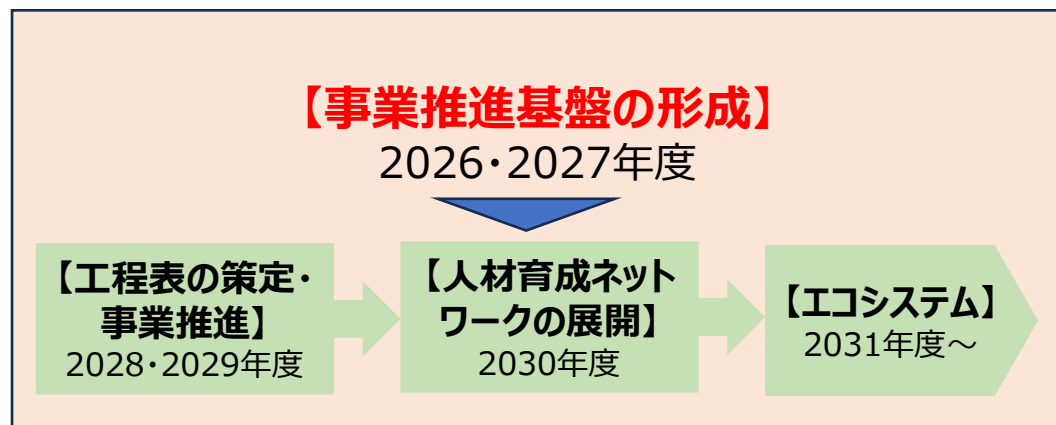


# 2026年度 事業計画

## -AI時代を支える統計エキスパート人材育成-

令和 8 年 8 月 3 1 日  
統 計 数 理 研 究 所  
大学統計教員育成センター

# I.2026年度事業計画のポイント・主なスケジュール



## 2026年度

1. コンソーシアムの機能強化・裾野の拡大
2. 大学等拠点モデルの整備に向けた調査研究の実施
3. 短期集中型研修プログラムの開発
4. 新研修プログラムの開発
5. 新研修プログラムの実施・必要な体制整備
6. 必要な環境整備・周知等

## ■ 2026年度の主なスケジュール

※ FU研修 = フォローアップ研修

|         |                         |                          |
|---------|-------------------------|--------------------------|
| 2026年4月 | 新たな人材育成事業公募開始(4/13)     | 第4期研修第3クール開始             |
| 5月      | 新たな人材育成事業への応募申請(5/19)   |                          |
| 6月      | 事業採択(7/3)・補助金交付決定(7/24) | 第13回中間報告会（統計数理研究所 6/24）  |
| 7月      | 第26回コンソーシアム運営委員会        | 新育成研修 研修生募集、FU研修試行       |
| 8月      | 2026年度総会                | 新育成研修 募集締切・選考            |
| 9月      | 第27回コンソーシアム運営委員会        | 統計関連学会（横浜市立大学。9/7）成果発表   |
| 10月     |                         | 新第1期育成研修 開講式・第1クール開始     |
| 11月     | 第5回コンソーシアムワークショップ       | 第14回研修成果発表会（滋賀大学 11/25）  |
| 12月     | 第28回コンソーシアム運営委員会        |                          |
| 2027年1月 |                         | 第15回研修成果発表会（九州大学 1/26）   |
| 3月      | 第29回コンソーシアム運営委員会        | 新第1期育成研修第1クール終了、第4期研修修了式 |

# Ⅱ. 2026年度 事業計画

## 1. コンソーシアムの機能強化・裾野の拡大

- 「中核機関」（統計数理研究所）及び「協働機関」（滋賀大学）から構成される「中核機関群」による事業運営を開始。
- 中核機関群は、「コンソーシアム運営委員会」（四半期ごと目途に開催）の意見も聴取した上で、AI時代を支える高度統計人材を育成するネットワークとしての機能を発揮する基盤となるコンソーシアム規約を改正し、コンソーシアム会員の役割を見直し。
- 役割の見直しとして、コンソーシアムの会員類型に、新たな会員区分「連携機関」を設け、データサイエンス系学部学科設置校など、データサイエンス・AIの基盤となる統計学の高度人材へのニーズを有する大学等に幅広く加入を働き掛けるなどして、コンソーシアムの裾野拡大に着手。

## 2. 大学等拠点モデルの整備に向けた調査研究の実施

- 「大学等拠点」において備えるべき実施体制や構築すべき属性（分野、地域等）、運用実施に係る経費、潜在的な人材育成のニーズ、変化し続けるAI時代において育成すべき人材像、実現可能性などを検討するため、中核機関は、協働機関への委託等により大学等拠点モデルの構築に必要となる調査研究を実施。

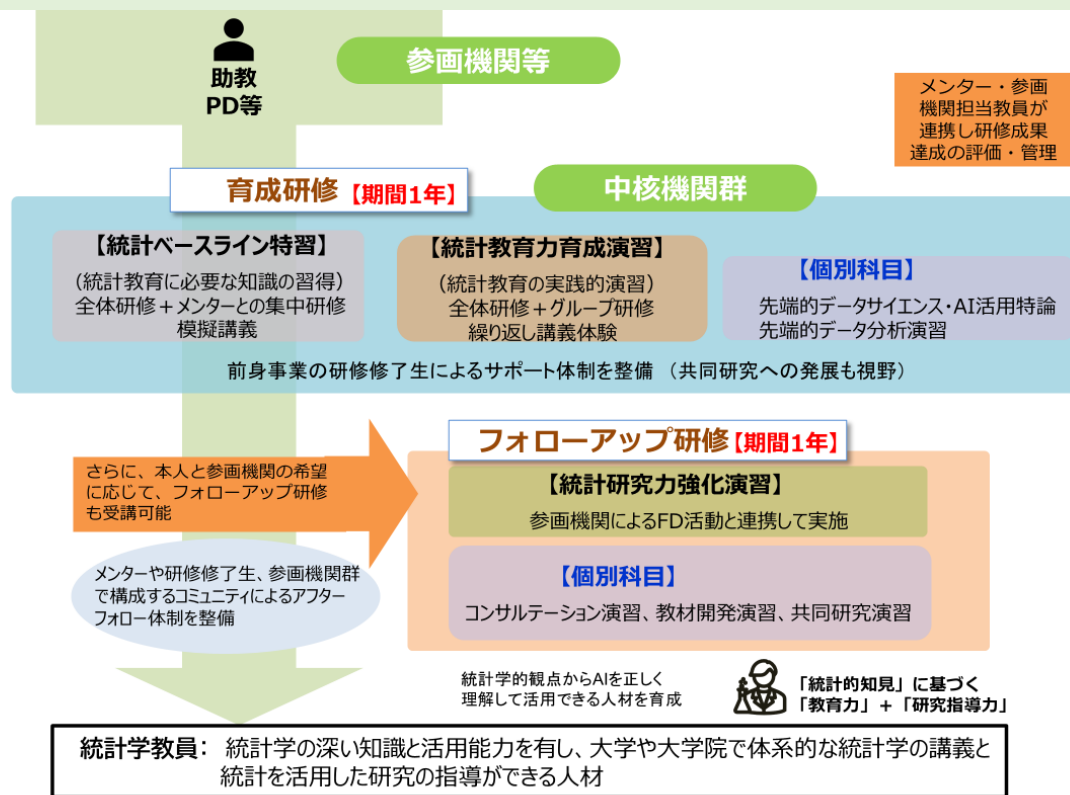
## 3. 短期集中型研修プログラムの開発

- 中核機関は、AI時代における統計学の展開の一環として、データサイエンス・AIの基盤となる統計学の高度人材へのニーズを有する社会人データ活用指導者層や、データサイエンス系学部設置校の統計学担当教員等を対象とした学び直し等の「短期集中型研修プログラム」を開発。

## 4. 新研修プログラムの開発

- 中核機関群は、前身事業「統計エキスパート人材育成プロジェクト」において開発した期間 2 年の「大学統計教員育成研修」の教材・ノウハウ等を活用し、期間 1 年の「育成研修」と、その修了者（希望者等）を対象とする期間 1 年の「フォローアップ研修」から構成される「新研修プログラム」を開発【参考1】。
- 新研修プログラムの開発に当たっては、統計学とAIの接続という観点にも留意し、AI時代において必要なカリキュラムを含めて検討。フォローアップ研修に関しては、本年度は試行的取組と位置付け、中核機関において適切な対象者を定めて検証した上で開発。

### 【参考1】 育成研修・フォローアップ研修プログラムの全体イメージ



## 5.新研修プログラムの実施・必要な体制整備

- 中核機関群は、新研修プログラムにより、令和8（2026）年10月から育成研修を開始。研修生募集に当たっては、ポスドクや客員研究員を始め、幅広い若手研究者の応募を可能とする方向で検討。加えて、様々な機会を活用して募集説明を行うなどして、新研修プログラムの趣旨・内容等の幅広く周知。
- 中核機関群は、コンソーシアム会員機関とも連携し、研修開始時には2名のメンター教員を増員して11名の体制とするなど、研修を的確に実施できる体制を整備することにより【参考3】、育成する統計学教員の質を確保しつつ、効率的に研修を実施。

### 【参考2】 育成研修・フォローアップ研修 の想定スケジュール

※ FU研修＝フォローアップ研修

| 研 修   | 2026年度          | 2027年度       | 2028年度       | 2029年度       | 2030年度       |
|-------|-----------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 第1期研修 | 育成 →            |              |              |              |              |
|       | FU 試行 - - - - - | FU - - - - - |              |              |              |
| 第2期研修 |                 | 育成 →         |              |              |              |
|       |                 |              | FU - - - - - |              |              |
| 第3期研修 |                 |              | 育成 →         |              |              |
|       |                 |              |              | FU - - - - - |              |
| 第4期研修 |                 |              |              | 育成 →         |              |
|       |                 |              |              |              | FU - - - - - |

### 【参考3】 育成研修・フォローアップ研修 のメンター体制

| 氏 名     | 最 終 学 歴・学 位                              | 主 な 職 歴・社 会 貢 献                                               |
|---------|------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| 赤穂 昭太郎※ | 東京大学 大学院工学系研究科 計数工学専攻・工学博士               | 産業技術総合研究所 上級主任研究員・同人工知能研究センター、理化学研究所 深層学習理論チーム客員研究員           |
| 岩崎 学    | 東京理科大学 大学院理学研究科 数学専攻・理学博士                | 横浜市立大学 データサイエンス学部 教授・学部長。統計関連学会連合 理事長、日本統計学会 会長・理事長、応用統計学会 会長 |
| 越智 義道※  | 米国ワシントン大学 大学院生物統計学科修了・学術博士               | 大分大学 理工学部 教授・学部長。日本計量生物学会 理事、日本計算機統計学会 評議員、応用統計学会 評議員         |
| 折笠 秀樹   | 米国ノースキャロライナ大学 大学院生物統計学科修了・学術博士           | 富山大学 医学部 教授。日本臨床薬理学会 評議員、日本計量生物学会 理事・評議員、応用統計学会 評議員           |
| 国友 直人   | 米国スタンフォード大学 大学院統計学科・経済学研究科修了・統計学修士・経済学博士 | 東京大学経済学部 教授・学部長、明治大学 政治経済学部 教授。日本統計学会 会長、内閣府社会経済研究所 研究員       |
| 栗木 哲※   | 東京大学 大学院工学系研究科 計数工学専攻・工学博士               | 統計数理研究所 統計思考院長・教授。横断型基幹科学技術研究団体連合 理事、応用統計学会 副会長、日本統計学会 代議員    |
| 佐藤 俊哉   | 東京大学 大学院医学系研究科保健学専攻博士課程修了・保健学博士          | 京都大学 大学院医学研究科医療統計学 教授。日本計量生物学会 会長、日本薬剤疫学会 評議員、国際計量生物学会 評議員    |
| 清水 邦夫   | 東京理科大学 大学院理学研究科数学専攻・理学博士                 | 東京理科大学 理学部 教授、慶應義塾大学 理工学部 教授。応用統計学会 会長、日本統計学会 代議員             |
| 神保 雅一   | 東京工業大学 理工学研究科情報科学専攻・理学博士                 | 慶應義塾大学 理工学部 教授、名古屋大学 情報科学研究科 教授。日本統計学会 代議員、応用統計学会 監事          |
| 水田 正弘   | 北海道大学 大学院工学研究科情報工学専攻博士後期課程修了・工学博士        | 北海道大学 情報基盤センター 教授。日本計算機統計学会 会長、応用統計学会 副会長                     |
| 三輪 哲久   | 東京大学 大学院工学系研究科計数工学専攻・工学博士                | 独立行政法人農業環境技術研究所 生態系計測研究領域長。応用統計学会 副会長、日本計量生物学会 理事             |

※ 2026年度の新規メンター（増員・交代）

## 6. 必要な環境整備・周知

- 中核機関は、上記①から⑤の取組に必要な設備・人員を確保するとともに、研修生が研修に専念できる環境を可能な限り整備するなどの支援【参考4・5】。
- 中核機関は、コンソーシアム・ホームページの掲載情報の充実や、統計関連学会連合大会・他分野学会等における研修生の成果発表などを通じて、統計コミュニティにとどまらず、様々な分野や産業界に向けて本事業や研修成果等を発信し、積極的なアウトリーチを推進。

### 【参考4】 2026年度事業予算の概要

(単位：千円)

| 費 目  |           | 補助事業費            |                 |                | 備 考                     |
|------|-----------|------------------|-----------------|----------------|-------------------------|
|      |           | 2026年度<br>申請時予算案 | 2025年度<br>申請時予算 | 2025年度<br>執行実績 |                         |
| 直接経費 |           | 176,800          | 180,000         | 179,309        |                         |
|      | 設 備 備 品 費 | 2,400            | 600             | 0              | 必要最低限の備品更新              |
|      | 人 件 費     | 59,500           | 91,896          | 88,358         | 交付対象期間（8か月）・単価改定等による減   |
|      | 事 業 実 施 費 | 114,900          | 87,504          | 90,950         | 調査研究、新研修プログラム開発等の実施による増 |
| 間接経費 |           | 53,040           | 54,000          | 53,799         | 直接経費交付予定額の減額による減        |
| 合 計  |           | 229,840          | 234,000         | 233,108        |                         |

※ 「2025年度執行実績」については、文部科学省による補助金額の確定調査結果によっては、変更が生じ得る。

## 【参考5】 育成研修・試行FU研修に対する支援の概要

| 支援区分                 | 支援の概要                                                               | 具体的な支援内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|----------------------|---------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 研修用テキストの配布支援         | FU研修試行及び第1期育成研修の実施に必要な研修用テキストを無償配布。                                 | 研修部会議において検討・決定された研修用テキストは、中核機関において購入の上、各研修生に直接配布。                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| FU研修の試行的な取組に対する個別支援  | 前身事業の第4期研修をFU研修の試行的取組と位置付け、各研修生に対して支援を行うことにより、FU研修実施の際の効率的な支援方策を検討。 | 国庫補助金交付決定の日～2027年（令和9年）3月末までを対象に、 <u>研修生1人当たり 550千円を上限として、</u> 研修参加に必要な①旅費、②学会等参加費、③10万円未満の物品購入、④クラウドサービス利用料、⑤統計検定受験料、⑥成果論文翻訳・査読料などを、 <u>中核機関から直接執行。</u><br>加えて、個別上限額を超える国際学会等への参加旅費、成果論文翻訳・投稿料、分析用データ購入費などの一部を <u>追加支援</u> する計画（直接執行による支援範囲・上限額等は精査中。）。                                                                                          |
| 新第1期育成研修の参加に必要な経費支援  | 新第1期育成研修参加者に対し、研修参加・学会発表等の経費や、研修に専念できる環境の整備に係る経費などを支援               | 研修開講の10月～2027年（令和9年）3月までの6か月を対象に、研修参加に必要な①旅費、②学会等参加費、③PC等の購入などの経費を、所属参画機関経由（委託費）又は中核機関から直接支援。<br>【所属参画機関経由（研修生と参画機関との間に雇用関係有り）】<br>研修生1人当たり 900千円に管理費270千円（30%）を加えた1,170千円を委託費として配分（2027年（令和9年）4月～9月についても同額の支援。研修期間1年間で計2,340千円）<br>【中核機関直接（研修生と参画機関との間に雇用関係なし）】<br>研修生1人当たり 900千円（2027年（令和9年）4月～9月についても同額の支援。研修期間1年間で計1,800千円）を上限として、中核機関から直接支援。 |
| チューター教員による研修生への助言等支援 | 前身事業の第1～3期研修修了生の一部をチューター教員として確保し、研修と研修生を支援                          | 中核機関又は協働機関（滋賀大学）において、第1～3期研修修了生のうち若干名を確保し、育成研修・FU研修の実施の支援や、研修生からの相談対応・アドバイス等の支援。                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 統計数理研究所サテライトの管理運営支援  | 滋賀大学における統計数理研究所サテライトの管理・運営を支援                                       | 支援内容・支援経費については、協働機関（滋賀大学）と調整の上決定。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

※ FU研修＝フォローアップ研修

## 第1期統計学教員育成研修の募集概要・選考体制

令和8年（2026年）8月31日

- 【研修生の募集】 2026年10月の第1期研修開講に向け、参画機関を始め数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムなどとも連携し、データサイエンス系学科設置校や統計学の高度人材ニーズを有する大学等に研修生の推薦を幅広く働き掛けた結果、コンソーシアム内外の機関から多数の応募
- 【第1期研修生の選考】 前身事業と同様、コンソーシアム選考委員会※を設置して客観的な審査の下に選考を行い、9月中下旬頃に研修生を決定。
  - ※ 中核機関のメンター教員3名及び今期は推薦のない参画機関事業担当教員3名から構成
- 【第1期研修の規模】 公募申請書の人材育成計画や選考委員会における議論を踏まえて精査。

### ●スケジュール（予定）

- ・ 2026年7月：参画機関への参加推薦依頼発出、
- ・ 2024年8月中旬：参加応募書類の提出締切
- ・ 2026年8月中旬～9月中下旬：コンソーシアム選考委員会による選考、コンソーシアム運営委員会への報告
- ・ 2026年10月：開講式・ガイダンス後、研修開始

### ●応募の要件

- ・ 専門学術領域における研究指導能力（**博士学位**を取得又は取得見込み）
- ・ 統計科学の基礎知識（**統計検定2級相当の知識**）と統計的方法の利活用経験
- ・ 大学統計教員として統計エキスパートの育成に積極的に**貢献する意欲**
- ・ 研修修了後、日本の大学・大学院において円滑に講義等を実施できること
  - ※ 提出書類の一つとして、**育成対象者への「研修期間中の支援」**についても提出

# 統計学教員育成研修 研修計画

統計数理研究所  
大学統計教員育成センター 研修部

## 1. 研修の目的

データサイエンス・AIの基盤である「統計学」全般を体系的に教え、機械学習・ディープラーニング等の基礎となる統計的思考・手法を活用した研究・指導を行うことのできる質保証された統計学教員を育成する。

## 2. 研修の構成

「統計学教員育成研修」（育成研修）は、履修期間 1 年間の研修であり、半年ごとに第 1 クール、第 2 クールに分けて実施する。（「達成度管理WG」(研修生・所属機関教員・メンター等)により、進捗状況を確認）

育成研修修了者のうち、本人及び所属機関が希望し研修部が受講を認める者に対しては、これに加えて、履修期間 1 年間の「統計学教員育成フォローアップ研修」（フォローアップ研修）を実施する。

いずれの研修も、オンライン研修を中心とする方法により実施する。

（グループ研修では、研修生とメンターの相談により、対面研修で実施することがある）

（「研修成果発表会」(年3回程度)、「統計関連学会連合大会」(年1回)などで、対面により研究成果を発表）

## 3. 研修の目標

統計学の深い知識と活用能力を有し、大学院修士課程学生に次の講義を行えること

育成研修 第1クール： 基本的な統計学の講義

〃 第2クール： 発展的な統計学の講義

フォローアップ研修： 専門分野と統計学が融合した講義

## 4. 研修修了の認定

研修生が別紙の修了要件を満たした場合、それぞれ「統計学教員育成研修 修了者」、「統計学教員育成フォローアップ研修修了者」として認定し、修了証・履修証明書を交付する。

## 5. 研修の科目

研修の科目は、下記に示す「基礎科目」（必修科目）と「個別科目」（選択科目）である。

「育成研修」では、基礎科目（A・B）を全員が受講する。さらに、先端的データサイエンス特論など、できる限り多くの個別科目を受講することを期待する。

「フォローアップ研修」では、基礎科目（C）を全員が受講する。さらに、教材開発演習、共同研究演習などから 1 つ以上を、研修生・所属機関・研修部との相談により決定し、個別科目として受講する。

## 【育成研修の科目】

基礎科目（必修科目）：各クールにおいて、次のA・Bを全員が履修

A：統計ベースライン特習 ～統計学の知識の向上

① 全体研修：全員参加のオンライン研修

研修生がクールごとに模擬講義を行い、また、他の研修生の模擬講義に参加することを通じて、統計学の基礎的な知識(第1クール)・発展的な知識(第2クール)を習得

② グループ研修：メンターごとの少人数グループによる個別指導（オンラインまたは対面）

メンターごとに1ヶ月に数回・各2時間程度実施、統計学の知識を習得

B：統計教育力育成演習 ～統計学の講義の体験、講義方法の研究・改善

① 全体研修：全員参加のオンライン研修

研修生がクールごとに公開模擬講義を行って実践的な講義体験を重ね、また、他の研修生の公開模擬講義に参加することを通じて、講義方法を研究・改善

（Aと合わせ、クールごとに2回・合計4回の模擬講義を実施、多数の模擬講義に参加）

② グループ研修：メンターごとの少人数グループによる個別指導（オンラインまたは対面）

メンターごとに1ヶ月に数回・各2時間程度実施、シラバス・教材等を研究・開発

個別科目（選択科目）：各クールにおいて、次の科目を選択して受講

○ 先端的データサイエンス特論、先端的データ分析演習

数種類の講座を、それぞれ5～13回（1回90分程度）、オンラインにより開講（各2～3か月程度）

研修生はそれらの講座の中から選択して受講し、レポートを提出

<オンライン講座の例>

先端的データサイエンス特論（統計的因果推論）

先端的データサイエンス特論（機械学習基礎）

先端的データサイエンス特論（方向統計学）

先端的データサイエンス特論（社会の中の統計科学）

先端的データ分析演習（Python）

先端的データ分析演習（R環境） など

## 【フォローアップ研修の科目】

基礎科目（必修科目）：研修受講者全員が次の科目を履修

C：統計研究力強化演習 ～研修生の専門分野の研究教育能力の向上

所属参画機関でのFD活動を通じ、修士学生等を対象とした講義を実施・提案するなど、専門分野における実践的な研究教育能力を向上

個別科目（選択科目）：研修生の専門性や関心に基づき、次の科目を選択して受講

それぞれ1年程度必要と考えられる演習であり、1つ以上を選択することが望ましい

### ○ 教材開発演習

専門分野と統計学が融合した講義の教材の作成を始め、e-learning教材や動画教材の作成、教科書の執筆など、多岐にわたる教材の開発や統計学教育法の開発が考えられる。

### ○ 共同研究演習

他の専門分野の研修生や多岐にわたる統計手法を熟知するシニア教員との交流を通じて発展させ、新たな視点など研究領域の広がりを目指す共同研究で、その成果は学会発表や研究論文で示される。

### ○ コンサルテーション演習

官庁や企業などから相談や依頼を受け、統計学の実践的な知識を活用したコンサルテーションを行う。内容によっては、共同研究に発展する可能性がある。

## 【育成研修】 修了認定の要件

| 科目名（基礎科目）                                   | 重み                            | 評価内容          |
|---------------------------------------------|-------------------------------|---------------|
| 統計ベースライン特習                                  | 必修                            | 模擬講義＋グループ研修   |
| 統計教育力育成演習                                   | 必修                            | 模擬講義＋グループ研修   |
| 統計検定 2 級                                    | 必修                            | 受験合格          |
| 科目名（個別科目）                                   | 重み                            | 内容            |
| 先端的データサイエンス特論（トピックス名）<br>先端的データ分析演習（トピックス名） | 20～40<br>（研修部で決定）             | 講義参加＋レポート     |
| 統計検定準 1 級                                   | 30                            | 受験合格          |
| 統計検定 1 級                                    | ～50<br>（研修部で決定）               | 受験（受験後の評価を提出） |
| 修了認定要件                                      | 基礎科目 及び<br>合計60以上の<br>個別科目の習得 |               |

## 【フォローアップ研修】 修了認定の要件

| 科目名（基礎科目）                       | 重み                       | 評価内容       |
|---------------------------------|--------------------------|------------|
| 統計研究力強化演習                       | 必修                       | F D 活動     |
| 科目名（個別科目）                       | 重み                       | 評価内容       |
| 教材開発演習<br>共同研究演習<br>コンサルテーション演習 | 選択必修                     | 演習の参加＋レポート |
| 修了認定要件                          | 基礎科目 及び<br>1 つ以上の個別科目の習得 |            |

## 2026年度コンソーシアム運営委員会の体制

2026年8月31日

### 【中核機関】

|       |                         |       |
|-------|-------------------------|-------|
| 山下 智志 | (統計数理研究所長)              | 【委員長】 |
| 川崎 能典 | (統計数理研究所副所長)            |       |
| 千野 雅人 | (統計数理研究所 大学統計教員育成センター長) |       |
| 水田 正弘 | (大学統計教員育成センター研修部長・研修主幹) |       |
| 越智 義道 | (同センター 研修部 教育システム開発主幹)  |       |

### 【協働機関】

|       |                      |         |
|-------|----------------------|---------|
| 佐藤 健一 | (滋賀大学 データサイエンス学部 教授) | 【委員長代理】 |
|-------|----------------------|---------|

### 【参画機関】

|       |                                |
|-------|--------------------------------|
| 青木 悠樹 | (群馬大学 数理データ科学教育研究センター センター長)   |
| 赤倉 貴子 | (東京理科大学 データサイエンスセンター センター長)    |
| 梶原 健司 | (九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 所長)     |
| 洒井 哲也 | (早稲田大学 データ科学センター 所長)           |
| 杉本 知之 | (大阪大学 数理・データ科学教育研究センター 副センター長) |
| 宿久 洋  | (同志社大学 大学院文化情報学研究科 教授)         |
| 渡部 敏明 | (一橋大学 ソーシャル・データサイエンス研究科 特任教授)  |

### 【事務局】

|       |                             |
|-------|-----------------------------|
| 澤村 保則 | (統計数理研究所 大学統計教員育成センター 統括部長) |
|-------|-----------------------------|

## 2026 年度統計エキスパート人材育成コンソーシアム総会 参加者一覧

令和8年8月31日

### 【協働機関】

|      |                      |     |       |
|------|----------------------|-----|-------|
| 滋賀大学 |                      | 学長  | 竹村 彰通 |
| 〃    | 大学院データサイエンス研究科       | 教授  | 佐藤 健一 |
| 〃    | 〃                    | 教授  | 青木 敏  |
| 〃    | 〃                    | 教授  | 笛田 薫  |
| 〃    | 〃                    | 准教授 | 松島 裕康 |
| 〃    | 経済学部・データサイエンス学部共通事務部 | 副課長 | 橋本 良純 |
| 〃    | 〃                    |     | 福田 督司 |

### 【参画機関・特別会員】

|      |                    |      |       |
|------|--------------------|------|-------|
| 大阪大学 | 大学院医学系研究科          | 特任助教 | 安福 祐一 |
| 〃    | 〃                  | 助教   | 橋渡 貴司 |
| 〃    | 産業技術研究所            | 助教   | 木村 輔  |
| 岡山大学 | 学術研究院 先鋭研究領域（資源植物） | 教授   | 坂本 亘  |
| 〃    | 学務企画課              |      | 大下 洋一 |
| 九州大学 | マス・フォア・インダストリ研究所   | 所長   | 梶原 健司 |
| 〃    | 〃                  | 副所長  | 白井 朋之 |

|                      |                             |         |        |
|----------------------|-----------------------------|---------|--------|
| 九州大学                 | マス・フォア・インダストリ<br>研究所        | 教授      | 廣瀬 慧   |
| 京都大学                 | データ科学イノベーション教<br>育研究センター    | 特定講師    | 岡本 雅子  |
| 群馬大学                 | 大学院食健康科学研究科                 | 准教授     | 長井 万恵  |
| 慶應義塾大学               | 大学院健康マネジメント研究<br>科          | 教授      | 山本 渉   |
| 国立極地研究所              | 先端研究推進系 宙空圏研究<br>グループ       | 准教授     | 富川 喜弘  |
| 上智大学                 | 大学院応用データサイエンス<br>学位プログラム事務局 | チームリーダー | 北村 好一  |
| 〃                    | 〃                           |         | 寄田 義和  |
| 中央大学                 | AI・データサイエンスセン<br>ター         | 事務長     | 名達 誠一  |
| データサイエンス共同<br>利用基盤施設 | 社会データ構造化センター                | センター長   | 前田 忠彦  |
| 東京学芸大学               | 先端教育推進課                     | 副課長     | 岩澤 大介  |
| 〃                    | 〃                           | 企画係長    | 森田 雄彦  |
| 東京大学                 | 大学院経済学研究科                   | 教授      | 大森 裕浩  |
| 東京理科大学               | データサイエンスセンター                | センター長   | 赤倉 貴子  |
| 〃                    | 〃                           | 主任      | 西田 一稀  |
| 同志社大学                | 文化情報学部・文化情報学研<br>究科事務局      | 事務長     | 長谷川 健介 |
| 〃                    | 〃                           | 庶務・教務係長 | 河合 良彦  |
| 長崎大学                 | 情報データ科学部                    | 教授      | 植木 優夫  |
| 長崎大学                 | 情報データ科学部                    | 助教      | 北村 史   |
| 名古屋大学                | 大学院医学部・医学系研究科<br>生物統計科学分野   | 准教授     | 橋本 大哉  |
| 〃                    | 医学部・医学系研究科経営企<br>画課         |         | 岩田 眞佐江 |

|        |                           |      |       |
|--------|---------------------------|------|-------|
| 名古屋大学  | 大学院医学部・医学系研究科<br>生物統計科学分野 |      | 志賀 幾子 |
| 一橋大学   | ソーシャル・データサイエンス研究科         | 特任教授 | 渡部 敏明 |
| 兵庫県立大学 | 大学院情報科学研究科                | 教授   | 笹嶋 宗彦 |
| 北海道大学  | 大学院保健科学研究院                | 准教授  | 杉森 博行 |
| 立正大学   | データサイエンス学部                | 教授   | 西崎 文平 |
| 早稲田大学  | データ科学センター                 | 教授   | 野村 亮  |
| 大妻女子大学 | データサイエンス学部                | 専任講師 | 田島 友祐 |

※ 茨城大学、京都女子大学、東京科学大学、名古屋市立大学及び広島大学については、学事等の関係によりご欠席。

#### 【連携機関】

※ 統計質保証推進協会は、所用によりご欠席

#### 【中核機関】

|                           |                      |                       |       |
|---------------------------|----------------------|-----------------------|-------|
| 大学共同利用機関法人<br>情報・システム研究機構 | 統計数理研究所              | 所長                    | 山下 智志 |
| 〃                         | 〃                    | 副所長                   | 川崎 能典 |
| 〃                         | 統計数理研究所 統計思考院        | 院長                    | 日野 英逸 |
| 〃                         | 統計数理研究所 大学統計教員育成センター | センター長                 | 千野 雅人 |
| 〃                         | 〃                    | 統括部長                  | 澤村 保則 |
| 〃                         | 〃                    | 研修部長・研修主幹・シニア教員・特任教授  | 水田 正弘 |
| 大学共同利用機関法人<br>情報・システム研究機構 | 統計数理研究所 大学統計教員育成センター | 教育システム開発主幹・シニア教員・特任教授 | 越智 義道 |
| 〃                         | 〃                    | シニア教員・特任教授            | 折笠 秀樹 |

|                           |                     |         |                 |        |
|---------------------------|---------------------|---------|-----------------|--------|
| 大学共同利用機関法人<br>情報・システム研究機構 | 統計数理研究所<br>教員育成センター | 大学統計    | シニア教員・特<br>任教授  | 国友 直人  |
| 〃                         | 〃                   |         | シニア教員・特<br>任教授  | 栗木 哲   |
| 〃                         | 〃                   |         | シニア教員・特<br>任教授  | 佐藤 俊哉  |
| 〃                         | 〃                   |         | シニア教員・特<br>任教授  | 清水 邦夫  |
| 〃                         | 〃                   |         | シニア教員・特<br>任教授  | 神保 雅一  |
| 〃                         | 〃                   |         | シニア教員・特<br>任教授  | 三輪 哲久  |
| 〃                         | 〃                   |         | 研修部・教授          | 赤穂 昭太郎 |
| 〃                         | 〃                   |         | 研修部             | 橋本 渉   |
| 〃                         | 統計数理研究所             |         | 総務企画課副課<br>長    | 高木 博史  |
| 〃                         | 〃                   |         | 総務企画課総務<br>企画係長 | 茂木 諒平  |
| 〃                         | 統計数理研究所<br>成センター統括部 | 大学統計教員育 |                 | 山川 智子  |
| 【会員以外の参加者】                |                     |         |                 |        |
| 文部科学省研究振興局参<br>事官（情報担当）付  | 学術基盤整備室             |         | 室長              | 山本 武史  |
| 〃                         | 〃                   |         | 係長              | 濱崎 拓郎  |
| 〃                         | 〃                   |         |                 | 中野 智保  |



2025年5月28日

## 第5回 「統計エキスパート人材育成コンソーシアム」総会 結果概要

【日 時】 2025年5月28日(水) 10:30～11:22

【場 所】 オンライン会議 (ZOOMミーティング)

【参加者】 会 員： 中核機関、参画機関、協力機関及び特別会員 (別紙の49名)  
来 賓： 文部科学省 研究振興局 参事官(情報担当) 付 学術基盤整備室 土井室長  
ほか(別紙の4名)

### 【概 要】

#### ○ 開会挨拶

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所 山下智志 所長より、本プロジェクトが目指す今後の方向性や、現在の事業評価等について、以下の挨拶があった。

- ・ 昨今のデータサイエンスでは、Chat GTPを始めとするAI(人工知能)の社会への浸透が大きな話題となっている。AIを活用すれば何でも解決するという社会的風潮が熟成されているというイメージになっていることに、統計学的には大きな危機感を持っている。
- ・ AIがいくら発展しても、AIだけではデータサイエンスは成り立たない。また、統計学的視点があれば、データサイエンスを支えることはできないと考えている。
- ・ 例えば、AIのアウトプットをどのように評価するかは、統計学の守備範囲となっている。また、AIを活用する前段階のデータクレンジングは不要とする意見もあるが、何らかの取捨選択・加工が有効という意見もある。
- ・ AIだけで分析したとしても、統計学を活用せずに、それを評価して意思決定に反映することは困難であると考えている。AIがいくら発達したとしても、統計学自体の重要性は低下するどころか高まっている。
- ・ 本プロジェクトにおいては、AI的思考自体についてもカリキュラムに盛り込むなどした研修を実施している。基本的にはAIは逆風ではなく順風と考えている。
- ・ 今年度は、本プロジェクトも5年目を迎え、当初目標としていた第3期生の修了に加え、第4期生の育成も開始される。このように研修修了生の厚みが増すことにより、孫世代の統計エキスパートの育成や大学統計教員の後継者養成にも活かされ、統計エキスパートの数だけでなく質の向上にも繋がるものと考えている。
- ・ このような成果を上げることが出来たのも、会員機関のご尽力の賜物と考えており、引き続きのご支援・ご協力をお願いしたい。

#### ○ 来賓挨拶

文部科学省 研究振興局 参事官(情報担当) 付 学術基盤整備室 土井 大輔 室長より、以下の来賓挨拶があった。

- ・ 近年、データサイエンスを名称に含む学部・学科等の設置大学数が急速に増加するととも

に、AIの研究開発を始めとするデータ駆動型研究が進む中で、統計学の知識・活用が求められる場面が研究や産業のあらゆる分野で拡大している。また、大量かつ複雑なデータを適切に分析・解釈し、的確な意思決定に繋げることができる統計エキスパートの重要性は益々高まっている。

- ・ このような中、令和3年度から本プロジェクトを開始し、統計数理研究所を中核に多くの大学等との強力な連携の下、統計エキスパート人材の育成に取り組んでいただいている。
- ・ 本コンソーシアムの参画機関は、設立時の21機関から30機関に拡大するとともに、これまで計39名が研修プログラムに参加するなど、当初の目標を大幅に上回る成果を上げている。
- ・ このことについて、統計数理研究所及びコンソーシアム参画機関の皆さまのご尽力に、改めて敬意を表したい。
- ・ 本コンソーシアムの参画機関が担っている次世代の統計エキスパート人材育成の役割は、我が国における科学技術や産業の発展に大きく貢献するものと考えている。引き続き統計数理研修所を中核にコンソーシアムの力を結集して、統計エキスパート人材の育成に取り組まれるとともに、社会のニーズに沿った人材育成の取組が本事業終了後も発展的に継続できるよう、ステークホルダーとの対話を進めていただくことを期待している。

## ○ 議 事

- ・ 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所 山下智志 所長の議事進行により、以下の議題について審議した結果、会員からの異議や修正意見等は示されなかった。また、参画機関の取組状況について情報共有を行った。
  - 1.コンソーシアムの令和6年度（2024年度）事業報告について
  - 2.コンソーシアムの令和7年度（2025年度）事業計画について
  - 3.今後のコンソーシアム活動のあり方について
- ・ この審議結果を受けて、「令和6年度（2024年度）成果報告書」の作成を進め、文部科学省に提出するとともに、令和7年度（2025年度）事業計画に沿って、第3期研修・第4期研修の実施、研修修了者に対する支援など、コンソーシアムの活動を進めることとなった。また、運営委員会体制の一部変更とコンソーシアム規約の改正について、情報共有が行われた。

（以 上）

※文責：コンソーシアム事務局

## 別紙

### 統計エキスパート人材育成コンソーシアム 第5回総会 参加者一覧

令和7年5月28日

#### 【参画機関・特別会員】

|                  |                         |                 |        |
|------------------|-------------------------|-----------------|--------|
| 茨城大学             | 大学院農学研究科・農学部            | 准教授             | 庄山 紀久子 |
| 大阪大学             | 数理・データ科学教育研究センター        | センター長・基礎工学研究科教授 | 鈴木 讓   |
| 岡山大学             | 学術研究院 先鋭研究領域（資源植物）      | 教授              | 坂本 亘   |
| 〃                | 学務企画課                   |                 | 中島 雄二  |
| 九州大学             | マス・フォア・インダストリ研究所        | 所長              | 梶原 健司  |
| 京都女子大学           | 学術研究支援部研究企画課            |                 | 宗像 美香  |
| 京都大学             | データ科学イノベーション教育研究センター    | 特定講師            | 岡本 雅子  |
| 群馬大学             | 数理データ科学教育研究センター         | センター長           | 青木 悠樹  |
| 〃                | 食健康科学教育研究センター           | 准教授             | 長井 万恵  |
| 慶應義塾大学           | 大学院健康マネジメント研究科          | 教授              | 山本 渉   |
| 滋賀大学             | 大学院データサイエンス研究科          | 教授              | 佐藤 健一  |
| 〃                | 大学院データサイエンス研究科          | 准教授             | 松島 裕康  |
| 上智大学             | 大学院応用データサイエンス学位プログラム事務室 |                 | 北村 紘一  |
| 総合研究大学院大学        | 統計科学コース                 | コース長            | 吉本 敦   |
| 中央大学             | AI・データサイエンスセンター         | 事務長             | 石倉 孝一  |
| データサイエンス共同利用基盤施設 | 社会データ構造化センター            | センター長           | 前田 忠彦  |

|                      |                       |       |        |
|----------------------|-----------------------|-------|--------|
| データサイエンス共同<br>利用基盤施設 | 社会データ構造化センター          |       | 姉崎 沙紗佳 |
| 東京学芸大学               | 先端教育推進課               | 副課長   | 岩澤 大介  |
| 東京大学                 | 数理・情報教育研究センター         | センター長 | 駒木 文保  |
| 〃                    | 大学院経済学研究科             | 教授    | 大森 裕浩  |
| 東京理科大学               | データサイエンスセンター          | センター長 | 赤倉 貴子  |
| 同志社大学                | 大学院文化情報学研究科           | 教授    | 宿久 洋   |
| 長崎大学                 | 情報データ科学部              | 教授    | 植木 優夫  |
| 名古屋大学                | 医学部・医学系研究科経営企<br>画課   |       | 岩田 眞佐江 |
| 〃                    | 〃                     |       | 志賀 幾子  |
| 名古屋市立大学              | 大学院看護学研究科事務室          | 係長    | 毛利 周作  |
| 一橋大学                 | ソーシャル・データサイエン<br>ス研究科 | 特任講師  | 佐野 仁美  |
| 広島大学                 | 高等教育研究開発センター          | 教授    | 村澤 昌崇  |
| 立正大学                 | データサイエンス学部            | 教授    | 西崎 文平  |
| 早稲田大学                | データ科学センター             | 教授    | 野村 亮   |
| 大妻女子大学               | データサイエンス学部            | 講師    | 田島 友祐  |

※ 国立極地研究所、順天堂大学、東京科学大学、兵庫県立大学及び北海道大学については、  
学事等の関係によりご欠席。

#### 【協力機関】

※ 広島大学及び統計質保証推進協会は、学事等の関係によりご欠席

【中核機関】

大学共同利用機関法人  
情報・システム研究機構

|   |                             |                               |        |
|---|-----------------------------|-------------------------------|--------|
|   | 統計数理研究所                     | 所長                            | 山下 智志  |
|   | 〃                           | 副所長                           | 川崎 能典  |
| 〃 | 統計数理研究所 大学統計教員育<br>成センター    | センター長                         | 千野 雅人  |
| 〃 | 統計数理研究所 大学統計教員育<br>成センター    | 統括部長                          | 澤村 保則  |
| 〃 | 統計数理研究所 大学統計教員育<br>成センター    | 研修部長・研修<br>主幹・シニア教<br>員・特任教授  | 中西 寛子  |
| 〃 | 〃                           | 教育システム開<br>発主幹・シニア<br>教員・特任教授 | 水田 正弘  |
| 〃 | 〃                           | シニア教員・特<br>任教授                | 国友 直人  |
| 〃 | 〃                           | シニア教員・特<br>任教授                | 佐藤 俊哉  |
| 〃 | 〃                           | シニア教員・特<br>任教授                | 清水 邦夫  |
| 〃 | 〃                           | シニア教員・特<br>任教授                | 神保 雅一  |
| 〃 | 〃                           | シニア教員・特<br>任教授                | 三輪 哲久  |
| 〃 | 〃                           | 研修部・特任教<br>授                  | 赤穂 昭太郎 |
| 〃 | 〃                           | 研修部                           | 高柳 昌芳  |
| 〃 | 統計数理研究所                     | 管理部長                          | 鈴木 修二  |
| 〃 | 〃                           | 総務企画課総務<br>企画係長               | 茂木 諒平  |
| 〃 | 〃                           | 総務企画課研究<br>推進係長               | 昨間 勲   |
| 〃 | 〃                           | 総務企画課人<br>事・給与係長              | 笠川 勇将  |
| 〃 | 〃                           | 運営企画本部員                       | 木下 聡子  |
| 〃 | 統計数理研究所 大学統計教員育<br>成センター統括部 |                               | 市原 順子  |

【会員以外の参加者】

|                           |         |    |       |
|---------------------------|---------|----|-------|
| 文部科学省研究振興局参<br>事官（情報担当） 付 | 学術基盤整備室 | 室長 | 土井 大輔 |
| 〃                         | 〃       | 係長 | 濱崎 拓郎 |
| 〃                         | 〃       |    | 野一色 伸 |
| 〃                         | 〃       |    | 橘 風吉  |